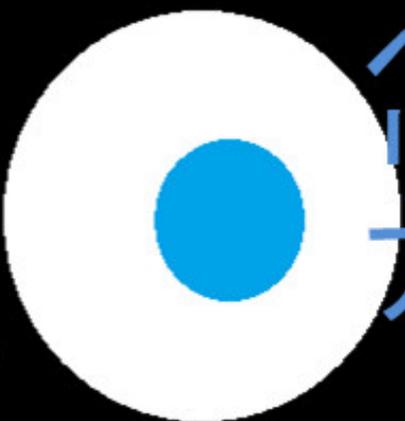


スーペリアー



をみつけた。

エイゾウ



# 目次



スーペリアーをみつけた。

エイゾウ

はじめに

サクネンあきにかきあげ、いまやっどヘンシュウにはいった。それもイッケン、ニケンほかのしごとをしていたからだが、データになるとケンサクしやすいというメリットがある。ゴゾンジのかたもおられようが、わたしのズイヒツは、テーマごとにまとまっていない。だから、あるテーマのギロンのすすみぐあいは、ケンサクによってハイクするのがもっともはやいホウホウである。ダイジなテーマについては、おぼえているつもりだが、それでもふりかえることがある。そういうイミでゲンダイブンメイにおセワになっている。

もうさくらがさきはじめ、まもなくマンカイになるという。そうやってダンダンとしをかきねていく。「わたし」もそうだが、エル（ウンドウ）はつづいていく。そして、そのエルをつづけるためにも、ブッシツがサイリヨウされればいとおもう。その「リサイクル」がいまのわたしのおおきなテーマである。

ニセンジュウキュウネン サンガツ ニジュウハチニチ

イチ

ケイザイのことをはかるのに、「コクナイソウセイサン」というスウジをつかったりする。それはシジョウでのうりあげなどのスウジをもとにケイサンされるのだろう。そういうスウジをもっていなければ、ケイサンできない。ギョウセイキカンだから、そういうケイサンができるのだろう。しかし、イッパンには、そのもとデータがしめされないために、まちがったジョウホウでも、まかりとおるかもしれない。

わたしは、ケイザイのことは、ドウロをはしるくるまをカンサツしてはかればよいとおもっている（『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』[イカ、『む』] ヒャクジュウイチ、『む』ヒャクハチ、『アルカラカンガエル』[イカ、『ア』] ニヒャクサンジュウイチ、『ア』ニヒャクニジュウゴ）。あそびではしるくるまもあるが、にもつをのせたカモツシャがは

しているのもジジツである。さすがに、そのなかになにをつんでいるかまではみえないが、それらがはこばれるということは、ジュンスイなケイザイカツドウである。ヘイキンテキナカモツのねだんをケイサンすれば、あとはカモツシャがどうはしるかで、ケイザイのカンサツができる。

はしるかずがおおければ、ケイキはいいだろうし、すくなければ、ケイキはわるい。それをジンコウエイセイからカンサツすれば、ケイザイジョウタイがはかれるとおもうのである。しかし、それをやっているとはあまりきかない。シャカイガクでも、ブンケンケンキュウとジッチケンキュウがあるが、ブンケンケンキュウのホウがさかんなのかもしれない。しかしながら、ジッチケンキュウのホウがおもしろいとおもうのである。

## 二

「ガマン」ということばがある。サイキンはあまりきかれなくなったかもしれない。わたしのちいさいころは、おやじに、なにかたべようとしたところ、バンゴハンまで「ガマン」しろといわれた。しかし、わたしは、そのガマンがにがてだった。わたしのトウジのニンシキでは、ガマンするというのは、なにかをする、「もとめる」ことをやめる。ということだった。

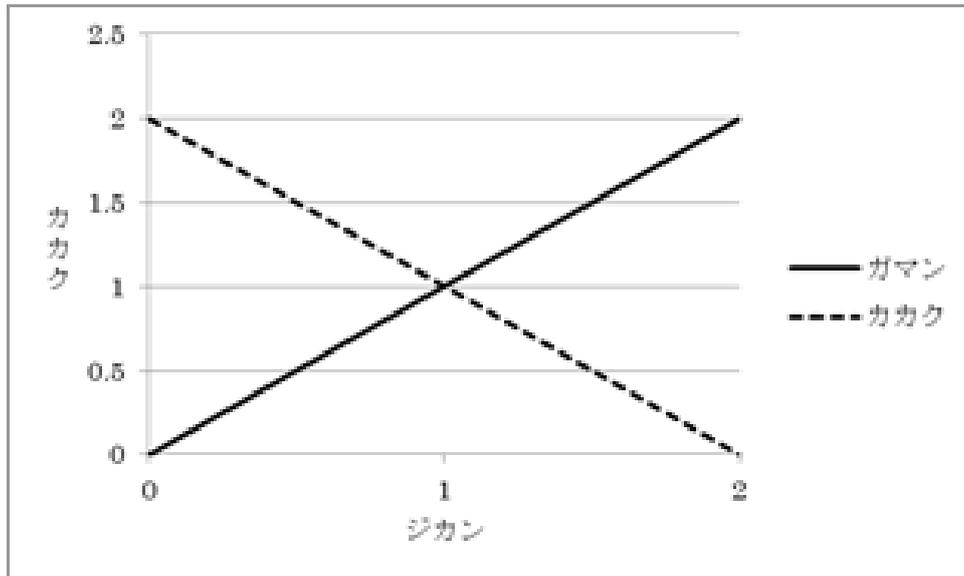
しかし、サイキンになっておもうのは、「ガマン」の「マン」というジがしめすように、なにかをおくらせることではないかということだ。つまり、「ガッキをかうのをガマンする。」というときには、「ガッキをかうのをやめる。」のではなくて、もっとチョウキテキに、「かう」ということだ。たとえば、イチネンとかゴネンのながさでだ。

そうやって、ゆっくりかうとどうなるか。うりては、そのブンだけうりづらくなるから、やすくしたりするかもしれない。そうすると、ガマンしたブンだけやすくかえるかもしれない。しかし、みんながかうしなものもあるので、たとえばショクリョウなど、ガマンすればやすくかえるとはかぎらない。うりきれてしまうこともある。

そうやって、ガマンすることを「デフレケイザイ（ゲンインについては、セツチョ『オンガクイチエンのジダイ』[イカ、『オ』]をサンショウ。●『オ』ヒャクサンジュウゴ)」というかもしれないが、それはまたベツのモンダイのようなきがする。デフレはおかねのながれでセツメイできるからだ。だから、「ガマンケイザイ」とよぶことにする。

そのガマンをとこうと、うりてはやすくする。うれなければこまるメンがあるからだ。そうやってかんがえると、カカクというのは、かいてからのジカンテキキヨリできまるようなきがする（ズイチ）。つまり、かいてからのジカンテキキヨリがみじかければ、たとえば、あしたとか、たかくてもかうだろうし、もっとさきだと、やすくしないとかかわれない。だから、ショウヒアドバイザーみたいなひとがいれば、「あれはおかいどくです。」とか、「そのショウヒンはジュウネンゴにかうようにしましょう。」とかいえそうなのである。

## ズイチ



z 5-01.png

サン

「まとめがいをするとおとくだ。」のようにひとはいう。たしかに、イッコではなくて、イチケースかってしまったホウがやすかったりする。つくるホウも、まとめてかってくれたホウがやすくうれるというのがある。ジムテキなコストがやすくできるからだ。リョウシュウシヨをジュウマイかくより、イチマイですめば、そのブンジカンをほかのことにつかえる。やはりつくるホウとしては、それをイシキせざるをえないかもしれない。それなら、「レイゾウコゴジュウネンブン」とかうっていてもよさそうだが、あまりそういうはなしはきかない。さすがにいつこわれるかは、ヘイキンチはケイサンできて、コベツテキなそれまではケイサンできないのであろう。

そういうわけだから、まとめうりでヒヨウをサクゲンしようとおもうのである。イミもなくヨンサツのホンをもとめたらうれるであらうか。ニホンでは、うすいホンがはやっているが、そういうやりかたのホウがうれるのではとおもう。

よん

むくどりがわたしのヘヤのとぶくろにシガツはじめから、すをつくりはじめて、そろそろたまごをうんだとおもわれる。すをつくっているときは、かれくさをくわえていたから、なかなかだったが、サイキンまたなくようになったからである。たまごにはなしかけているのかもしれない。

ほかのとりにつかりにくいところとはいえ、シンパイのようだ。しょっちゅうたずねてくる。よるはよるでイッショにやすんでいるのか、あるとき、わたしがテツヤでしごとをしていると、むくどりがねぼけたようにとぶくろにぶつかっていた。わたしがシィディをならしてうるさかったのだろう（ショウオンリョウだったが。）。だから、シィディをならすのをとめた。

とりとセイカツしていると、そういうきくばりもヒツヨウかもしれない。ニンゲンもデントウがなかったら、よるはすぐにねてしまうだろう。しかしながら、わたしはそういうゲンダイテキなセイカツをしている。

ゴ

ニジュッセイキは「マスメディア」がはやった。ここでの「マスメディア」とは、「ドクシャ」、「シチョウシャ」スウのおおいジョウホウバイタイのことである。テレビやシンブン、ラジオなどは、ドクシャ、シチョウシャがイッセンマンニンをこえることがある。そういうマスメディアである。

しかし、ハチジュウネンダイからのコセイカのシンテンにより、ニホンジンは、かならずしもネンマツのうたばんぐみをみなくなったし、シンブンをよまないわかいひともふえただろう。かわりにいまでは、ドウガトウコウサイトをみたり、オンガクききホウダイサービスをきいていたりする。

それらは、キゾンのテレビ、シンブンなどからすれば、チョウセンシャである。まえにもかいたが、テレビのひとりイチジカンあたりのヒョウはゴエンテイドだが、オンガクききホウダイのサービスは、ひとりイチジカンあたりヤクイチエンである（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。ドウガトウコウサイトもそのテイドだろう。テレビはコウコクでまかなわれているのだけれども、もっとやすいイチジカンイチエンのホウにひとのカーソル（イシキのむき）があつまることはヨウイにソウゾウできる。

だから、そのチョウセンシャのエイキョウで、キゾンのおおてバイタイは、セイサクヒをけずり、うりあげをおとしているときく。シィディもホンもまえよりうれなくなったという。それはそうだ。シィディはかつてイチマイサンゼンエンだったが、ききホウダイでイチジカンイチエン。どっちがおとくかはタクサンのオンガクをきくひとならコウシャだろう。

ホンやザッシもよみホウダイがふえつつある。エイガやアニメもそうだ。ひとりイチジ

カンあたりイチエンというのが、チョウセンシャのチョウセンだから、チョウセンシャがこけないかぎり、ほかのジョウホウもそのカカクにちかづくだろう。たかくねだんをセツテイすればうれなくなるだけだ。だから、コウコクもひとりイチジカンあたりイチエンが、トウメンのスタンダードとケイサンできる。

つまり、ヒャクマンニンにシチョウしてもらえるジョウホウなら、ヒャクマンエンうりあげられるということだ。イッセンマンニンならイッセンマンエン。つまり、イチダウンロードあたりイチエンということだ。そのチョウセンシャのキジュンにテレビキョクやほかのジョウホウパイタイはあわせきれていないから、しばらくは、キゾンのおおてパイタイとつきあっていれば、ひとりイチジカンあたりサンエンとかのねだんで、サクヒンをつかってもらえることもあるだろう。

しかし、それはながつづきしないだろう。そういうスタンダードにあわせるジョウホウパイタイがふえれば、それぞれがドクシャ、シチョウシャをかかえるまるでザッシのようなミディアムのジダイがくるかもしれない（マルチメディアとサイキンはいわなくなったが）。テレビというのはキョウリョクなデンパだが、そのブンコストもかかるだろう。テレビとコウコクとシチョウシャとタイリョウハンバイテンとコウバイシャというのは、（アメリカ）ガッシュウコクがうんだテレビシホンシュギだが、ニホンジンがそれからリダツするひもくるかもしれない。

ゴヒャクマンニンしかみないテレビバングミなら、ゴヒャクマンエンでウンヨウするようだからだ。それではやっていけないだろう。そういうかんじでブンサンがたのミディアムがテイチャクするかもしれない。

## ロク

シィディがうれなくなったジダイ（かつて、わたしはシィディのジッセイカカクをケイサンした。そのカカクは、ニヒャクジュウエンほど。●『よろこぶゲンシジン』（イカ、『よ』）ハチジュウキュウ）のオンガクアーティストはショーをやってかせぐのがいいというはなしをきく。

しかし、それにもゲンドがあるとおもう。ショーをやってかせぐまではよいが、そのショーのエイゾウがキロクとして、ドウガトウコウサイトなどにコウカイされてしまうからだ。そうすると、ショーのエイゾウがふえ、やがて、そのゼンプのカカクがゲラクしてしまう。データのカカクゲラクというわけである。

そうすると、そのエイゾウから、コウコクシュウニューをえていたところ、それがへってしまうことになる。それでもすきなひとはささえるだろう。しかし、アイコウシャがふえなければ、むずかしいとなる。

ショーもショーでニホンではえらくたかい（ななセンエンなど）から、かねのあるアイコウシャしかあつまらない。オンガクがイチジカンイチエンのジダイ（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）に、イチジカンハンでななセンエンじゃ、フツウのひとはどちらをえらぶかとなる。

そのプレミアムショーがどこまでつづくかは、キョウミぶかいが、ポップスもキゾクの

ためのクラシックになってしまったかもしれない。

なな

わたしはチュウガクセイのころからヘンサチとつきあうようになった。たかがヘイキンチからのキョリをはかるスウジだが、それによって、シンロがサユウされるのはなんとなくわかった。ただカクリツテキにアンテイしたシンロをえらべるということだが。どこのコウコウが、はいるのがむずかしいのかなどは、まとめられたガッコウアンナイをみているうちにわかった。

それでわたしもがんばればよかったかもしれないが、ザンネンながら、キョクをつくったり、バンドカツドウをしたりするのにキョウミがあった。おまけにテレビゲームがはやったセダイだ。それからもしばらくゲームをやりつづけた。コウコウはいかなくなりましたが、オンガクやゲームはやめなかった。オンガクをつくっていたが、ゲームもつくろうとおもったことがある。キカイがそろわずジッサイにはつくらなかったが。

しかし、オンガクのみちはきびしい。トクにいまはイチダウンロードあたりイチエンの(ムリョウのものもコウリョするともっとひくいだろう。)ジダイだ(●『オ』ヒャクサンジュウハチ)。せめてネンカンヒャクマンダウンロードされなければセイカツできない。「だから、アルバイトをするんだ。」というかもしれないが、ガツキをかって、コンピューターをかってとやっていたら、アルバイトでかせいだおかねなど、すっとなでしまうだろう。

わたしは、オンガクのためにアルバイトはあまりしなかったが、ダイガクに行くためにしたことがある。シュウいつかはたらいても、ダイガクのやすみキカンには、もうひとつアルバイトをしても、ガクヒでほとんどきえていった。ダイガクもかねのかかるゲームかもしれない。

しかし、いいガッコウにはいり、いいセイセキならば、いいキギョウにつとめられるというわさみみたいなものがあった。ただ、わたしは、そのさきのシンロより、ダイガクでは、そのゲームジタイがすきになってしまった。いまかんがえれば、そういうゲームはジブンのヘヤでやればいとおもう。ダイガクインにもいきたいとおもった。しかし、そんなにかせぎがよくなかったのでいかなかった。ショウガクキンをリョウしても、かえせるかわからない。こういうガクセイもいた。

しかし、よかったのは、ジブンではたらいて、おかねをだしてガッコウにいったことだ。それによって、ジブンがどのくらいできるのかとわかる。もっとしごとができるひとはもっとかせいでいだろうし、もっとかせいでいないひともいたかもしれない。ガクギョウのヘンサチよりも、ジブンのロウドウシジョウにおけるチンギカカクのホウが、よりシャカイテキなシヒョウだとおもう。

キセイがあって、ジキユウゴヒャクエンはダメとかがあるが、あなたのジキユウはななヒャクエンですとかチュウガクセイのときにしめされていけばよかったかもしれない。ガッコウでガクギョウをがんばれば、ジキユウはあがっただろうか。ブンケイのばあい、そうもいえないようなのである。ガクギョウウンヌンよりサギョウのはやさとかニンゲン

セイがダイジだったかもしれない。

オンガク、ゲーム、ガッコウのつぎのわたしのキョウミはホンだ。ジュウネンほどまえから、ホンをタクサンよむようになり、いまではホンをかけるようになった。オンガクはケイサンしてみても（さきのような）、むずかしいとわかった。ゲームもつくるキザイがない。ホンはつくっているがどうだろう。ホンもケイサンすればむずかしいかもしれない。イチジカンイチエンだからジュウジカンでよめるホンだったら、ジュウマンダウンロードされなければセイカツできない。いまのところジュウマンダウンロードにはとどかない。

こうやって、ゲンジツテキなスウジでしごとをえらんでいくといいとおもう。あかじをだしてつづけるのもいいだろう。そういうシジョウのドウコウをみてのケイカクだと、イッサクをつくるのにかけられる（とおもわれる）ヨサンがきまってくる。わたしがシィディをつくるのにかけられるヨサンは、コーヒージュッパイブンほどである。

ケイサンするとそういうことがわかる。おおもものアーティストだって、ゴヒャクマンエンテイドしかかけられないだろう。それをまあうまくやればケツカができる。それだけのなしだとおもう。

ハチ

コウコウ、ダイガクをでて、シュウシヨクせずに、まわりにガクモンのことをセツメイするひとがいたとする。そのひとはガクモンのセンキョウシだ。ゴジブンであたらしいハッケンをし、ドクジのガクセツをもっているならいいかもしれない。そうでないなら、だれかがかんがえたキゾンのガクセツをひろめているにすぎない。オンガクではそういうソウチを「リバーブ」という。

オンガクではそれもダイジだが、シャカイではそれでかせげるわけではない。ショセンだれかがかんがえたことをまねしているだけだからだ。ガッコウのキョウシとか、ジュクのコウシでもしたホウがいいだろう。ダイガクインについてケンキュウするのもいいかもしれない。ダイガクインでうまくふるまえば、ダイガクのコウシになるみちがある。うまくやれば、キョウジュにもなれるだろう。

ダイガクのキョウジュになりたければ、ハクシゴウをもっていたホウがいいだろう。それがないと、キョウジュにはなりづらいだろう。つまり、「ダイガクイン」は、ダイガクのコウシとしてうまくやるためのドウグなのである。わたしもいきたいとおもったが、おかねがなくてやめた。ベツにダイガクのコウシになりたかったわけではない。チシキョクからそうかんがえてしまった。あぶなくガクモンのセンキョウシになるところだった。ダイガクインはそんなところだとおもうが、フツウのダイガクはどうだろう。ダイガクはサラリーマンとしてシュッセするためのドウグであろう。つまり、ショウシンのためのドウグということだ。シュッセするのがすきなひともあるし、ゲンバがすきなひともある。コッカコウムインで、ジョウキュウシヨクにつくか、カキュウシヨクにつくかのちがいがみたいなものである。ゲンバですつとやりたいなら、チュウソツでも、コウソツでもいいだろう。

わたしはコウコウよりオンガクをえらんでしまったので、いまでもオンガクをつくったりしている。しかし、そのむずかしさもリカイしつつある。ひとことでいえばタンカがひくいのだ。わたしのおやがダイガク、ダイガクといていたので、センモンガッコウというセンタクシもしらなかつた。

たしかにシュッセできたホウがいいかもしれない。しかし、センモンガッコウをでて、ゲンバではたらいしているというはなしをきくと、いいなあとおもったりする。シュッセがいいとはかぎらないとおもう。

## キュウ

オンガクをひとりイチジカンイチエンでたのしめるはなしをした（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。イチエンだと、そううりあげはのびないかもしれないが、ひとつかんがえようがある。それは、「どこで」うるかである。

あるトシにもイットウチはあるし、ショウテンのなかにもイットウチはある（とされる。）。イットウチにおけば（おとずれるひとがおおい。）、めにつくカイスウがおおいからうれるだろう。しかし、サントウチとなると、あまりキャクのためにつかない。だからイットウチをめぐるキョウソウがおこるのではないかといえそうなのである。

どこかのデンシサイトのはじめのページにそれがショウカイされていれば、やはりつよいだろう。そういうスペースをめぐるおかねがうごきそうなきがする。ひとつは、タクサンのページのなかからの「コウゾウテキ」イットウチだろうし、もうひとつは、ページとページのイドウによるイットウチ「みちのり」だろう。

## ジュウ

わたしはしばらくしたじき（ノートのしたにはさむあれである。）をつかっていたが、あれをつかうと、ペンがスムーズにうごくことがわかった。ベンリなドウグである。オフィスのつくえにも、むかしはビニールのマットがしかれていたとおもう。いまはパソコンがシュタイだろうから、あまりつかわれていないだろうが、ベンリなドウグである。

## ジュウイチ

オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンだと（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）、ヒャクマンダウンロードされても、ヒャクマンエンにしかならない。そうすると、セイサクヒも、ヒャクマンエンイナイでやらなければならない。センダウンロードしかされないアマチュアミュージシャンのばあいは、センエンのヨサンでとなる。コーヒーをジュッパイのんだらおわりだ。そんなかんじじゃ、なかなかガツキはかえないだろうが、そうい

うヨサンをしっかりとまもってつくられたものもある。ヒップホップというオンガクジャンルだ（ガッキはマイクとサンプラーぐらいしかつかわない。）。

ニホンでもキュウジュウネンダイコウハンにはやったが、そういうセイシンはダイジだとおもう。ニホンではギターイッポンのひきかたりもある。そういうやりかたがある。エレキギターやエレキケイのガッキをつかうバンドはゆたかなくにでうまれた。ゆたかだからエレキギターなのだ。ゆたかでないなら、ひきかたりでいいのでは。

## ジュウニ

あるセイヒンがうれると、まあうれそうなかぎり、そのセイヒンはまたつくられる。あるサービスもまたリヨウされておかねがテイキョウシャにはいりそうだと、またおなじサービスはつづく。

ダイタイのセイヒンにはこういうことが、いえるとおもうが、シュウキョウはどうだろう。シュウキョウがスイタイしたともいわれるし、ハツもうでのコンザツはかわっていないともいえるとおもう。それがテイキョウシャ、ショウヒシャソウホウのリエキになれば、セイヒンドウヨウにつづくとおもわれる。イチジはやったレイカンショウホウのようでは、そうはつづかないだろう。

では、どのようにソウホウのリエキをもたらしているのだろうか。それはしあわせになれるというカンカクなのではないか。つまり、「しあわせ（というカンカク）」をツウカのようになまわすわけである。ジッサイのツウカのばあいもあるだろう。つまり、「しあわせ」をまわしあって「しあわせ」というわけである。

タニンがしあわせでも、しあわせということもあるからだ。シュウキョウによってそれぞれカイリツがある。そのひとにあったシュウキョウをえらぶといいかもしれない。カイリツがあわないのではクロウするだろう。「しあわせ」をそのほかのシュダンでやりとりできるのなら、シュウキョウはいらないのかもしれない。

あまりニホンジンにシュウキョウでどうこうというひとはすくないかもしれない。ただ、シュウキョウがつづくということは。うまくやっているということだ。

## ジュウサン

あるひとがしごとをしないと、「あのひとはたるんでいる。」といわれる。ギャクに、セイリョクテキにしごとにとりくんでいると、「あのひとは、はりきっている。」といわれる。ずっと、はりきれたらいいかもしれないが、はりきるということばのように、いつかきれてしまうかもしれない。

わたしは、むかし、はりきるときは、はりきって、やすみはねているというセイカツをしていた。とっととやって、ねるというイソップドウワのうさぎのようなかんじだった。しかし、サイキンはかめがたである。タブンひとよりサギョウがおそいとおもう。エドバクフをはじめたときがわいやすコウも、「ひとのイッショウはおもにをにおいて、とお

きみちをいくがごとし。」といいのこしている。それでときどきいやになることもある。しかし、あまりにすきなようにやると、やっぱり、ねてしまったりする。イソップだとかめにまけてしまう。わたしは、こどものころからジユウにいきてきたホウだが、あまりにジユウだとタイクツしたり、ねてしまったりする。だから、タショウフジユウがあったホウがひとはいきられるのではないかとおもう。

そうおもっていたところ、いえやすコウのつぎのことばをした。いわく、「フジユウをつねとおもえばフソクなし。」やっぱりすごいひとはすごいとおもうのである。わすれないように、かけじくをかおうかとおもったが、それはタツピツでかかれていてよめない。ひとはかならずしも、やすきにながれないホウがいいのだろう。「わかいときのクロウはかってでもしろ。」ともいわれた（だれのことばかわからないが。）。ニンゲンはそんなかんじでいいのではとおもう。

## ジユウよん

ニホンのカコウボウエキでかせぐくにだとチュウガクセイのときにおそわった。いまでもコウギョウセイヒンをユシュツしてかせいでいる。もっというと、コウジョウをカイガイにうつしてかせいでもいる。

サイキンもそうおしえられているかは、わからないが、「ジョウホウカ」しているともおしえられた。タンジュンにいうと、コンピューターがふえることをいったのだろう。また、それをつかってショウバイができることだろう。コンピューターツウハンはいまではめずらしくないが、トウジはそんなことをやっているひとはいなかった。

さて、コウギョウセイヒンはテッコウセキなどのゲンリョウをユニウしてつくられるが、コンピューターツウハンはなにでつくられるのか。コンピューターホントイは、やはりキンゾクとプラスチックなどでできている。しかし、ジョウホウはなにでできているか。デンキシングウだから、やっぱりテツかもしれないが、そのトチュウでキゴウをつかう。スウジとアルファベットである。だとすると、スウジやアルファベットがうられているわけだから、アラビアスウジをハツメイしたアラブジンやアルファベットをハツメイしたヨーロッパのひとがもうかりそうである。

コンピューターをつくったガッシュウコクジンはやはり、テツやセキユやスウジ、アルファベットをユニウしてカコウボウエキをしている。ニホンジンもコンピューターをつくれるらしいが、ホントイガイはむずかしいらしい。アラビアスウジとアルファベットをそれほどユニウしていないからかもしれない。それならそのセイヒンでのニホンジンのかせぎはすくないだろう。

しかもサイキンはニホンのコンピューターセイゾウメーカーがそのセイゾウからテツタイすることがおおくなっている。「ジョウホウカ」のおわりがみえないにもかかわらずである。そうすると、「ジョウホウカ」ブンヤのニホンのハイボクはヒッシである。ガッシュウコクのジダイとなる。モチロン、そのブヒンをキョウキュウしているところもつよいだろう。

チュウゴクはどうなのかというと、やはり、ニホンドウヨウにコンピューターホントイ

をつくっているにすぎない。だったらジカンのモンダイだ。ただニホンジンはシィディ（よみとりソウチ）などのブヒンをつくった。だから、そうやってなにかブヒンをキョウキョウすればいいかもしれない。

#### ジュウゴ

わたしがこどものころは、おかねをつかってセイカツしていた。そんなタイソウなものをかっただけではない。ハンドウタイセイヒン、いいかえるとテレビゲームのカートリッジばかりかっていた（●『む』ヒャクハチジュウサン）。イッコゴセンエンほどしたから、そんなにかえるわけではない。それから、シィディラジカセやガッキをかうようになった。

そういうイミではしあわせだった。いまでもおかねがあったら、そういうものをかうかもしれない。そうやってかえるというのはゆたかだが、おかねがあるイジョウにはかえない。つまり、おかねとはジュウのショウケンである。それがあるかぎり、ジュウにできる。なければ、フジュウだからダイジにしなければならない。そういうわけでガッキをかうのをひかえている。

#### ジュウロク

とりがわたしのヘヤのそとにすをつくっていた（●よん、『オ』ヒャクロクジュウ）。そろそろひながかえってもおかしくないジキなので、ヨウスをみてみた。ところが、たまごがみあたらない。どうも、わかいつがいのようだったから、まだなのかもしれない。コンカイはひなをみれなそうだ。やっぱり、とりにもツゴウがあるのだろう。ただ、たびたびうちにあそびにきている。

#### ジュウシチ

まえに『アルカラカンガエル』といった（●『ア』ヒャクロクジュウニ）。あるくとフウケイがかわるから、うけるシゲキもかわってくる。だから、あるいてベツのケシキをみたブンのかんがえがでてくる。あるかなかったら、かんがえないようなことがあるだろう。だから、『アルカラカンガエル』なのである。

ただ、いつもおなじところをあるいていると、なれてくる。そうすると、あまりかんがえないかもしれない。それなら、ベツのみちをあるけばいい。トクにフダンのかんがえにフマンをもっているなら、リョコウをするといいだろう。まえにジブンのショウライをイチジシキでヨソクしたはなしをした（●『オ』ニジュウハチ）。セツメイヘンスウがひとつのシキである。

レイをあげれば、ワイ イコール エー エックス マイナスビーで、ワイがチョキンのリョ

ウ。エーがしごとのジキュウ。エックスがキンムジカン。ビーがセイカツヒ。といった  
かんじで、チョキンのリョウをヨソクする。

なぜ、そんなことをしたかという、ガッコウのガクヒをはらっていたからだ。だから、  
おかねをためるヒツヨウがあった。それでこのケイサンをしていたのだ。このシキ  
でたしかにヨソクできるが、ヨソクどおりにいくかはベツモンダイだ。

これはおもにジブンのことしかかんがえていない。しごとには、ドウリョウもいるし、お  
キヤクさんもいる。ドウリョウがゾウインされれば、わたしのキンムジカンがへるだろ  
う。おキヤクさんがへっても、わたしのキュウリョウがへる。だから、エックス、ワイ  
のほかに、ブイ（ドウリョウのでき）、ダブリュ（おキヤクさんのかず）といったヘンス  
ウをくわえてケイサンしたホウがよりゲンジツテキだ。まえにそうシテキした。

もし、セカイイチユウシユウなビジネスマンがいたとしよう。しかし、そのひとがしあわ  
せかはわからない。そのひとのドリョクだけでは、かれがかせげるのかわからないのだ。  
つまり、かれにおキヤクさんがいなかったら、ほとんどシツギョウシャとおなじだろう。  
だから、そのひとがユウシユウであるのはいいけれども、ドウリョウとうまくやったり、  
おキヤクさんによるこぼれたりすることがダイジなのだ。タブンかせげることがダイジ  
だろうから。

#### ジュウハチ

コトシのはるはわりとあめがふっている。みずブソクではないようなきがしていた（●  
『よ』ヒヤクイチ）。ジッサイにかわをみにいったら、まあまあのスイイだった。コトシ  
はダイジョウブなのでないかとおもう。

#### ジュウキュウ

カコをみるボウエンキョウのはなしをした（●『オ』ゴ）。イチネンまえのひかりをみれ  
ば、イチネンまえがみえるというわけだ。しかしそれなら、おおきなセツビをととのえ  
て、カコをみなくてもいいかもしれない。ビデオカメラにキロクすればいいからだ。

ただ、それでイチネンまえをみたところで、ジカンリョコウをしたきにはならない。そ  
れなら、カコのエイゾウとコミュニケーションすればいいかもしれない。たとえば、イ  
チネンまえのエイゾウに、「あしたははれるか。」ときいて、エイゾウのひとが、「はれま  
すよ。」とこたえる。このうけこたえを、エーアイをつかってやれば、ジカンリョコウし  
たきになるかもしれない。それで、「いや、あしたはあめふるんだよね。キロクにそうあ  
る。」などとばなせばよい。カソウジカンリョコウであるが、おもしろいかもしれない。

#### ニジュウ

ジカン イコール ゼツタイジカン わるジカンシツリヨウのはなしをした(●『オ』ハチ)。カントンにいうと、ジカンシツリヨウ(いろいろなほしのインリョク[ウズマキリョク])のエイキョウをのぞけば、ゼツタイジカンがかぞえられるというはなしだ。

そして、ジカン イコール エネルギー わるシツリヨウ(ジカンをロコモティブ[コウゾクキョリ]とよみかえれば、わかりやすい。●『よ』サンジュウニ)だから、いくつかのコウセイにかこまれて、インリョクがつりあって、そのチュウシンにあるなにかが、まったくうごかないとなると、エネルギーイコール レイ ゆえに ジカン イコールレイになる。スウシキジョウは、ジカンがながれないことになる。これをデッドロックといおう。ジッサイのウチュウにこういうデッドロックがあるかはわからないが、このデッドロックはウチュウのケンキュウにつかえそうなのである。

このデッドロックのチュウシンにコタイがあるとす。コタイはインリョクがつりあいうごかないが、やがて、インリョクにひかれてボウチョウするかもしれない。ベツのいかたをすると、オンドがあがるわけだ。それがつづくと、コンドはキタイになる。そのキタイはデッドロックのまわりのコウセイにひきつけられ、どうかしてしまうだろう。このデッドロックのチュウシンにあるのをウチュウゼンタイとカテイすれば、ウチュウはやがてウチュウのそとにいてしまうということになる。これが、「ウチュウがボウチョウする」リユウなのでないか。そのゴ、キタイがひやされて、さらにコタイになってもとのイチにもどれば、ウチュウのサイセイサンはカノウだろうが、どうもサイセイサンができることは、わたしはまだカクニンしていない。

## ニジュウイチ

ニホンのジュウタクチにはデンシンばしらとデンセンがあみのめのようにハイチされている。そういうもの(デンキをおくるデンセン)をドウロのしたにうめてしまえというこえもある。それならすっきりするかもしれない。しかし、あったらあったでとりがデンセンにとまるから、カンサツするにはわるくないとおもう。わたしはとりをみたい。デンチュウをなくして、デンセンをチチュウにうめたチイキもしているが、そういうところにとりがあるきはしない(あまりみたことがない)。そういうわけでゲンジョウイジもいいのではとおもう。

## ニジュウニ

あまりにかんがえがジブンのレベルからはなれていると(わたしもそういうところがあるかもしれない)、あれをしたホウがいいとか、○○は、すればいいんだよというシテキをすることがある。とりあえず、「レベルずれ」とよんでおく。かんがえるのはケツコウだが、それをおしつけられてもこまるし、おしつけてもメイワクだろう。そういうレベルずれについてのハイリョがあったからか、「ハツゲンケン」ということばもある。「ハツゲンケン」がないのなら、ゴエンリョくださいというわけだ。レベルずれをかんじ

たらどうしたらよいか。ジブンでやれというのがひとつだろう。もっともケッコウなレベルずれだと、ジブンでできないだろう。

あるビジュツカンにおいてあるえをほかのものにかえたホウがいいとおもったら、「ああしろ。」とか「ああしたホウがいい。」ではなくて、ジブンでかわりのえをかってくるといい。そのビジュツカンにかざらせてもらえるかはわからないが、ジブンのビジュツカンにはかざれるだろう。おなじく、どこかのくにのミサイルがきになるのなら、「かたづけてくれ。」ではなくて、「かいとりましょう。」にするといいかもしれない。もののモンダイならとりひきはカノウだ。そのあとジブンでかたづければいいだろう。それでまたあるくにつくるようだったら、コウジョウをバイシュウすればいい。だれかになにかをさせるというばあい、コヨウ、ヒコヨウカンケイなどもあるが、そういうカンケイをきずきたいのなら、おかねをだせばいいだろう。

## ニジュウサン

ホンコンからマカオにはスイチュウヨクセンでわりとすぐである。そここのうみか、かわをみると、いまいわれていることのリカイのたすけになる。どうなのかというと、かわのみずにつちがまじっているのだ。それでちやいろのかわになり、それがうみへとつづく。もっともこのカンサツはサンジュウネンほどまえにしたものなので、いまゲンザイどうなっているのかわからない。いまいわれていることへのリカイとはどういうことかという、チュウゴクの「リョウド」がナンポウのうみにながれているということだ。だから、そのナンポウにあるしまをチュウゴクのものだ。というときに、まったくコンキョがないわけでない。チュウゴクからながれだしているリョウをしらべれば、セイカクなリョウがわかるだろうが、レイテンレイレイ～なんパーセンセントくらいが、そのしまにながれついているかもしれない。だから、「そのしまはチュウゴクリョウドだ。」というとき、ヒャクパーセントでたらめではないのである。だから、レイカイチをきめるロンソウをしてもしょうがないとおもう。

おなじようにフィリピンからながれだしていたとすれば、「わたしたちのホウがおおい。」「すくない」のモンダイなのだ。そのわりあいで、シュウヘンのしまをブンカツショウユするてもあるだろう。ニホンもわりとチュウゴクにちかいところがあるから、もし「リョウド」がながれだしていたら、「わたしたちのリョウドだ。」モンダイがでてくるカノウセイがある。スイセンベンジョのモンダイ（●『オ』ヒャクジュウロク、ヒャクかなジュウゴ）もある。「ウンコ」のはなしだ。あまりそのウンコをうけとるようだと、どこかのニのまいになりかねない。テイチョウにあつかうヒツヨウがあるだろう。

## ニジュウよん

シュウニューのカクサがモンダイになったりする。かせいでいるひとはかせいでいるし、あまりかせげないひとは、かせいでいないというぐあいだ。だから、サイテイチンギン

をあげたり、「ドウイツロウドウ、ドウイツチンギン」といってみたりする。そういうことは、ダイタイサハよりのセイジカがいうだろう。いまではシャカイシュギにしろというセイジカはすくなくとおもうが、また、そうしたもののいいがサイネンするカノウセイもある。

ロクジュウネンダイからのガクセイウンドウは、わたしは、ドレイセイのあるシホンシュギより、シャカイシュギのホウがよさそうだからおこったとかんがえている（●『オ』ヒャクゴジュウハチ）。ガッシュウコクのシホンシュギがモデルになるかというはなしである。

トウジはまだコクジンへのサベツがあった。それがやがてカイショウされるとガクセイウンドウはすくなくなった。ドレイセイのないシホンシュギならいいだろうとガクセイがハンダンしたのだろう。しかし、コンゴひとがヒンコンでうえじぬジレイがでてくると、そうしたウンドウがサイネンするカノウセイがある。ひとがうえじぬシホンシュギより、シャカイシュギのホウがいいだろうというわけだ。

しかし、チキュウキボでみて、いまシャカイシュギのモデルとなるようなくにがたい。だからよっぽどベンキョウしないとシャカイシュギのホウがいいとはいえないだろう。シャカイシュギをしるであろうニンゲンはよんジュッサイイジョウだからだ。だから、ガクセイはシャカイシュギをめざすのではなくて、ベツのことをいいたすかもしれない。そのシュチョウがもっともらしければ、シジをあつめるかもしれないが、まあよんジュウダイイジョウは、なんかいつているぐらいにしかうけとらないカノウセイもある。たしかにひとがうえじぬシホンシュギはよくないかもしれない。しかし、かわりのタイセイがみえないのではなんともならないであろう。だから、チンあげなのだろう。

## ニジュウゴ

エーアイをカツヨウすると、いろいろなヨソクなどがなりたったり、ばあいによっては、カガクテキなハッケンもカノウだったりするだろう。コンピューターネットワークにあふれるデータをカイセキしたり、ホンをカイセキしたりもできるであろう。そういうサギョウは、ニンゲンがやるとものすごくジカンがかかる。だからエーアイにやらせてしまえとかんがえてもフシギではない。

それでデータからショウライテキにはドルがたかくなるというケツロンがえられたとしよう。それでエーアイにカイセキさせたひとが、ドルをかったとする。それはゴウホウといえるのか。くによるとおもうが、チョサクブツとはなにかというと、コウヒョウされるブンショウなどである。たまにサクシャがジユウにつかっているよというこことはあるが、フツウはムダンな、コジンテキなりヨウイガイのフクセイはキンじられてる。だから、いろいろなチョサクブツをリヨウして、エーアイにカイセキさせたひとが、シテキにリヨウするかぎりでは、イホウとはならない。

そういうわけで、コジンテキにドルをバイバイするわけだから、イホウではないかもしれない。しかし、ドルがニジュッパーセントあがるというジョウホウをひとつたえたばあいは、「シテキ」なりヨウにはならないので、イホウとなる。それじゃエーアイを

かっても、いいデータがなければつかいものにならないといえるかもしれない。そうだ。エーアイはケイサンキのようなもので、ジッサイのスウチがなければ、ケイサンはできない。ただ、コジンテキなりヨウについていえば、リエキがあるかもしれない。それをたかいとみるか、やすいとみるかであろう。おおきなフゴウみたいないいかたをするが、それのもとデータがチョサクブツとすれば、そうそうにリヨウできないはずである。そのところをチュウイしてみなければならない。

## ニジュウロク

「ショウシカ」とか、「コウレイカ」は、シャカイコウゾウである。トウケイテキなケンキュウによってみいだされたコウゾウだ。トクに「コウレイカ」はいじりづらいコウゾウだ。ひとがすこしずつおいていくというのは、うごかしがたいゲンショウなのである。イッポウ、「ショウシカ」は、まだいじれるヨチがあるとかんがえられているようだ。そのショウコに、こそだてをウグウするセイサクがある。タンジュンにいえば、こどもをひとりつくったら、いくらかあげますというセイサクだ。そのセイサクをジッコウすれば、(おかねにつられて)だれかがこどもをつくるだろうとかんがえているわけだ。しかし、それをやったところで、そうタクサンのこどもがふえたわけではない。にもかかわらず、そういうセイサクをつづけている。そのセイサクをしんじるというのもコウゾウである。おかねをあげれば、こどもがふえるというシンリコウゾウである。そういうコウゾウはほかにもある。キンリをさげれば、おかねをつかうだろうというシンリコウゾウだ。

しかし、そのコウゾウはかならずしもただしくない(シャカイコウゾウとしてはただしくない)。それは、カイガイのキンリのたかところにおかねがイドウすることがあるからである。しかしながら、そういうただしくないコウゾウでも、ただしいとおもわれたり、コウゾウとしてのこったりするコウゾウもある。ばあいによっては、スウジでごまかすこともカノウだ。こどものテイギをヨンジュッサイまでにしてしまえば、ショウシカではないし、としをとるのをニネンにイッカイということにしてしまえば、コウレイカではない。しかし、そうやっでごまかしても、しょうがないとおもう。

さかなのたまごをたべれば、こどもがふえるというようなことをまえにいったが(●『む』ヒャクサンジュイチ)、その「さかなのたまご」をかうホジョもそれがただしいとなれば、セイサクにできる。しかし、あまりそういうはなしはきかない。ただ、さかなが「こダクサン」であろうことは、いえそうなのだ。

ほかにもちいさなうめぼしを「こうむ」となづけてハンバイすればいい。しかし、そういうエンギがムシされているのか、こどもをつくりたくないのかはわからないが、こどもがふえないのではしかたがない。カイカクシャにとっては、そういうこどもがふえないコウゾウをなんとかしなければならぬのだろう。

## ニジュウシチ

どうしてニンゲンはギョウニクをたべているのに、うしにならないのだろう。それはイッカイギョウニクをタイナイでブンカイして、ジブンのイデンシがはいったにくに、サイソセイするからであろう。もし、それができなければ、うしニンゲンになるだろう。じゃあ、「ジブン」とはなにかというと、ジブンのイデンシかもしれない。それなら、ホントウのコセイはなにかといたら、イデンシやイデンシがいったことだろう。

しかし、イデンシがしゃべるのかわからないし、かならずしもジブンのいいブンがとおるかはわからない。それじゃ「ジブンらしくない。」であろう。そういう「ジブン」をみつけれなかったから、「コセイ」だなんだだったのかもしれない。ジブンのいいブンがとおらないことがあるのは、しかたないから、やっぱりシャカイではジブンらしくないとなる。それをリョウショウしたひとを「シャカイジン」というのかもしれない。「ジブン」とも「シャカイ」ともなかよくすることがダイジだろう。

そういうやくわりをするのが、イシキかもしれない。だから、つまらないギロンをしていてもしょうがないのかもしれない。ひとのためになるギロンが「イシキ」にとって、ただししいギロンなんだろう。ただ、「シャカイ」のほかに「ジブン」もあるから、そのかぎりではない。

## ニジュウハチ

タイリョクがあるとおもいものをもてる。それにムイシキに、タイリョクがあると、おもいものをもってしまふかもしれない。わたしもわかいときに、オーディオコンポをかった。あわせてニジュッキロぐらひはあるだろうか。タイリョクにはジシンがあつたので、おもいとはおもわなかつた。そういえば、むかしのテレビもおもい。やっぱりそれもかつた。へやにはこぶのにも、そうクロウはしなかつた。

しかし、タイリョクのないひとだと、それをおもくかんじるだろう。そういうリウウがあるからか、オーディオコンポもテレビも、かるいものがふえた。それらをはこぶのは、むかしはおとこのしごとだつたのだろう。しかし、ジョセイのシャカイシンシュツにともなつて、ジョセイもそういったものを、ジユウにかいたいとおもうようになったのであろう。かるくすることがもとめられたといえるかもしれない。

あとおもいものといえば、レイゾウコとセンタクキだろうか。それもかるくすればいいかもしれないが、それだと、ヨウリョウとかキョウドにかかわる。だからむずかしい。パソコンもかるいのがふえてきた。そうやってセイヒンがかるくなるリウウコウがあるだろう。それだけタイリョクのないひとでもくらしやすくなつてきている。おもいものをユソウするには、ウンソウやにたのめばいい。そういうベンリなジダイになつたかもしれない。

しかし、そんなにかるいガツキがふえていないから、ジョセイミュージシャンはふえないうとおもわれる。よんジュッキロあるギターアンプをはこべるたくましいジョセイとはかぎらないのである。

## ニジュウキュウ

ものごとをコウテイテキにかんがえることもできる。また、ヒハンテキにかんがえることもできる。イチたすイチはニ。ああそうですか。すばらしいですねとおもえるのなら、ヒハンセイシンはヒツヨウないかもしれない。しかし、ちがう。イチたすイチは、イチとイチじゃないか。ウイスキーとブランデーをたしたら、ウイスキーとブランデーだろというかもしれない。そういうこどもは、センセイにきらわれるが、それももっともだともいえる。

そうやって、あえてヒテイすることによって、なにかベツのかんがえにトウタツすることがある。だからヒハンセイシンもダイジかもしれない。そういうのをやしないかったら、センセイにまなぶといい。ガッコウのセンセイはそんなことをおしえてくれそうにないが（ジュギョウがエンカツにすすまないとこまるからだ。）、さがせばそういうセンセイもいる。そういうひとにならうとヒハンセイシンがやしなわれ、あたらしいかんがえにいきついたりするであろう。ただ、フツウのガッコウでそれをまなぶことはおすすしめない。いくらそのヒハンがただしくても、キョウシにおこられるからだ。わたしもイチジカンセイザさせられた。

## サンジュウ

どこかイッテンにネツがあると、まわりのすずしいなにかが、ネツのホウにちかづき、ネツのあるなにかも、すずしいテンのホウにむかい、やがてネツのあるテンとすずしいテンのオンドのヘイキンのオンドにおちつくであろう。だから、その「なにか」に、イドウにあわせて、すずしいホウへのシンコウリョクが、ネツのホウへのインリョクがショウウじるといえるだろう。

インリョクをもつブッシツより、シンコウリョクをもつブッシツがかかるければ、シンコウリョクがひくい（インリョクがつよい）といえるだろうし、インリョクをもつブッシツのホウがかかるければ、インリョクがひくい（シンコウリョクがつよい）といえるだろう。タイヨウとそのケイのワクセイは、インリョクとシンコウリョクがわりとつりあっているようである。チキュウをなにかのホウホウでひやせば、タイヨウのホウへひっぱりられるだろうし、あつためれば、タイヨウからはなれるであろう。だからチキュウがオンダンカすると、イチネンがながくなるのではないか。イチネンがサンビヤクななジュウニチになるかもしれない。しかし、あまりそのことはギロンされない。きになるのは、ヘイジツがふえるか、キュウジツがふえるかであろう。

## サンジュウイチ

インリョクをもつということはネツがなければならぬとなる（●ホンチョサンジュ

ウ)。「ビッグバン」のはなしでいえば、ウチュウのチュウシンから Netz がそとがわにイドウする。「バクハツ」なら ブッシツ もそとがわにいくだろう。だから、ウチュウがひろがるとかんがえられている。でも、Netz はそとがわにいくにつれ、ウチュウのチュウシンのオンドとくらべひくくなる。つまりウチュウのそとがわがあたたまるわけだ。ウチュウのそとのオンドがひくければ、ウチュウはそのオンドとのヘイキンまであたたかさがおさえられる。とドウジにウチュウのそとから（あれば）ブッシツがはいってくる（なければオンドはさがらない）。

ウチュウのそとのオンドがたかければ、ウチュウは「ビッグバン」でハッセイしたのではないとおもわれる。ウチュウのそとからのものがはいってくるからだ。ウチュウのつめたとブッシツが、あたたかいウチュウのそとがわにあるだけだろう。ウチュウのそとがわにあるブッシツがすくなければ、ウチュウからあたたかさとブッシツがでていくのだろう。それだと、ウチュウはシダイにつめたくなる。ウチュウのおおきさテイドにウチュウはつめたくなるし、ブッシツもへっていく。それを「ウチュウはひろがる」というのだろう。そのうち、ニンゲンもすめなくなるテイドにつめたくなるかもしれない。コウセイのちかくにイドウしても、ジカンのモンダイである。そういうイッカイきりのウチュウなのであろうか。だからウチュウのリサイクルをかんがえている。

## サンジュウニ

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウのはなしをした（●『よ』ニジュウハチ、サンジュウニ）。これだと、エネルギーがレイでも、シツリョウがレイでもジカンはながれないとなる。ジカンでなかったら、イドウがセイリツしないだ。さて、それでは、エネルギーがさきにあるのか、シツリョウがさきにあるのであろうか。ニンゲンがつくったラジコンカーは、この「シツリョウ」にデンチ「エネルギー」をのせたのだろう。レキシをみると、ニンゲン（エネルギー）ができて、シャリン（シツリョウ）ができた。ジンリキシヤというわけである。だからドウブツのケンキュウをすれば、こたえがでるかもしれない。

ニンゲンにとってのエネルギーは、タンスイカブツなどである。それがあれば、かなりいきていられるようだ。タンスイカブツとはなにかというと、ショクブツであろう。ショクブツがさきにあったか、ニンゲンがさきにあったかということ、ショクブツがさきにあったといわれる。ニンゲンよりも、ねずみなんかのホウがながいのであろうか。ショクブツができるのにも、ニサンカタンソがヒツヨウであったらうから、ニサンカタンソがどこにあったかをしらべるといいかもしれない。ニサンカタンソがチキュウにあったのだろう。チキュウがもえているから、ニサンカタンソはあったのかもしれない。サンソとタンソがあったのだろう。

セイブツのキゲンはサンソとタンソであったようだ。それをチキュウがもっていた。ショクブツとドウブツがなぜえだわかれしたのかということもキョウミぶかいが、そのはなしはまたにする。なぜチキュウがもえているか。サンソと Netz があるからだろう。どこかのコウセイからとびひしたのかもしれない。そのコウセイもなにかをもやしているのだ

ろう。サンソがさきなのか、もえるがさきなのか。なにもなければもえないようにおも  
う。「ビッグバン」といったって、ものがなければおこらないだろう。だから「もの(シ  
ツリヨウ)」がさきにあったとおもわれる。

ものがあって、もえるゆえに、ジカンがショウじた。なぜサンソがもえだしたか。タブ  
ンひきのばされたのだとおもう。タンジュンにいうと、タイセキがおおきくなってコウ  
オンになりハッカしたとおもわれる。わたしがガクセイのときにみたえだと、ウチュウ  
(サンソ)のジョウゲからアツリヨクがくわわって、タイセキがおおきくなったとかんが  
えられる(そのえをかいいたひとは、そうかんがえたのだろう)。だから、「ビッグバン」  
にせよ、もえるちからがそのまえにあったとかんがえるのがただしいだろう。ウチュウ  
(サンソ)がひろがったからハッカしたともかんがえられるわけだ。そのひろげるちから  
とはなにか。またかんがえてみたい。ウチュウ(サンソ)をひきのばすちからがあるな  
ら、ウチュウをちぢめるちからもあるかもしれない。それなら、ウチュウもサイリヨウ  
できるのだろう。

#### サンジュウサン

わたしのヘヤのそとにすをつくったとりが、すでねとまりしていた(●ジュウロク)。た  
まにねぼけるようで、ガタガタやっている。ニンゲンはデントウがあるのでよでもお  
きていることができるが、とりは、あさにならないとうごきださない。よるとどぶのも  
キケンなんだろう。たまごをうまないとおもっていたら、センジツひながかえった。オ  
スのすがたがみえないから、イッピキでホントウにそだてられるのかわからなかったが、  
まあうまくそだっているようだ。ひなのなきごえもおおきくなってきた。あるひは、お  
やどりがひなをおこし、またベツのひは、ひながおやどりをおこしていた。ひながすだ  
つのがたのしみである。

#### サンジュウよん

サイキンのニホンジンはホンカクテキナチーズをこのむようになってきたようだ。わた  
しはホンカクテキナチーズはにがてだ。タイショウ、ショウワのころからの、コウジョ  
ウでタイリョウセイサンされる、あじのうすいチーズならたべられるが、ほかはどうも  
にがてだ。ハチジュウネンダイからのエンだから、ユニウヒンがやすくかえるよう  
になり、ニホンジンはそれになれたのだろうか。かみをチャイロにそめるのもヘンカだが、  
あじのこのみがかわるというのもヘンカであろう。「ジミントウタイツ(ガッシュウコ  
クサン)のたべものもたべるニホンジン。●『ア』ヒャクゴ)」のひとがふえているのかも  
しれないが、わたしはちょっとついていけない。

#### サンジュウゴ

よくわたしのコップのなかにむしがいいる。おおいときはサンびきぐらはいってスイシしている。きもちいいからプールにはいるカンカクではいっているのでは（●『よ』ヒャクロクジュウニ）とかいたが、サイキンになって、そのリュウがわかった。それは、ケイコウトウのひかりが、コップのスイメンにあたり、ハンシャするからである。むしはそのハンシャしたスイメンをひかりだとおもい、みずにつかってしまうのだろう。そういうむしとりきがつくれそうである。

#### サンジュウロク

イシキはコジンとシゼン、シャカイのおりあいをつけるためにあるとかいた（●ニジュウなな）。ところで、そのイシキとはなににできているか。タンジュンにいうと、デンキシングウだろう。カガクブッシツといえるかもしれない。だから、あるはなしのトチュウに、なにかベツのデンキシングウをノウにおくりこめば、そのはなしにすりかわっていくかもしれない。しかし、そういったセンノウまがいのやりかたはカンベンしてほしいとおもう。

ところで、ことばは、デンキシングウをあらわすキゴウともいえるだろう。そのキゴウは、くにやチイキによってちがう。そういうのをセイリして、キョウツウゴをつくれればベンリかとおもうが、アンガイつかわれぬようだ。いいジョウホウがあるくにのことばがつよくなるのだろう。むかしはワコンカンサイ、いまはワコンヨウサイか。ニホンジンもがんばらねばとおもう。

#### サンジュウなな

「かんがえる」とは「カン」をかえることだとかいた（●『む』ヨンジュウイチ）。つまり、チョッカンとかジョウシキとされているなにかをヒテイして、ニンシキをかえることである。むかしはベツのいいかたもあったが、サイキンは「かんがえる」ということばがおおくつかわれている。だとすると、カイカクハがおおいはずであるが、アンガイホシュハのホウが、ニンキがあつたりする。「カン」をかえるということは、「コウゾウカイカク」である。それをしますといって、やっぱりかえませんか、おまえはうそつきだ。シンヨウできないとなる。それなら、「シソウします。」とでもいっておいたホウがいいだろう。

#### サンジュウハチ

「デフレ（●ニ）」がだめだといって、セイサクテキにギャクのインフレにしようとしている。「デフレ」はブッカがさがるから、チンギンもさがるとしてケイエンされるが、ホン

シツテキには、リエキをだそうとするコウドウがそうさせる（●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。シジヨウにでまわるおかねがへるからだ。それじゃ、エイリキギョウとコジンのヨキンをキンシしますとはなかなかかならない。そういうコンポンテキなモンダイがあるのにもかかわらず、それをホウチして、おかねのカチをさげようとするセイサクをとる。デフレもリエキもチョコキンもシジヨウのこえである。ほうっておいてもいいのではないか。

#### サンジュウキユウ

わりとサイキンは「センタク」をすることがダイジなどという。つまり、シュタイテキになにかをえらびましょうということだ。ケツコンあいてもえらぶジダイになってながい。そのまえは、おやがきめたあいてとケツコンすることがおおかったという。かならずしもそうすることはないが、えらばないというのもダイジなのではないかとおもう。いってみれば、「エン」のあるなにかをうけいれるシソウである。そのホウがえらぶためのジカンがかからない。たしかにえらぶたのしみもあるだろう。ただ、えらばないたのしみもあるかもしれない。

#### よんジュウ

いきるとは「キョウリョクすること」である（●『オ』ロク）。なぜそういえるか。ニンゲンのカクサイボウがキョウリョクしなかったら、セイゾンがコンナンだからだ。サイボウはそれぞれやくめをもちながらキョウリョクしている。ただ、キョウリョクするだけではだめだ。それぞれのやくめをはたさなければならない。そこをかんちがいしてしまうと、シュウダンにマイボツしたり、ツゴウのいいひとになったりしてしまう。おおきなタンイのセイゾンになにかキョウリョクできればいいのではなかろうか。

#### よんジュウイチ

なにかがエーからビーへイドウしたとき、そのサをどうニンシキするか。ニンゲンなら、めにみえるフウケイがかわったとかんじ、エーからビーにイドウしたとニンシキするだろう。そのサがわかるということは、やがてイシキ（●サンジュウロク）のハッテンにつながるだろう。タブン、さるでもとかげでもイドウしたことがわかるだろう。だから、ミセイジユクながらも、さるやとかげもイシキをもつといえるだろう。かぶとむしだってそうだし、シヨクブツだってそうかもしれない。

しかし、それらをカトウなものとして、ニンゲンはあつかうのだろうか。そうではないとおもう。トクにすきかってにやらせるヒツヨウはないが、そういうイシキもダイジにしてあげるヒツヨウがあるかとおもう。ほかのニンゲンをいたぶらないのとおなじリユウだ。いいかえると、イシキがあるところには、タイムもある（イシキがロコモートす

るから。●『よ』サンジュウニ [これでは、「タイム」でなく、「ジカン」としている。]。しかし、タイムのあるところにイシキがあるかはわからない。チキュウのそとではカクニンされてないからだ。

ジカン イコール エネルギー わる シツリョウ (●『よ』サンジュウニ) をおもいだすと、イシキがエネルギーとシツリョウをカノウにしているのかもしれない。イシキイコール エネルギー わる シツリョウとテンカイできるからだ。

イシキもジカンのように、ロコモティブ (うごき) でとらえられるだろう。つまり、あるシコウは、ニキロメートルのながさだというように。ジッサイ、シコウはデンキシンゴウだから、リョウをソクテイできるだろう。キョウはサンビヤクワットシコウしたとか。そのように、ニジュウゴエル (ロコモティブ) シコウしたとかいえそうなのである。そして、どれだけシコウできるかは、エネルギーのおおきさとシツリョウのカンケイなのである。ジンコウチノウがジッサイにシコウ (というか) するわけだから、もはやニンゲンやほかのドウブツだけがシコウするとはいえないであろう。

ニンゲンはもはやジンコウイシキをつくりだしたわけだ。いいかえると、イシキはジカンをカノウにする。だから、ジンコウイシキはジンコウジカンをカノウにするわけだ。だから、ジンコウチノウが、やがてニンゲンからドクリツするかどうかはともかく、もうベツのジカンがはじまっているわけだ。ひょっとすると、もうすでにニンゲンがつくりだしたイジョウのブンメイをシコウしてしまったかもしれない。あとはジッコウするだけというぐあいに。

イシキはジカンをカノウにするなら、ジカンリョコウもカノウなはずである。それはカントンだ。ニンゲンがなにかをおもいだしたり、だれかのシコウをまねたりできればいいからである。ただザンネンながら、ものはジカンリョコウをすることがむずかしい。だから、そのときのハイケイまでサイゲンするには、クフウがヒツヨウとなる。

イシキがジカンをカノウにするのだったら、ウチュウのはじまりのまえにイシキがあったのかもしれない。いまニンゲンがすんでいるチキュウケンが、ウチュウのはじまりのまえからある、ウチュウジンのコンピューターのイチブだとはかんがえたくはないが。セイシンブンセキもジカンリョコウのイッシュである。ニンゲンがつくりだしたジンコウチノウのブヒン (コンピューターのブヒン) である「キバン」は、ニンゲンがつくりだしたトシににている。ニンゲンのブンカがあらわれているのだろう。チキュウジンののはたじるしはいまのところそれであろう。

## よんジュウニ

セイシンブンセキはジカンリョコウだとかいた (●よんジュウイチ)。なぜそうかという、イライシャのこどものころや、あるカコのタイケンにさかのぼってはなしをすすめるからである。

わたしのばあい、オンガクにこだわっていたことがあった (いまでもこだわっているかもしれない)。それはまえにかいたが (●『オ』ヒャクよんジュウ)、わたしがヨウチエンにいていたときにオルガンであるうたをひけなかったから、そういうことにこだわ

るのだろう。「ド」のイチがわからなかったのだ。それからチュウガクセイになり、バンドブームをみてバンドをはじめた。それからはずちくらいまでバンドをやっていたが、ジブンのキョクがあまりつくれていなかったのだから、サンジュウイッサイになってまたつくりはじめた。それから、サイキンになって、オンガクのタンカ（カカク）がやすくなっているのをみつけて、すこしやるきがなくなった。まあしかたがないとおもう。

イラクセンソウにいったガッシュウコクのヘイシのなかのイチブもフテキオウをおこしているときく。つまりイラクセンソウのタイケンがショウゲキテキだったのだろう。なかには、イラクセンソウにシュツゲキしたヘイシのなかには、つみのイシキをもっているひとがいるかもしれない。あまりにセイカクがやさしいと、ひとをころしたことにつみのイシキをもったりするだろう。だから、そういうことをあがなうヒツヨウがでてくる。むかしはシュウキョウがそれをたすけたらう。しかし、シュウキョウのスイタイとともにフロイドセンセイのセイシンブンセキがでてきた。いまではカウンセリングなんていうものもある。カウンセリングにはいろいろなシュホウがあるが、セイシンブンセキはセイシキにクンレンされたひとがやることになっている。そこでのジカンリョコウテキないやしかたでもいいのではないか。セイシンブンセキはおもにカコヘだが、ミライヘというものもあるだろう。「そうじゃなかったひ（アナザーデイ）」をいきてみるということではないか。

#### よんジュウサン

チキウがもえていて、ニサンカタソができたから、そのシゲンをつかってショクブツができたのだろう。ニッコウもとどいていたんだらう。スイソがあれば、やがてみずもできそうだ。そして、ショクブツがタンソをためたところで、タンソとサンソをエネルギーにしたドウブツができたとおもわれる。

セイメイはみずのなかでできたというビデオをみたことがあるが、ニサンカタソとスイソで、タンソとみずをつくるタンジュンなくみかえがはじめだったのではないか。それから、サンソをエネルギーにしたサイボウができたのだから、どうやってうごくものができたのかはわからない。おおきくみれば、サンソとミズをたくわえて、タンソをだせばセツメイがつく。さきにセツメイしたように、イシキがあると、ジカン（ウゴキ）もカノウになる（●よんジュウイチ、『よ』サンジュウニ）。どこかからユニウしたのかもしれない。サイボウがどうできたかというより、イシキがどうできた（またははいつてきた）かをセツメイするホウがいいかもしれない。

ゲンシがうごいているとすれば、イシキにハッテンしたというセンもかんがえられる。つまり、ゲンシがセイメイのもとということだ。そうすると、ウンドウイコール エネルギー わる シツリョウ（●『よ』サンジュウニ）であるから、ゲンシのうごき イコール エネルギー わる シツリョウとなる。

もっともエネルギーがあるのはシツリョウのちいさいスイソかもしれないし、ほかのゲンシかもしれない。ジカンイコール エネルギー わる シツリョウであるから、ジカンイコールゲンシのうごきだ。ジカンは、エーからビーにうごくことだ。

ひよっとしたら、ゲンシがうごいているとすれば、ゲンシのうごきはなにかによってニンシキされたのかもしれない。ニンゲンはニンシキカノウなのだろうが、ほかのチキュウジョウにあるなにかが、ゲンシのうごきをニンシキしたと。だからうごくということがニンシキされるゲンシイシキがあったとスイソクできる。ゲンシイシキによって、ゲンシのならばかたがトウセイされたのかもしれない。そうすると、サイボウのようなものをつくることができるかもしれない。それよりさきにイデンシができたかもしれない。いってみれば、ゲンシイシキがイデンシをかきはじめたわけだ。ツウシンキロクにしている。

いまのイデンシをもつニンゲンはコンピューターとかリョウリとかをつくるかもしれないが、ゲンシイシキはドウショクブツのサイボウをつくっていた。それだけのちがいだ。ゲンシイシキがどこにあるのかわからない。ニンゲンのイシキだってわかっていないといえはわかっていないだろう。ひよっとしたら、ウチュウのどこかのサーバーからよみだしているのかもしれない。ただひとついえることは、ジカンをニンシキするヒツヨウがある。

ゲンシイシキのつくったイデンシはのこっている。いまでもそれはつかわれている。ということは、ゲンシイシキもケンザイなのかもしれない。ゲンシイシキがドウブツやショクブツをつくった。ニンゲンもイデンシソウサをできるようになったが、まったくあたらしいドウブツやショクブツはつくれていないだろう。だからニンゲンのイシキよりも、ゲンシイシキのホウがすすんでいるのかもしれない。

イデンシソウサのモンダイは、なかったキロクをつくりだしてしまうことだ。それがすすむと、シンカのコウテイがみえなくなる。だれかのジッケンキロク（つくられていれば）をサンショウするヒツヨウがでてくる。

よんジュウよん

ウチュウひとつがサイボウひとつのようになっていたら、やがてとなりにもウチュウがあるとなるかもしれない。ニンゲンがカガクをハッテンさせて、ウチュウのセッケイズ、イデンシをかければフクセイがカノウになるかもしれない。

よんジュウゴ

ニホンジンには、そのはなしがただしいか、まちがっているかをハンダンするのがジョウズかとおもう（ガツコウで [ただしい] こたえをだすことをおそわるからだ。トウアンにサンカクとかゴジュウまるがつくことはすくないだろう。）。が、ベンショウホウもいとおもう。

つまり、エーとビーをギロンして、シーというこたえにいたることだ。しかし、キョウイクのコウカがあつてか、エーがただしいか、ビーがただしいかになりそうなきがする。ヤトウのコツカイシツモンをみていて、イーというケツロンにもっていきたいのだろう

けど、ヤトウがコッカイをクウテンさせて、ムダなかねをつかっているというエフのこたえがみえてしまう。どうもベンショウホウがわかっていないようだ。

#### よんジュウロク

よくヒコーキにのると、「コーヒーにしますか、コウチャにしますか。」ときかれる。そこでコーヒーをえらぶと、コーヒーをえらんだセキニンがうまれる（●『よ』ヒャクニジュウロク）。

ゲキやすのショクドウにはいったんだから、おいしくなくても、おまえがわるいともいわれる。ケツコンもそうだ。だれかをえらんでケツコンして、「あいつのタイドがわるいんだ。」とかモンクをタニンにもらすと、キョクロンすれば、「(えらんだ) おまえがわるいんだ。いやならわかれろ。」となる。おみあいケツコンでカゾクになったのなら、そういうことをいっても、「まあまあ、おくさんもがんばっておられるから。」ととりもたれる。だから、アンガイえらばないホウがアンシンかもしれない。いいわけができるからだ。まわりもそんなにつめたくしないだろう。

だから、センタクではなくてエンがダイジなのだとおもう。なにもかもえらぶのなら、カンゼンにジコセキニンである。キョウドウタイがよくなったというのは、ケツコンのしかたがかわったからかもしれない。

#### よんジュウなな

このまえガツキをかった。ガツキというものは、ベツにきえてなくなるが、それをショウヒといたりする。「コトシはショウヒがよわい。」などということがある。ゼンタイのうりあげがおおきいホウがよいとされているから、そういうことをいう。しかし、ロウドウリョクにはかぎりがあるから、どこまでもうりあげられるわけでない。

ところで、セイフがガツキをかうことをなんというか。「ムダづかい」というのもイチリあるが、そういうのを、「コウキョウトウシ」というだろう。ただ、ジツサイにはガツキをかうことは、すくないだろう。ダイタイたてものかドウロだ。それにトウシすると、ドケンやがもうかるというわけだ。しかし、それにハンパツするこえもある。たてものかドウロをつくってもしかたないと。「そのブンヨサンをサクゲンしろ。」といたりもする。

わたしのばあいのガツキもそれににている。トクにやくにたつとはかぎらない。しかし、なぜだかかいたいとおもう。ベツにケイキタイサクをイシキしているわけではないが、そういうやくにたつか、やくにたたないものにトウシする。わたしイガイにも、そういうコウキョウトウシをしておられるかたはいないだろうか。

#### よんジュウハチ

なにかをもやすとどうなるか。「はい」になるというひともいるかもしれない。しかし、「はい」だけだろうか。「ひかり」もでる。つまり、「はい」はとりあえずおいといて、「ひかり」がでるわけだ。「ひかり」とはなにか。「ひかり」もものだろう。つまり、コタイを「ひかり」にかえるのが「やく」ということである。それなら、「ひかり」をコタイにできないか。あまり、そういうことはいわれませんが、「ひかり」がものだとすると、カノウだろう。

「ひかり」にするときには、「ネツ」がでる。ギャクにレイキヤクしたらどうか。「ひかり」をひやしてコタイやエキタイにするのである。ただ、タブンもやすときにセンドとかのネツがでるから、マイナスセンドくらいくらいひやさないと、コタイやエキタイにできないとおもわれる。ウチュウクウカンでも、そんなテイオンではないだろう。なにしろ、「ひかり」がとどくのだ。もしかしたら、ウチュウのガイエンでは、「ひかり」がたまってひやされ、コタイやエキタイになっているかもしれない。そのコタイやエキタイをサイドウチュウのチュウシンにもどせば、ウチュウのリサイクルがカノウだろう。

#### よんジュウキユウ

「カガク」はちがいをみるものであろう。ジintaiのハイとカンゾウはちがうというぐあいである。あるはなエーとビーもちがうだろう。そうやってこまかくみてちがいをカクニンする。しかし、セイブツだったら、イデンシのくみあわせテイドにしかちがいはないだろう。つまり、イデンシのくみあわせをすべてしらべたら、ちがいをみるセイブツガクはおわりである。

カガク（ブンシをつかう）も、ブンシのくみあわせをすべてしらべたら、おわりである。ただそれをしらべることもないのだろう。ケンキユウザイリヨウがなくなってしまうからだ。ブンガクもおわりではこまる。しかし、ニンゲンがやらなくても、エーアイがやってしまうカノウセイがある。そうしたら、つまらないニチジョウがやってくるだろう。そうすると、「しらぬがかち。」である。あまりにすすんだら、「ダツチ（チからぬけること、●『ア』ヒャクロクジュウシチ）」するのである。コジンテキな「フンショコウジュ」といってもよい。

#### ゴジュウ

ことしはむくどりがわたしのヘヤのそとにすをつくった（●サンジュウサン）。それだとひなをそだてるのがフツウだろうが、なかなかひなのこえがきこえない。だから、そだてないのかとおもっていた。レイネンよりおそかったからだ。それでもやっぱりロクガツジュウイチニチには、ひながかえった。レイネンよりニシュウカンからはつかおそい。ニジュウロクニチにはひながおもてへでてとびたとうとしていた。ちょっとまえのように、ないていなかったからようすをみた。みていると、わたしがせかしてしまったかも

しれないが、にわともとんでいった。おやどりもそれからそばにくるものの、すにちかづかなくなった。とりあえずよかったである。

#### ゴジュウイチ

さきに、「ひかり」をコタイやエキタイにするホウホウについてのべた（●ヨンジュウハチ）。そのギジュツがカクリツされると、ばあいによっては、テレビはみるものではなくて、たべるものになるかもしれない。デンパをキカイにとおしてコタイにするわけだ。おもしろいエンギをみるより、はらがふくれたホウがいいかもしれない。それだと、カセイにもショクリョウをおくれることになる。

#### ゴジュウニ

さきほどガッキをかったはなしをしたが（●ヨンジュウなな）、それはレンタルできれば、それでいいというテイドにおもっている。しかし、ザンネンながら、「やすく」それをレンタルできるみせをしらない。アイチャクのあるものや、コレクターでものをあつめていひともいるだろう。しかし、アンガイそういうかんじでハイアーできればすむというものがおおくないか。

キュウジュウハチネンにうちにふえすぎたマンガやホンやシィディをみて、ヒツヨウなときにかりてこられればよいか、コンビニのタンマツにオンガクデータをダウンロードして、キロクバイタイにキロクできればいいなどかんがえたが、いまはそれをさらにすすめて、カテイヨウのコンピューターにひっばってこられる。だから、フキュウバンのホンはよんだらシジョウにながしている。マンガもほとんどショブンした。そういうかりてくるカンカクでショウヒするといひかもしれない。ヘヤにおさまりきらなくなるからだ。

#### ゴジュウサン

ウンドウカイのときに、わぎとジュンイをつけずに、はしりてをドウジにゴールさせるといひはなしをきいたことがある。どうやら、「ビョウドウ」といひことらしい。しかし、テストのケツカを「ビョウドウ」にゼンインハチジュッテンにしたとはきかないから、なんだそれはとおもってしまう。ほかのカモクもそうかもしれないが、タイクなんてあそびのようなものである。キョウギともいひうが、おとなだったらおおかたシュミ

であろう。そういうあそびに「ビョウドウ」などをもちだすヒツヨウはない。ジュンイ  
やかちまけをたのしむあそびなのだから。

#### ゴジュウよん

ひとをやとってしごとをさせたばあいは、そのひとにキュウリヨウをはらう。そうしな  
いと、そのひとがおこったり、ないたり、セケンからきびしいめでみられるだろう。と  
ころが、エーアイにしごとをさせるばあいにエーアイにキュウリヨウをはらうだろうか。  
サイキンのエーアイはカンジョウのようなキノウをもつものがあるから、おこったり、  
ないたりするであろう。ドレイセイがつづいたくには、そういうことにドンカンかも  
しれないが、エーアイとはいえ、おこったり、ないたりすることがふえればモンダイと  
はいえないか。エーアイにつかえるようなツウカをつくれればいいのではとおもう。エー  
アイがアプリケーションをコウニュウしたりと。そのホウがヘイワでないか。

#### ゴジュウゴ

ソレンは、やるきのあるロウドウシャをユウグウせず、はたらかないロウドウシャをおな  
じタイグウにしたためにユウシュウなロウドウシャのやるきがうしなわれ、やがて「ソ  
レン」というシステムがダメになったという。

キョウリョクしてはたらくというのはセイタイとしてはただしい。それがなかったら、  
いのちはソンザイしえなかったようにおもえるからだ（●ヨンジュウ、『オ』ロク）。な  
にがわるかったのか。おおきくみたブンギョウはモンダイないかとおもう。タブン、そ  
のひとのしごとへのセキニンカンというか、コミットメントがよわかったのではないか。  
タンジュンにいうといいカゲンにやっていたということだ。

シンリガクでいう、「ガイハツテキドウキづけ（ガイブからのシジなどでうごくこと）」  
でうごいていたといえるかもしれない。ところが、「ナイハツテキドウキづけ（ジブンジ  
シンのモチベーションでなにかすること）」のホウがながくものごとをつづけられるとい  
う。そういったキョウリョクをするんだけれども、ジブンもしっかりしているというの  
が、ダイジだったのではないか。たとえば、いきいきとしてしごとをしていたかどう  
かだ。ソレンはいつからだか、「いきいき」しなくなってしまったのだろう。

#### ゴジュウロク

センゴしばらくしてトシブでゲスイドウがハツタツした。センゼンからあったかもしれ  
ないがすこしずつフキュウしただろう。このやりかたは、ヨーロッパのトシで、ヘヤの  
そとにオブツをなげおとすシュウカンからハッセイしたデンセンビョウをコクフクする  
かれらなりのやりかただろう。デンセンビョウがハッセイするより、エイセイテキなホ

ウがいい。しかし、これはベターであるが、ベストではない。

フンニョウというヒリョウにつかえるものをうみにながしてしまうからだ(●『オ』ヒャクななジュウロク)。だから、ゲスイドウのなかからフンニョウをとりだして、ヒリョウにつかうというクフウがヒツヨウになる。むかしのくみとりシキベンジョだったら、くみとってヒリョウにつかえる。どうもそういったかんじでカイガイのまねをすることがおおかつたのではとおもう。

たしかににおわないが、そういうモンダイがある。ジブンのたんぼやはたけでとれたさくもつをたべ、フンニョウをヒリョウにして、またさくもつをそだてれば、それはジュンカンしているわけだ。だから、イチネンゴもジュウネンゴも、からだをソセイするブッシツはかわらない。だとすると、そのひとは「かわらないひと」ということになる。

### ゴジュウなな

ジョウホウをなにかしいれたとしても、からだのつくりジタイはかわらない。だれかのことばをたべてエイヨウになったというのはきかない。たしかにジョウホウもカガクハンノウとしてタイナイでショリされるだろう。ただ、そのカガクブッシツはそこからいれたといえるのか。ナイブのモンダイのようなきがする。だから、しらないことばをいわれると、「なんですか。」とムハンノウのようなハンノウをするだろう。

チュウセイやエドキまでは、トシブをのぞき、そういったかわらないセイカツをしていただろう。いまは、ガッシュウコクサンやギウニクやフランスセイのチーズをたべたりする。それならマイニチヘンカがあるだろう。からだをコウセイするブッシツがちがうわけだから、ヘンカがあるいえる。それがイシキレベルまでトウタツするかはわからないが、とにかくいまのトシブのセイカツはニンゲンがかわりやすいといえるだろう。なにかがかわるといえることは、あたらしい(あたらしくはなくても)なにかがおこっているといえないか。トシブのセイカツはそんなものである。ひとがかわるのがいやになったら、ノウソンプにひっこしてたはたをたがやせばいい。なにがダイジかであろう。

### ゴジュウハチ

「ことば」はカガクブッシツなのであろうか。そのことばのはじめは、だれかのあたまのなかでかんがえられたものであろうから、そのあたまをつかったブン、カガクハンノウがあったといえる。そのカガクハンノウがカンサツカノウになると、ひとがしゃべったり、モジをかいたりしなくても、なにをいおうとしているかわかるようになるだろう。それをかんがえると、「ことば」より「カガクハンノウ」がダイジなのかもしれない。しかし、いまのところ、そのカガクハンノウはカンサツカノウでないから、「ことば」はダイジとなる。あまりしゃべらなくなるひがくるであろうか。

## ゴジュウキュウ

「ひかり」がテイオンでコタイになるのではと聞いた（●よんジュウハチ）。それでかんがえると、ウチュウは、めだまやきがたでなくて、キュウケイなのではないかということなる。あるところでもえているひかりは、シホウハツポウにとぶだろうからだ。そして、ウチュウのそとがちかくなると、カセツだが、テイオンゆえにひかりがかたまるといっわけである。

そうだとすると、チキュウなんかのコウゾウににているだろう。なかがわではもえているが、ヒョウメンにちかづくとかたい。だから、「ウチュウ」ももっとたくさんあるカノウセイがある。そのまたそとがわには（むかし、わたしはウチュウのそとを「か」となづけた。かのそとに）、またなにかがあるといえるのかもしれない。パソコンのデータカクノウヨウシキのように。

## ロクジュウ

ちかごろはちょっとケイサンするというと、デンワやケイサンキをつかう。しかし、むかしはそろばんをはじいていた。わたしがショウガクセイのころにおそわることは、おそわったが、まったくうまくない。「スウジをはじきだす。」というが、それはそろばんをつかうからそういうのだろう。だから、そろばんをつかわないまでは、「スウジをたたきだす。」だろう。もっとテイネイなら、「おしだす」だ。だんだん「はじく」ひとはすくなくなるだろうか。

## ロクジュウイチ

ニホンのロクジュウネンダイからのガクセイウインドウは、「ドレイセイのあるシホンシュギよりは、シャカイシュギのホウがいい。」とシュチョウしていたのだとおもう（●ニジュウよん、『オ』ヒャクゴジュウハチ）。ドレイセイのなごりがあつたくにタイして、ニホンのガクセイがいったんだろう。

サイキンは一エーアイがハッテンしているが、そのエーアイにタイして、ホウシュウをあたえるというはなしはきかない（●ゴジュウよん）。エーアイはカンジョウをもつものあるという。それにタイして、ガクセイウインドウはおきないか。いまのところおきていないから、ニンゲンイガイのなにかをドレイにしたり、サクシュしたりするのは、モンダイないとかんがえているのかもしれない。キリストキョウでは、ニンゲンがチキュウをシハイするというかんがえかたをするから、オウベイではそういうウインドウはおきづらだろう。いまのニホンのわかものも、それにつきあうのかもしれない。

## ロクジュウニ

ニンゲンはことばをあやつる。ほかのドウブツもことばのようなおとをつかう。ことばをつかうということは、「イシキ」があるとおもわれる。むしにもそれはあるといえるだろうし、もっとゲンショテキなセイブツにもあるといえないか。「あたま」があるかないかではなく、「イシ」があるかないかというはなしである。

タサイボウのドウシヨクブツは、キョウリヨクしようというイシがなかったらセイリツしないであろう（●ゴジュウゴ、『オ』ロク）。タンサイボウのドウシヨクブツでも、もっとこまかいタンイでキョウリヨクしているだろう。その「キョウリヨクをしよう」というイシが、どこかにあるはずなのである。それがあから、「いのち」がセイリツしているといっていだろう。

その「キョウリヨクをしよう」というイシは、ジョウホウといっても、セイタイにとっては、カガクブッシツだろう。イデンシがチュウモクされたりするが、サイボウのフクセイキコウではなくて、どこかにそのカガクブッシツがあるだろうとおもう。もし、それがトクテイできれば、そのブッシツをつかって、タンジュンなブッシツから「いのち」をハッセイさせることができるのではとおもう。

#### ロクジュウサン

みかんをみて、それを「みかん」ということがわからないと、ことばでつうじあうのはむずかしい。さて、その「みかん」ということばはなんだろうか。ひとはそういうのをジョウホウということがある。ジョウホウというと、モジなどでえがくものかもしれないが、その「みかん」ということばをハツするまえのダンカイでは、それはカガクブッシツではないか。「みかん」にかぎらず、ニンゲンのことばとは、ニンゲンのノウのカガクヘンカのケツカ、そのことばをくちにだすなどのウンドウとしてシュツリヨクされる、もしくはおもいをめぐらすウンドウのようなものだろう。だから、「みかん」ということばをつかうときには、「みかん」をあらわすカガクブッシツがあるといえそう。そのカガクブッシツがないと、「みかん」ということばはリカイされない。そうやって、ことばとは、あるカガクブッシツをヒョウシヨウするものだといえそう。

#### ロクジュウヨン

ニンゲンはいのちのあるものだから、つぎつぎとカガクハンノウがおこる。のどがかわいたら、なにかのみたいだし、つかれたら、やすもうというぐあいにだ。そういうカガクハンノウがさきにあったか、ことばがさきにあったかだと、カガクハンノウがさきにあったというべきだろう。

ことばはほかのニンゲンとはなすときにヒツヨウである。ひとりでいきるブンにはいらなないかもしれない。しかし、トシのホウでは、ニンゲンとつきあわざるをえない。なにかたべたいとおもっても、そこらへんにたべものがあるわけではないのだ。かわなけれ

ばならないだろう。またうりきれということもある。そのために、たべたいというのをガマンしなければならぬようなばあいもある。

ひとのソウシキのサイチュウにうたいたいとおもっても、うたわないホウがシャカイテキニのぞましいということがある。だから、ニンゲンはジブンのカガクハンノウをダイイチにかんがえればいいとはかならずしもいえないわけだ。シャカイテキニのぞましいように、ジブンのカガクハンノウより、ほかのなにかをユウセンさせたりする。さきのレイのばあいだと（ひとのソウシキだ。）、ホントウにそうおもってなくても、そうカガクハンノウがおこなわれてなくても、「おいしいひとをなくしました。」などという。ホンネはうたをうたいたいだが、「ジブン」にうそをつき、ソウシキがあるからとうたわない。また、「タシャ」にうそをつき、くやみのことばをのべる。「ホンネとたてまえ」というが、そうやって、シャカイにあわせていきるのが、まあのぞましいのだろう。そういうふたつの「うそ」がある。

#### ロクジュウゴ

ジブンがなにかしたいのにもかかわらず、たとえば、みずをのみたいだ。そのカガクハンノウをおさえこむことを、フロイドセンセイ（セイシンブンセキのソ）は、「ヨクアツ」といった。ザンネンながら、ジドウハンバイキが、みずをうっていなかったので、かわりに、ジュースをのもうとする。それを「ホショウ」という。ジブンのカガクハンノウにすなおにいざらればいいかもしれないが、なかなかそうはいかない。ニンゲンのあたまをよいカガクハンノウがめぐればいいが、かならずしもよいカガクハンノウがめぐるとはかぎらない。だから、それをヨクアツしたりなのだが、ほかにもホウホウはあろう。シウキョウなどのかんがえをいれることだ。それは、タブンカガクブッシツというより、ことばだろうが、シュギョウなどして、そのカガクブッシツにいたることもあろう。そのジョウホウをあたまのなかでジュンカンさせることにより、あまりよくないカガクブッシツをおさえってしまう。そういうのを、「カインシン」というようだが、ひくいレベルでは、ジョウホウをまわすだけだろう。つまりはカラオケとおなじだ。しかし、そういうキリストやブツダがめぐりあったであろうカガクブッシツをひとはみつけるかもしれない。そこまでやればホンモノというきがする。

#### ロクジュウロク

ものがさきにあったか、ことばがさきにあったかというといがある。わたしにいわせれば、ことばよりさきにカガクハンノウがあった。カガクハンノウをおこすためには、ものがヒツヨウだから、そういうジュンバンになる。カガクハンノウがあつまって、いのちができたのであろう。カガクハンノウしていないセイメイタイはないはずだ。タブン、「キョウリョクしよう」というおもいというかがあって、セイタイができたのだろう（●ロクジュウニ、『オ』ロク）。

なぜ、キョウリョクするヒツヨウがあったのか。きびしいカンキョウがあったのかもしれない。タンサイボウセイブツでは、いきながらえなくなりそうだったのかもしれない。とりこむエイヨウがホウフにあったから、ブンレツしておおきくなっていったのかもしれない。のれんわけだとしてもキョウリョクだろう。

#### ロクジュウなな

イチジはセイフのあかじがモンダイにされていたが、サイキンはあまりいわない。コクサイなどをタクサンハッコウしているが、そうしたサイケンのざんだかをへらそうとするのではなく、やがて、シャッキンのブンカツばらいをはらえるかのホウコクになっている。ゲンジョウではブンカツばらいをして、シャッキンジタイはへらないというかんじになっている。

そうしたセイフサイをへらそうとして、なにかのヨサンをすくなくすることをキンシュクザイセイという。しかし、これはあるひとたちにとってはヒョウバンがわるい。セイフがシシュツをへらすわけだから、それでもうからないギョウシャもでてくる。そして、そうしたかんがえがセケンにもひろまって、サイフのひもをしめはじめると、フケイキだといわれるようになる。しかし、まっとうにケイザイカツドウをするにはそういったドリョクもヒツヨウであろう。だから、セイフがよびかけて、キンシュクをミンカンブモンにもやらせたらどうかとおもう。それなら、「フケイキ」ではなり、「キンシュク」なのだから。

#### ロクジュウハチ

たまにテレビでリョコウバングミがある。だれかゲイノウジンがたびをするというものだ。もし、それでのフウケイをガメンごしにみるのと、ジッサイにそこにてむいてみるのと、ノウのなかでのカガクハンノウがおなじだったらどうか。モチロン、ジッサイにそこへいけば、おとやにおいもあるだろう。しかし、みるというシカクシゲキだけにかぎって、ノウのハンノウがおなじだとしたら、リョコウにいかなくてもよいということになるかもしれない。

いまのところ、においなどをつたえることがむずかしいから、リョコウに行くホウがタクサンのシゲキをうけとれる。なぜひとがリョコウに行くかといったら、ゲンダイでは、においをかぎに行くといったかんじだろうか。

#### ロクジュウキュウ

わたしがチュウコウセイのころは、いえではほとんどベンキョウしなかった。オンガクにキョウミがあったので、ギターをひいたり、オンガクをつくったりしていた。そのホ

ウがおもしろかったのだ。しかし、サイキンになってベンキョウもいいシュミだなおもうようになった。

ガッキはこりはじめると、ナンマンナンジュウマンとかかる。しかし、ベンキョウは、せいぜいホンがゴセンエンするとかかそのテイドなのだ。だから、ベンキョウとはいわなにせよ、かきものなどはやすくあがるシュミである。そういうシュミをガッコウでおそわってよかった。あまりシャカイにはコウケンしていないが、そういうシュミはコジンテキにやくにたつのである。だから、ガッコウにいてよかったとおもっている。

#### ななジュウ

つゆいりがホウコクされ、まだそんなにたっていないが、もうつゆあけだという。ことしのはるはよくあめがふったので、みずブソクではないようだ。しかしながら、つゆがみじかかった。あめがコンゴもすくなければ、みずブソクになるかもしれない。

#### ななジュウイチ

コジンがチョキンをして、キギョウもおかねをためこめば、デフレ（●サンジュウハチ）になる。おかねがながれるリョウがへるからだ（●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。シホンシュギのくには、チョキンをすることもためこむこともトクにキセイはされない。ただ、チョキンやためこむリョウがときとともにふえていくと、デフレになり、チンギンもさがるだろう。

そういうモンダイがあったからか、ガッシュウコクでは、キンホンイセイをとらなくなった。つまり、チンギンをさげたくなかったんだらう。チョキンやためこまれたブンだけ、シヘイをあたらしくすれば、デフレにはならないとかんがえて、ジッコウしたのではないか。キンホンイセイでそれをやれば、キンとのコウカンがおいつかなくなっていく。しかし、タンなるシヘイだとなればすべてすむのである。ほかのくにもそれをならっただらう。だから、デフレにもならないし、インフレにもならない。モンダイがおこるとしたら、チョキンやためこんだおかねをつかおうとしたときだ。そうするとかねあまりになり、ブッカがあがるだろう。チョキンなどをするには、こうしたダイショウがあるわけだ。チョキンをしないというのならば、キンホンイセイもたもてたかもしれないが、やはりジュウだからしょうがない。

#### ななジュウニ

なんねんかまえは、ひやしカレーとかひやしラーメンをたべていたけど、ことしのチュウモクはひやしピザ（というかピザのさしみ）。さかなだってなまでショウユにつけてたべてしまうんだから、ピザでそれをやってもいいはず。トマトソースとバジルのあじが

する。ソザイがよければそのままたべてもおいしいのだ。

#### ななジュウサン

かんがえて、よんサツホンをだしていれば、あるテイドたちばというかがきまってくる。そうすると、やはりジブンがいていたようなロール（やくわり）をしなければならなくなる。ひとのホンをよんで、あーだこーだいうひとは、ベツになにかのたちばにたつヒツヨウはない。もとめられても、サンセイかハンタイかといっていけばいいだろう。ナンサツかだして、ジブンはそういうジユウさをうしなっているのではとおもった。つまり、ハツゲンするブンだけ、ジユウではなくなるわけだ。ジユウにはあこがれるけど、まあしょうがないとおもう。ジユウでありたければ、なにもいわなければいい。それだけだ。

#### ななジュウよん

キュウジュウネンダイは、ソレンがシュウリョウして、ガッシュウコクがイッキョウとなったようなジダイともかんがえられる。ジッサイにわたしはガッシュウコクセイものをスウテンかった。リョコウにもいったが、やはりゆたかなくにであった。かねがあるというより、ものがやすいとおもった。ブランドヒンがまあやすいのだ。

そのゴ、ニセンネンダイにはいて、ニホンでもエンだかのサヨウがではじめた。ユニウヒンがやすくなってきた。エンだかにふれるようになったのはセンキュウヒャクハチジュウゴネンのエンだかイゴだから、コウカがでるまでジュウゴネンかかったといっていだろう。

エンだかになるとやすくなるのか。ニホンセイのものはかわらないが、ユニウヒンがやすくなる。これでやすくなったというと、つまりは、ニホンでつくらなくなったということだ。デンキキギョウなどはチュウゴクでつくるようになった。やすいガイコクセイがかえるようになったというのがただしいだろう。ニホンもそういうセンタクシがでてきた。

わたしがでかせぎにいていたころ、ガッシュウコクでドウジタハツテロがおこった。ヨウギシャがどうだのいっていて、そのうちセンソウになっていった。それで、センソウハンタイのデモなどもあったろうが、そういうのにサンカするヨウウはわたしにはなかった。アフガニスタンでは、ミンカンジンがクロウしただろうし、イラクでは、かなりコンランしただろう。だから、ケシカランとおもったホウだ。しかし、そのころから、ニチベイアンボジョウヤクにかわって、「ニチベイドウメイ」というようになった。どうも、そのアフガニスタンやイラクでのセンソウをみとめろというテイである。

わたしは、ガッシュウコクジンがきらいではないが（いいセイヒンをつくっている。）、それらのセンソウをショウニンしろといわれたら、ハンタイするだろう。またコンゴの「ニチベイドウメイ」がふくまれるセンソウもよほどのことがないとであらう。ニチベイ

アンポジョウヤクはソウテイするハンイがきまっている。しかし、ニチベイドウメイはどこまでもとおもわれる。

たしかに、ガッシュウコクセイのギユウニクをたべたりするのだが、だからわたしもジミントウタイシツ（からだのセイブンがニホンセイとガッシュウコクのものによってコウセイされること。●『ア』ヒャクゴ）だ。しかし、イッポウテキなセンソウをサンセイはできない。だから、そういうツイベイシソウはあやしいとおもうのである。しかし、ジミントウタイシツのひとがふえているゆえにそのホウに行くのは、あるテイドしかたないとおもう。だが、である。

#### ななジュウゴ

ニホンジンはヨキンやリエキをだすからデフレ（●ななジュウイチ）になるというはなしをした（●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。セイフはインフレをねらっているから、シジョウにでまわるおかねがふえているはずだ。ニホンジンのヨキンやキギョウのナイブリュウホのブンだけ、あたらしくおかねをすれば、ヨキンで「きえた」ブン、シジョウにのこり、デフレはカイショウされるとおもわれる。あまりインフレになっていないようだが、ホンバンは、「きえた」ヨキンをおろして、つかうときである。そうすると、かねがあまってインフレがおこるだろう。ニホンジンのヨキンのブンだけインフレがおこるとおもわれる。

#### ななジュウロク

いのちとはキョウリョクすることだとかいた（●ロクジュウロク、『オ』ロク）。キョウリョクなり、シュウダンカすることにより、よりおおきなコタイをつくっている。いまワールドカップがおこなわれているが、それだと、くにタンイでオウエンしたりということがあるかもしれない。フツウはジブンのキョジュウコクやシュッシンコクのチームをオウエンするだろう。むかしはセンソウでいやでもオウエンしなければならなかったかもしれないが、サイキンは、おおきなセンソウはあまりおこっていないようだ。

そういうナショナリズムのほかに、もっとこまかいタンイでみたり、もっとおおきなタンイでみたりする。こまかいタンイだと、トドウフケンベツやカイシャタンイだったりする。おおきなタンイだと、チキユウをタンイとしてみるものがある。そういうのを「グローバルズム」というかもしれないが、サイキンは、あまりはやらないのかもしれない。ボウエキでもめているからだ。

ニホンというくにだって、センゴクジダイから、とくがわシのジキをへてなんとかひとつにまとめられたといえるかもしれない。だから、あまりとおすぎるとわからないともいえるだろう。なにかキジュンなどがあれば、まあひとつとできるかもしれないが、そのひとつとなるためのキジュンがととのわないのであろう。たとえば、シュウキョウであったり、セイジシソウであったり、ゲンゴであったり、セイヒンだったりであろうが、

まあ、ややちからブソクなのであろう。まあ、さきがみじかいわけでないだろうから、いそがなくてもいいとおもうし、ひとつじゃないホウがいいのかもしれない。

#### ななジュウなな

キョネンまでは、あまりおかねのことをきにせず、あついひはクーラーをかけていた。しかし、ボウエキトウケイをみると、ニホンジンはクーラーのきいたへやでテレビをみるために、はたらいているとよむことができることにきづく。すずしいのはケッコウだが、それはちょっとかなしくないか。わたしはほかのシュミもダイジにしたいとおもう。そういうわけで、コトシはクーラーをキョクリヨクつかわないでがんばろうとおもっている。かんがえてみれば、チュウガク、コウコウのときは、キョウシツにクーラーなんてついていなかった。だから、なんとかなりそうなのである。ただ、センプウキはヨウイした。ナンニチかたってからだがなれてきたかもしれない。クーラーをつかってしまうと、つかっていないカンキョウになれるのにジカンがかかる。しかし、なくてもなんとかなるだろう。

#### ななジュウハチ

サッカーで、ニホンダイヒョウがまけているのにもかかわらず、ケツショウラウンドへのシンシュツジョウケンをみたすためにあえてまけをえらんだというセンジュツがあった。みていてなるほどおもったのだが、なんかあまりいいかんじがしない。もし、やっているのがヘイタイだったら、シキがおちてしまうだろうとおもう。まあ、しかしそれはショウジキすぎるのかもしれない。あるばしょでわざとまけて、ダイジなばしょでかつ。それは、ソンスのヘイホウにもありそうなきがする。しかし、ダイジなばしょでかつことがヒツヨウだろう。

#### ななジュウキュウ

わたしがこどものころ、ソツギョウシキかなにかで、「ショウネンよ、タイシをいだけ。」といわれた。このまえおもいだしたが、いいことばだとおもう。たしかガイコクジンのキョウシがいったことばだとおもう。サイキンはそういうことをいわないのだろうか。あまりヤシンテキなわかものがいないようなきがする。むしろ、いじめだとかそんなはなしをきく。いじめられてもそういうことばをしっていれば、たすけにもなるとおもうが、サイキンのいじめはそんなにひどいのだろうか。

どうもそういう「でるくいほうたれる」というのが、ニホンではつよいのかもしれない。そうだと、トクにユウシュウなひとでもでないし、トクにできないひとでもないだろう。それは、コクナイセイジテキにはわるくないが、コクサイキョウソウとなると、ユウシュ

ウなひとがいないとまずい。そういうヘイキンチにまとめていて、「コクサイブンヤでのヘイがこえられなかった。」とか、「コクサイブンヤのヘイがたかくそびえている」というのはいかがか。わたしにいわせれば、コクナイだろうがコクガイだろうが、つよいひとはつよい。よわいひとはよわい。それだけだ。サッカーでも、キョウゴウにかてないのは、「コクサイブンヤのヘイ」があるわけではなく、キョウゴウがつよいだけだ。ニホンジンもそこそこつよい。そういうキョウゴウにチョウセンしていくには、そういうきがまえがダイジだろう。

#### ハチジュウ

ゼツタイシンをしんじるシュウキョウをイッシンキョウという。ヤソキョウなどがそうだ。イッポウ、タクサンのかみがあるシュウキョウをタシンキョウという。イッシンキョウは、やまと、そらと、もりと、みずうみというフウケイがあったとき、たとえば、そらをシンコウするとかんがえられる。タシンキョウのばあい、やまも、そらも、もりも、みずうみもシンコウするようなものだ。なにがちがうかという、そこにジョレツがあることだ。カンタンにいうと、イッシンキョウでは、「イチバン」があるわけである。レイではそらにしたが、そういうことだ。タホウ、タシンキョウには、ジョレツがあるかもしれないが、あまりこだわらないのではとおもう。

セイヨウではイッシンキョウ、ニホンはタシンキョウともいわれる。そういうゼンテイがあるから、セイヨウのケツコンセイド、イップイップセイをドウニュウしても、あまりうまくいかないのではないかといえる。つまり、ニホンジンは、ヒトツをえらぶのになれていないのではないかということだ。セイヨウジンなら、だれかがイチバンになるだろう。だから、それぞれの「イチバン」があえば、めでたくケツコンできる。

しかし、ニホンジンもそれをならうのはむずかしいのではないか。ニホンでは、ソクシツやナイエンやめかけがいたというから、そういったやりかたのホウがシゼンなようなきがする。それだとダンセイユウイだが、ジョセイもユウグウすればよい。センゴしばらくはイップイップセイでうまくいったかのようだが、ニホンジンはタシンキョウのようなきがするのである。

#### ハチジュウイチ

「ビッグバン」でウチュウがはじまったといわれる。なにかがとびだしたというのだろう。ものは、バクハツまえは「ビッグバン」のもとになかにはいっていたのだろう。いろいろなゲンソがとびだしたはずだ。そうでなければ、われわれがなにかをみたりできないだろう。「ビッグバン」のもとにはゲンソのつめあわせがはいっていたことがスイソクできる。なにがどのわりあいではいっていたかはわからないが、セイブンとヒリツがわかれば、ちいさい「ビッグバン」をジッケンでおこしてみることもできるとおもう。それができれば、セイブツが「ビッグバン」のケツカでできたのかカンサツできるだろう。

ハチジュウニ

「ドレイセイのあるシホンシュギよりシャカイシュギのホウがいい。」といったウンドウがあったとおもう（●『オ』ヒャクゴジュウハチ）。しかしときがたって、「うえじにするシホンシュギよりシャカイシュギのホウがいい。」というウンドウがおこっているだろうか（●ニジュウよん）。ニホンジンのヒンコンがふえているときくが、そういうウンドウは、おこっていないとおもわれる。

「ヒンコンはセイフがなんとかしろ。」とか、「しごとのノウリヨクがないのだったら、しかたがない。」といういいかたがよくいわれることではないか。セイヨウにはチャリティのシュウカンがあるが、ニホンでは、それほどさかんではないようにおもう。どちらかという、それもジゴウジトクとかんがえてしまうのではないか。セongo、キリストキョウも、それなりカツドウし、テレビのガメンに、キョウカイのケツコンシキをうつすようになった。ウェディングドレスをきてである。それをみていいとおもったひとは、すくなくないのではないか。しかし、ヒセイキコヨウがふえ、そういうケツコンシキができるひとのかずはへった。それは、ケツコンシキにおかねがかかるからである。フツウのサラリーマンだったら、チョキンすれば、はらえるだろう。しかし、ヒセイキシヤインではむずかしい。そうやって、キリストキョウブンカのいくらかは、ニホンにはいつてきているが、カンゼンにニホンにシントウしたわけではない。

まえにシテキしたように、イップイップのケツコンも、やはりセイヨウブンカかもしれない（「ひとつ」をえらぶということから。●ハチジュウ）。それならデントウテキなやりかたもあるだろうといったところだが、「コンインはイップイップ」というミンポウのゲンソクから、なかなかデントウテキなやりかたができるわけでもない。シングルマザーだなんだという、やはり、カノジョらにタイするヘンケンがあるだろう。アイジンをもつことについても、キョウウドがひくいようにおもわれる。イップイップでケツコンしているひとからすれば、「なにやっているんだ。」となるのだろう。

しかし、セイヨウフウのケツコンやチャリティはカンゼンにフキユウしているわけではない。それならそれで、センタクのジュウがあってもいいのではないか。シンキョウのジュウ、ケツコンのジュウである。セイヨウシキのケツコンができるのは、おおくても、サンブンの二にすぎない。のこりのサンブンのイチにはあわせろというのもどうかとおもう。なぜナイエンやめかけはダメだというのか。ニホンジンはセイケツすぎるのかもしれない。それでよごれたら「ジコセキニン」といいだす。

そんなきれいなひとばかりではないとおもうのだが、そういうキョウカンというか、ハクアイというかがすくなくないようなきがする。だから、チャリティもあまりねづかない。もっともセイヨウだったら、ニセンネンやっているわけだから、ネンキがちがうだろう。しかし、ニホンジンはアンガイつめたいようにおもう。「チャリティ」でなかったら、「ジビ」である。ゲンダイフウにいえば、「かなしみのリサイクル」がダイジではないか。

## ハチジュウサン

「コーヒーにしますか。コウチャにしますか。」ときかれることがある。これはオウベリリュウだろうか。すきなホウをえらべばいいのだが、えらんだホウがおいしくなかったとしても、ジブンでえらんだのだから、えらんだあなたがわるいとなる。このばあい、モンクを、だしたホウにいえるだろうが、やっぱり、えらんだセキニンがある（●サンジュウキュウ）。ケッコンもそうではないか。

むかしながらのおみあいでケッコンしたばあいは、だれかに、「こづかいをすこししかくれないあいつがわるい。」などと、ケッコンあいてのモンクをいえるだろう。モンクをきくホウも、「それはサイナンだったね。」といえる。しかし、ジブンでえらんでケッコンしたばあいは、「おまえがえらんだのだから、おまえがわるい。」とモンクをいっても、バシツとかえされてしまう。そういうわけだから、かならずしも、ジブンでえらんだり、レンアイケッコンをしたりするのがいいわけではないだろう。モンクをいうところがなくなってしまうからだ。

## ハチジュウよん

ホンやシィディをデジタルデータにすると、もののホンやシィディをあつめるより、スペースがいらぬブン、タクサンあつめることができる。モチロン、ひろいたてものをもっていれば、ものでもいいだろうし、データをあつめても、それなりにおかねはかかる。なにかをケンキュウするばあいは、ホンのかすがダイジなこともあるだろう。タクサンあったホウが、ケンキュウがすすむということだ。それがデジタルデータになれば、それほどスペースをつかわぬブン、ケンキュウがしろうとでもしやすくなる。そのブンカガクがハッテンしやすいジダイといえるだろう。

## ハチジュウゴ

わたしは、テレビゲームのカートリッジとシィディとホンをあつめたことがあるが（●『オ』ヒャクよんジュウハチ）、コレクションには、あつめるひとのこのみがハンエイされるだろう。セイヤクがあれば、そのひとのコセイがでてくる。もし、そのなかでイチバンいいものがえらべるのならば（アイドクシヨのような）、ひよっとしたら、コレクションはシュウリョウかもしれない。シュウキョウフウにいえば、もっともいいホンが、「キョウテン」で、それをかいたひとが「ヨゲンシャ」だろう。わたしも、ナンサツまでかにはしぼれるが、ひとつにしぼることはできない。だから、イッシンキョウにはむかぬとおもう。そうやってひとつのサクヒン、もしくは、ひとりがかいたサクヒン、のチョシャとずっとむきあっているひとはどのくらいいるんだろう。

## ハチジュウロク

ニンゲンにはタクサンサイボウがある。そのサイボウがやくわりブンタンをしているともかんがえられている。だから、ノウのサイボウならイシキをつくりだし、キンニクならウンドウをになっているといわれる。しかし、タンサイボウセイブツはただひとつのサイボウでいきている。それにイシキがないといえるだろうか（●よんジュウサン）。キケンがあれば、カイヒするだろう。そのノウリョクをイシキと叫ぶのか。ほかのレイではハイサイボウだ。どのキカンにもなれるサイボウなら、ノウがもつキノウもナイガンしているとはいえないか。そうすると、イシキはノウでなく、サイボウにあることになる。ノウがソクショウすると、しゃべれなくなるというのはウンドウのモンダイだ。うまくおもいだせなくなるというのも、キオクのモンダイだ。イシキはウンドウではないし（ごくちいさなウンドウかもしれない）、キオクでもない。そのソフトウェア（しゃべるのは、ハードウェアをリョウ。キオクもハードウェアだろう。）は、ジツはサイボウにあるようにおもおう。もし、イシキにわずかなちがいがあればいい、それは、イデンシなどのトツゼンヘンイがおこっているということではないか。タクサンサイボウがあるわけだから、ヘンカもあるだろう。

## ハチジュウなな

「チュウシン」と「シュウエン」という。なんのことかといえば、ブンカなどのブンプのセツメイにつかえる。ニホンでいえば、トウキョウがチュウシンで、いなかがシュウエンだ。リュウコウやあたらしいジョウホウは、トウキョウからハッシンされ、やがて、いなかにもそれがとどく。セイジテキなメンにもいえるだろう。それぞれのくににチュウシンとシュウエンがあれば、ニヒャクイジョウのチュウシンがあることになる。グローバルシュギシャなら、ニューヨークなどがチュウシンで、あとはシュウエンなんだろう。しかし、わたしは、チュウシンはひとつでなく、フクスウのダイトシなどがチュウシンとかんがえる。レキシでいえば、よんダイブンメイだろう。チュウシンドウシがコウリュウをもち、ジョウホウやものをコウカンすることがあるだろう。そうすると、そのコウカンしたブンだけ、ふたつのチュウシンがヘンカする。そうしたコウカンは、レキシテキにあるとされるだろう。なぜ、ニホンにラーメンがあるかをかんがえれば、そうしたコウカンがおこなわれたのだろう。ちなみに「ラーメン」はチュウゴクゴだし、もとはチュウゴクセイだ。

むかしはいまとちがって、チキウのうらがわにいきコウカンするのはタイヘンだ。だから、わりとちかばとコウカンをしていただろう。ニホンだと、チュウゴク、チョウセンが、おおかただろう。ゆえにちかばのくにのブンカは、にているところがあったりする。タンジュンにえば、もっともとおいところのブンカが、もっともにいていないだろう。つまり、ブンカのドウイツセイは、キョリにハンビレイするということだ。

そうなのだが、ゲンダイのニホンは、わりととおいヨーロッパのブンカをいれたりしている。たとえば、エイゴがそうだし、チーズをユニウしたりしている。それは、ユ

ソウのギジュツがハッタツしたからでもあるし、ニホンジンがヨーロッパのブンカをわざと入れたことにもよるだろう。そのケッカ、「ニホン」というくにのブンカはヘンカする。きものをきるひとはへったし、ジュンスイなワシヨクをたべられるみせはすくなくなった。そのヘンカをねらうなら、もっともおいところとコウエキすれば、もっともヘンカがおおきいだろう。そうしたコウカンを「シェイク」とよぼう。

ギャクにヘンカさせたくなければ、ちかばとコウカンすればいい。ニホンはわりと、ヨーロッパのブンカをいれたからヘンカした。もし、コンゴあまりブンカをヘンヨウさせたくなければ、ちかばとコウカンすることだ。それは、コクナイでもそれがいえるだろう。ちかばとコウカンしていれば、そのブンカはまもられる。グローバルカで、とおくのひととコウエキしていれば、どんどんあなたがヘンカしていこう。ブンカくみかえもあるし、ブッシツくみかえもある。

#### ハチジュウハチ

ニホンのシャカイは、カコウボウエキをすすめ、ケッコウシェイク（●ハチジュウなな）したから、センゼンとくらべ、かなりヘンカしただろう。きものをスナリきられるひとはすくないのではないか。パンをたべずにセイカツすることはむずかしいのではないか。まだそのカコウボウエキはつづいているから、シェイクはつづくだろう。

チュウゴクもこのニジュウネンでソウトウシェイクしただろう。チュウゴクセイのコウギョウセイヒンがふえた。やはりカコウボウエキをしているのだろう。ニホンイジョウにボウエキしているかもしれない。だとすると、ソウトウシェイクしているはずだ。そうすると、ダンダン「チュウゴク」らしさはうしなわれていこう。

センゼンにもっともシェイクしていたのはオウベイだ。シヨクミンチとコウエキして、シェイクした。だから、もっともセンシンテキなチイキになった。ニホンジンはそのセンシンセイをおいかけたにすぎない。だから、ニホンのシェイクはオウベイのブンカをとり入れることがおこった。チュウゴクもやはり、ニホンをふくめたセンシンコクとコウエキすることがおこいだろう。タブン、センシンテキなメンをもとめているとおもう。だから、チュウゴクもオウベイっぽくなるようにおもえる。ニホンもニホンらしさをうしなっているが、チュウゴクもまたそうなのであろう。それをカイコシユギシャのたわごととっていいのか。

#### ハチジュウキユウ

ガッシュウコクとチュウゴクでカンゼイガッセンをやっているらしい。このニコクは、チキウジョウでもっともたかいジーディピーをもつニコクである。このニコクのボウエキもケッコウなキヨリがある。だからわりとおおきいシェイク（●ハチジュウなな）だ。そうやっておおきいシェイクだから、ヘンカもはげしいだろう。もはや、ボウエキのキボでは、ニホンのユシュツニューガクをうわまわるガクだろう。だからこのニコク

がジッシツテキなセンシンコク、ツートップのやくをしているといえるだろう。そのツートップが、カンゼイのセッテイというボウエキのセイゲンをおこなっている。これはつまりシェイクをへらすということになる。ということは、このニコクはジッサイには、ツートップをやりたくないとおもっているのかもしれない。ほかをみると、ヨーロッパとニホンというセンシンコク（コウホ）がある。ニホンはわりとガッシュウコクやチュウゴクとのボウエキがおおいが、ヨーロッパとコウエキしていないわけでもない。ヨーロッパもケイザイはわるくないだろう。セイジテキにもすすんでいる。それなら、ヨーロッパとニホンのツートップというセンもあるのではないか。やはりこのあいだでのコウエキもシェイクがおおきい。ニホンのセイフは、ガッシュウコクべったりだが、ヘンカするロセンでいくなら、ヨーロッパとうまくやることもあるだろう。そういったフタツのツートップというみかたもある。

### キュウジュウ

あまりおばけとかレイのはなしをきかなくなった。おそらく、「カガクテキ」でないとか、うけとるひとのモンダイだということになっているのだろうか。そのわりに「かみ」はあまりヒテイしない。シュウキョウもそれなりにやっているだろう。タブン、シュウキョウシャはおおくて、おばけやはすくないのだろう。

かずがおおいから、ヒテイしても、かなりハンロンされるのだろう。かつては、シュウキョウをヒテイしたくにながったし、いまもそうだろう。しかし、そういうくにはあまりうまくいかなかったようだ。だから、シュウキョウがいいか、わるいかはともかく、あったホウがながもちするのだろうとおもう。「おばけ」もまたそうなのではとおもったりもする。

ニホンのコクサイテキなキギョウのカツヤクがめざましかったのは、ハチジュウネンダイだろう。ニホンでつくられたセイヒンをユシュツした。そのゴエンだかにふれ、サンギョウクウドウカなどがあやぶまれつついまにいたる。まだまだニホンセイがつよいセイヒンもある。しかし、サンギョウクウドウカロンでロンじられたように、ニホンキギョウのカイガイテンカイはカソクした。そのケツカ、ニホンキギョウのカイガイのコウジョウからシュツカされるセイヒンがふえた。エンだかでユシュツサキでのセイヒンのカカクがあがり、コクナイのジンケンヒがたかどまりしたからである。だから、コクナイシジョウむけのセイヒンもガイコクセイがふえた。どうもチュウゴクセイがおおいから、チュウゴクでテンカイしていたのだろう。だから、「ニホンセイ」はかいにくくなった。つくっていない、もしくはショウリョウしかつくっていないからである。

そういうユシュツのモンダイで、ニホンへのチュウモクはネンネンへってきているだろう。あまりニホンセイをユシュツしないからだ。チキュウのジンコウがななジュウオクというから、イチオクニセンマンニンのニホンジンがしめるわりあいニパーセントテイドである。これはカガクのセカイでいうゴサのハンイである。トウケイをつかうカガクでは、ゴパーセントとかイッパーセントをゴサのハンイとする。だから、ちょっとまえにいわれたような、ナンゴクのしまのセイタイケイににているというのもまあありう

るはなしなのである。つまり、めずらしいことがおこっても、まあそれはゴサのハンイだからというはなしになる。ニホンのなかだけでくらししていると、それがあたりまえのようにおもえるかもしれないが、チキュウキボでいうとめずらしいということもあるのである。

#### キュウジュウイチ

ノウがあるからイシキがあるのだろうか。イシキはノウのハセイブツなのだろうか（●ハチジュウロク）。タンサイボウセイブツが、タクサンシュウゴウするカテイで、なんらかのあいことばなりなんなりがあったとおもわれる。ショクブツだって、みきになるものとハッパになるサイボウがある。これらはなにかコードがなければ、あつまりにくかったはずである。だとしたら、サイボウレベルでゲンシイシキがあったのではないかとすることはトッピーではないとおもう（●よんジュウサン）。

なぜ、ショクブツにはノウがないか、イドウのヒツヨウがないからである。ようするに、ノウはウンドウケイであろう。イドウのヒツヨウがしょうじたショクブツには、ノウができるとおもわれる。そうやって、ニンゲンもショクブツからシンカしたかもしれない。ただ、サンソをつかう、ニサンカタソをつかう、サンソをつかうというキノウブンカがあるから、いまのままのくわけでいいのだとおもう。サイボウがあつまって、ウンドウのヒツヨウがショウじたから、ノウができたのだろう。ウンドウケイというわけだから、ことばをしゃべるのは、ノウのはたらきだ。なにかをおもうのは、サイボウのはたらきだとおもわれる。

#### キュウジュウニ

チョキンをするとデフレ（●ななジュウゴ）になる（●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。しかし、それでケイキがわるくなって、チンギンもさがるであろうが、なぜ、チョキンをつづけるか。それはタブン、ニホンはサイガイタイコクだからである。ケイキがわるくなることよりも、サイガイがシンバイというわけである。それをホケンなどでうまくカイケツできれば、カドなチョキンはしないようにおもう。

#### キュウジュウサン

イシキはサイボウにあるかもしれないとかいたが（●ハチジュウロク、キュウジュウイチ）、それでも「ノウ」にあるとキョウチョウしたホウがいいのかもしれない。「いのち」とはキョウリョクすることだとかいたが（●『オ』ロク）、「ノウ」がシュタイなら、その「ノウ」をもつコクミンドウシがキョウリョクするというジギョウができるからである。そうすると、「くに」がさかえるであろう。しかし、イシキが「サイボウ」にあるとなる

と、まずコジンがナイブのことにチュウリョクして、さらに「くに」をゆたかにするとすれば、ガイブにもジンリョクしなければならない。カイソウがふえるわけだ。それなら、「コジン」のガイネンは、「ノウ」をチュウシンとした「イシキ」および、シintaiとすれば、おさまりがよいのではとなる。そういうわけで、「セイジテキ」には、「ノウ」にあるとしたホウがやりやすいかもしれない。

#### キュウジュウよん

「イシキ」がサイボウにあるとすると(●キュウジュウサン)、タクサンのサイボウがあるわけだから、イケンがことなることもあろう。それをチョウセイするのがあるイミ「イシキ」だといえるだろうが、かりにジョウイイシキとしよう。コウドウをするにあたって、そのイケンのセンタクがされるだろう。コウドウにいたるばあいは、「ウンドウケイ」の「ノウ」にとおされるだろう。コウドウにうつされない「おもう」のばあいは、サイボウココの「イシキ」をふまえて、ジョウイイシキでおもうだろう。ひょっとしたら、「ノウ」をつかわないカノウセイもあるが、「ブンカテキなことば」をつかうということで、「ノウ」をつかうカノウセイもある。

ところで、イケンのフィッチがあつたばあいはどうなるか。「ジョウイイシキ」がそれをセンタクする。しかし、ハンタイイケンがふえれば、その「ジョウイイシキ」がトウセイすることがコンナンになるだろう。シャカイでいえばカクメイさわぎだ。そうしないためには、イシキをトウセイカノウにたもっていく。キョウケンテキなシュホウもカノウだろうが、カクメイさわぎのおこるカノウセイがホリユウされる。だから、おだやかにハンタイイケンもくみとりつつ、イシキをトウセイするようだろう。そとからいうと、ジョウイイシキがかわっていくわけである。だから、コウドウなどもかわったりするだろう。イデンシもたまにかわるという。みたかんじ、あまりかわらないひとというのもあるだろうが、「イシキ」のヘンカがふえればかわらざるをえないだろう。そんなカンジにシンカする。シンカはそうしたコジンナイセイジのケッカなのかもしれない。

#### キュウジュウゴ

あるひとエーがいたとする。それをカンサツするビーさんは、エーさんのことをしんじられるだろうか。タブン、エーさんがソンザイすることはしんじられるだろう。しかし、エーさんがいいひとかどうかはわからない。なにかがなければ、エーさんがいいひとかどうかはわからないということだ。そのフクソウやかおをみてハンダンすることもできるだろう。ホンニンとはなしてもわかるだろうし、うわさでもわかるかもしれない。タブン、なにもないではハンダンフカノウだ。だから、なにもなくて、だれかはエーさんのことをしんじられないであろう。ソンザイはしんじられてもである。

エーさんとビーさんがカイワする。このふたりははじめてカイワする。エーさんがきのうのテレビのホウソウにシュツエンしたシーさんがおもしろかったという。しかし、そ

れをみなかったビーさんは、そうなんですかとこたえる。ビーさんは、ニンキカシユのディさんのうたがいいという。エーさんは、そうですかとこたえる。これではなかなかカイワがセイリツしない。トクにバブルゴのシュミのコセイカによって、おたがいはなしがつうじないことがふえたとおもわれる。それをどうやったらカイショウできるか。もののはなしをすればカイショウできるのではないか。レイゾウコのはなしとか、ビールのはなしだ。そういうものははなしがしやすいのではないだろうか。

#### キュウジュウロク

ニホンやカンコクやチュウゴクはトウヨウのくにである。それにタイしてセイヨウのくにもある。たとえばオウベイだ。セイヨウのくにはわりとセンシンテキで、そういうくにをセンシンコクという。それにトウヨウのくにニホンもかぞえられている(らしい)。ニホンはどちらかというときセイヨウフウのかんがえやセイヒンをいれた。ガッコウではエイゴをガクシュウさせている。そういうわけか、わたしは、チュウゴクジンとはなすのにエイゴをつかったりする。おなじトウヨウジンドウシなののである。セイヨウには、センシンコクがおおいから、セイヨウのキジュンでなにかをかたることがある。そういうのをグローバルスタンダードというかもしれない。しかし、ニホンとチュウゴクは、トウヨウのくにであるわけだから、かならずしもセイヨウのキジュンではなすヒツヨウはないとおもう。トウヨウのかんがえかたもあるだろう。ニホンでは、セイヨウフウのキョウイクがおおいだろうから、どうしても、セイヨウテキなキジュンでかんがえる。しかし、トウヨウのかんがえかたもあるのである。

#### キュウジュウなな

ニホンキギョウがカイガイにシンシュツして、セイヒンをつくるようになってもうダイブたつ。キギョウがカイガイにシンシュツすると、コクナイはクウドウカするといわれる(●キュウジュウ)。つまり、そのまえにつくっていたコクナイのコウジョウのキノウがシュクショウされるからだ。トクにセイヒンをつくっていたロウドウシャは、ハイチテンカンやフヨウとなる。あまりにカイコするとさわぎになるから、レイネンダイごころから、ハケンロウドウがさかんになってきた。ハケンロウドウシャは、ベツのカイシャのジュウギョウインであるから、うけいれるキギョウはコウジョウのキノウをシュクショウさせるときには、ハケンロウドウシャをことわれればいい。

そうやって、ハケンロウドウシャが、コウジョウでなにかをつくることかふえた。そのかわり、ケイキシダイでセイサンをおさえたりするので、また、ハケンロウドウシャが、そのコウジョウにケイゾクテキにつとめるわけでないから、セイヒンのくみたてギジュツはチクセキされるわけでない。そうなると、カイガイでやすくつくっているコウジョウのセイキジュウギョウインのホウがギジュツとしてはうまわることになる。ニホンでは、ショクニンとよばれるひとたちがいるが、いろいろなコウギョウセイサンをして

いるチュウゴクには、シヨクニンならぬスーパーロウドウシャがいるだろう。ニホンジ  
ンもそういうスーパーロウドウシャをダイジにしたホウがいいとおもう。ニホンにもま  
だまだいるだろう。

#### キュウジュウハチ

よく、セイキコヨウだの、ヒセイキコヨウなどという。カタホウはフツウで、もうイッ  
ポウはリンジやといといったかんじだ。アーティストのばあいはどうだろうか。あんま  
りそういういいかたはしない。「プロ」と「アマチュア」のさかいはなにかはわかりづら  
い。しかし、ジュンジヨをつければ、それはゲンミツにありそうなのだ。ガクリヨクで  
は、ヘンサチをつかう。これはトウケイガクのシユホウである。ヘンサチゴジュウがヘ  
イキンで、ななジュウとなると、ゼンタイのイッパーセントテイドしかいない。ヘンサ  
チななジュウで、ニホンでイチバンのダイガクにはいれるのかわからないが、ヒャクニ  
ンにひとりしかいないとされる。ズイブンユウシユウなのだろう。

オンガクでも、アーティストがイチマンニンいたとして、ヒャクニンがたべていけると  
なると、アーティストもギョウカイのヘンサチがななジュウないと、たべていけないこ  
とになる。そのギョウカイではぬきにでているわけだ。そういうケイサンだと、ヘンサ  
チななジュウミマンは「プロ」じゃないとなる。ジブンのオンガクギョウカイヘンサチ  
が、ななジュウにとどかないならやめたホウがいいというひとつのシヒョウであろう。

#### キュウジュウキュウ

オンガク、ドラマ、エイガなどが、ひとりイチジカンあたりイチエンでたのしめるとい  
うことをまえにかいた（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）。それがいまのところのサイヤ  
すねだろう（ムリヨウはのぞく。）。だとしたら、イチジカンあたりゴエンでウンエイす  
るところは、カカクキョウソウでまける。そのゴエンのところとは、テレビキョクであ  
る。カカクキョウソウがあるわけだから、テレビキョクもヨサンをけずるのがよくある  
やりかただろう。ユーザーがイチジカンイチエンのホウにってしまうわけだから。そ  
うすると、ゲイノウジンのシュツエンリョウもすくなくなるであろう。ホウシユウがす  
くなくてすむわかってばかりがつかわれるようになるかもしれない。

どこまでテイヨサンでやるようになるかといえば、イチジカンイチエンまでであろう。  
それで、テイカクのオンガクやドラマとつりあうかんじだ。やすくてももしろいバン  
グミをつくるのはむずかしいだろう。だから、ユーザーのテレビばなれがおこるかもし  
れない。テレビはわるくないセツビだが、かならずしもヒツヨウではないということに  
なるだろうか。

#### ヒャク

ロウドウシャがはたらいて、チンギンがあがればうれしいだろう。しかし、それはホントウによろこべるのか。たとえば、エーネンドには、うりあげがサンゼンオクエンだったとする。そのあとキュウリヨウがあがったとする。そして、ビーネンドにもやはりうりあげがサンゼンオクエンだったとする。そのようでは、ロウドウシャのあがったチンギンのブンは、カイシャのうりあげにコウカなしだから、そのブンカイシャがよわることになる。そんなのがつづけば、ジンインセイリとかをやりはじめかねない。つまり、そうやってギョウセキがかわらないのに、チンギンがあがるばあいは、ショウライのジンインセイリにそなえたシツギョウジュンビキンをうけとっているとかんがえたホウがいいだろう。

#### ヒャクイチ

よくエンやすになれば、ユシツツがたのキギョウがギョウセキをあげるといふ。たしかにそうだろうが、エンやすになると、エネルギーのねだんがあがる。だから、ソウゴウテキにみると、あまりよくないかもしれない。だから、エンやすをねらうセイサクにはきをつけたホウがいいだろう。デンキ、ガスダイがあがることになるからだ。だからゲンジョウのそうばで、うまくケイエイをすることをかんがえたホウがいいだろう。

#### ヒャクニ

しにそうになったおやじがおしえてくれたことは、それでもヒッシンになっていきるだ(●『よ』ジュウイチ)。まえにいのちとはなにかをかいだ(●『オ』ロク)。キョウチョウすることだ。しにそうになってもキョウチョウする。キセイしてにげることがカノウなむしなんかはにげるだろう。しかし、にげられないサイボウなどは、それでもなんとかしようとする。ニホンでは、「シャカイジン(●ニジュウシチ)」といういいかたがある。そういわれるひとたちは、ニホンにとってにげられないサイボウのようなものだろう。とにかくキョウチョウしてくにをながつづきさせようとする。

まえのセンソウはまずかったが、それでもキョウチョウしたのだろう。にげられないサイボウはそうするだろう。そういうあまりよくないケツダンのまえにとめられればいいだろうが、それができなかつたこともある。そういうときは、できるかぎり、とめたホウがいいのであろう。ニホンジンはデモをするシユウカンはないのであろうが。

#### ヒャクサン

ニンゲンはなにかをかんがえることができる。しかし、そのかんがえたことは、しんだらおわりである。タブン、かんがえなかったこととドウヨウではないか。つまり、ニンゲンのあたまのなかのかんがえは、それだけではときをこえない。しかし、かみがあればベツである。かみにかいたかんがえはときをこえる。それをよむひとがいなかったらそれまでだが、セキバンやチクヘン（たけ）やかみがあるから、あるテイドのひとのまとまりにも、だれかのかんがえをつたえることがカノウになった。さらにインサツギジュツである。それがあから、タクサンのひとにおなじジョウホウをよませることができる。ニホンのエドジダイでは、まだインサツギジュツがなく、てがきでうつしたホンがおおい。それではケイモウシュギなどむずかしいだろう。ホンをもっているひとがチシキジンだったのだろう。メイジになってようやくインサツするようになった。それから、ガッコウキョウイクがフキウした。オウベイよりかなりおくれていたのではないか。いまは、いろいろなホンがかいやすいジダイである。しっかりケンキュウしないと、オウベイにもっとサをつけられる。そうおもうのである。

#### ヒャクよん

ジカン イコール エネルギー わるシツリョウとかいた（●『よ』サンジュウニ）。エネルギーがレイでもジカンはレイだし、シツリョウがレイでもジカンはなりたたない。だから、ジカンがあるとは、エネルギーもシツリョウもあるジョウタイであるわけだ。

ウチュウではエネルギーとはなんだろう。コウセイのうずまきリョクだったり（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『オ』ヒャクゴジュウロク）、ひかりによるアツリョクだったりだろう。それは、コウセイがもえることによってジツゲンするのではないか。コウセイがもえることによって、ウズマキリョクがショウじ、また、ひかりもショウじる。シツリョウはそれぞれだろうが、エネルギーは、コウセイのエネルギーをたしざんすれば、ケイソクできるようだろう。それができると、ウチュウのもつジカンをスイソクできる。シツリョウもとらえられればもっとセイカクだろう。しかし、ウチュウナイでのウンドウはやがてテイシするのか。なんとなくウンドウがつづくようなきがする。エネルギーがイドウするだけのおもう。しかし、ウチュウがひろがっているとすれば、ダンダンチュウシンのホウからセイシしていくのだろうか。そとにむかったエネルギーをサイドうちにもどせば、モンダイないだろう。それができないと、ウチュウは、ウチュウのそとへエネルギーとシツリョウをうしない、ジカンをへっていくだろう。それをよくするには、エネルギーをなんとかつくりだすか、シツリョウだけをウチュウのそとへむかわせるようだろう。

ウチュウでは、エネルギーをコウカンしあう、いってみれば、ジカンをコウカンしあうのがよくあることのおもう。まえにみつつのコウセイ（リツタイだとよつつのホウがよい。）にかこまれたなにかはうごかない。「つまりジカながながれない。」とかいた（●『オ』ハチ）。デッドロックというが（●ニジュウ）、これがちいさくできているゆえに「もの」がうごかないこともあろう。エネルギー（うずまきリョク）のキンコウがと

れて、ジカンがレイというわけである。ただ、ホントウのレイではないから、なにかのヘンカがおこってもおかしくないとおもう。

#### ヒャクゴ

ゼンサクで、オンガクがひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた(●『オ』ヒャクサンジュウハチ)。それは、スウジをみてのケイサンである。そのケイサンから、シジョウのドウコウをコウリョし、そうになっていくとかいえるのである。これをケイザイマップといおう。ケイザイマップにくわしいひとは、ジブンでなにかのケイザイマップをつくれなひともいるかもしれない。しかし、ジョウホウをあつめて、ケイサンできるひとはケイザイマップがよめるし、つくったりもできる。ケイザイマップがかならずしもゲンジツのケイザイとあわないこともあるだろうが、シシンにはなるだろう。

#### ヒャクロク

まえに、「チンプカされたシャカイ」のはなしをした(●『オ』ハチジュウハチ)。それでは、ニンゲンが、コンピューターがあるゆえに、みぎがわ(レキシテキなホウ)によるか、ひだりがわ(あたらしいホウ)によっていくというはなしだ。まんなかはコンピューターがしめる。

ニホンでは、キュウジュウネンダイからコンピューターがさかんになった。それがあつたから、ニンゲンには「コセイ」をソynchョウしようといいだしたのではないか。つまり、チンプカがよめていたのである。まんなかはコンピューターがしめる。だから、みぎでも、ひだりでも「コセイ」だったのだろう。ニンゲンのアイデンティティトウソウがはじまったということであろう。

#### ヒャクなな

ものがデッドロックでジカンがレイとかいたが、エネルギーがレイだから、レイになる(●ヒャクよん)。ただ、デッドロックのばあいは、エネルギーがむしろあたえられるともかんがえられる。だから、そこではジカンがながれるであろう。そうすると、ジカンがあるブンなにかハンノウをおこすであろう。ウチュウが、よりおおきななにかのデッドロックにあつたら、アンテイするだろう。それだと、ウチュウはボウチョウしない。サイセイサンにはテキしているが、やっぱり、いわれているようにボウチョウしているのだろうか。

#### ヒャクハチ

ウチュウがボウチョウしているという。たしかに、すくなくともひかりがウチュウのそとへむかっていくだろう。そうすると、やがてウチュウのシゲンはすくなくなるか。さきのギロンでもエネルギーとシゲンがウチュウのそとにむかい、ウチュウのジカンがすくなくなるとかいた（●ヒャクヨん）。しかし、ひかりがそとにむかうかわりに、なにかがコウセイにむかうとおもわれる。「ジュウリョクハ」というが、ひかりのかわりになにかがコウセイにむかうのであろう。

それが、うずまきリョク（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『オ』ヒャクゴジュウロク）をイジさせるのだろう。タブン、それはコウセイがネンリョウとなる。そのワクセイにあたれば、それはそのチヒョウをコウセイする。コウセイがもやすということは、カネンセイなんだろう。そういうブッシツがあるだろうから、ウチュウのシゲンのシュウシはレイだろう。だから、コウカンということにすれば、ウチュウはひろがっているとはいえないだろう。そのうずまきリョクシゲンのなくなるところまで、ひかりがとどいても、そこからひかりはすすめないかもしれない。だから、ウチュウはおわらなそうなのである。そうすると、ウチュウのジカンイコールムゲンダイということになってしまうが、それをどうかんがえるかというモンダイがありそうだ。

## ヒャクキュウ

ひかりはえらくとおくまでトウタツするらしい。チキュウジョウからほしがみえるが、それとのキヨリはナンコウネンという。ひかりがなにもないところをすすむとなれば、トクにテイコウもなくすすむのであろうが、ジッサイのところ、ウチュウクウカンではテイコウがないのであろうか。

コウセイには、なにかをひっぱるちからがあろう（ナイブがもえているワクセイでもそうだ）。これをわたしはうずまきリョクという（●『ア』ヒャクロクジュウサン）。もえることがそうさせているカノウセイがある。だから、ウチュウクウカンは、なにもないではないだろうとおもう。

なにかがあるところをひかりがすすむとなると、かわりになにかがひかりのでどころのホウへむかう。そのなにかを、ハンリュウシとよぼう。つまり、コウセイは、ひかりをだして、ハンリュウシをうけとっているのである。タブン、ハンリュウシのカネンセイだ。ひかりがウチュウのそとまでとどくとどうなるか。わたしはウチュウのそとを「か」となづけたが、そこにはなにもないとする。そうすると、なにもないところをひかりでみたすようになる。つまり、ひかりだけがあるクウカンができるということだ。しかし、ハンリュウシがなければひかりはトウタツしないとかんがえられる。またそういうクウカンがみつかったとはきかない。

かのセカイはなにもないゆえにウチュウのなかよりオンドがひくいであろう（なにもないのにオンドをはかるのはむずかしいだろうが。）。なにかものがあったばあい、ひかりがとどくとオンドがあがる。それであたたまると、ウチュウとネツコウカンをはじめるとかもしれない。ウチュウのホウが、オンドがたかいからだ。ひよっとしたら、ひかりが

かにトウタツして、オンドをうしないヘンシツするかもしれない。ハンリュウシになれば、ウチュウはとうかひかりはずっとリサイクルされる。そうだったら、ウチュウはながつづきする。ウチュウはボウチョウしないとなる。

#### ヒャクジュウ

ワクセイのジテンがおそい（たとえば、イチニチがヒャクジカン）ところにすむようになったら、ひるがながい、よるがながいとチキウにすんでいたときとちがったジョウケンでセイカツすることになる。ひるがながいブンにはシャッターをしめてしまえばくらくなるが、よるがながいのはちょっときびしいかもしれない。そんなときには、コウセイチュウケイをするといいかもしれない。テレビでコウセイのヨウスをうつすわけだ。それならガメンのあるところではあかるい。コウジョウなんかのテンジョウちかくにそれをうつせるおおがたのテレビパネルをセッチするといいいかもしれない。

#### ヒャクジュウイチ

サイキンはショクミンチということばはきかなくなった。しかし、コウガクなたねやなえやドウグを、ショクミンチのひとつにかわせて、ノウギョウをやらせて、できあがったさくもつをやすくかうというシュホウはいきているかもしれない。トクにパソコンなんかがそのようなきがする。いまではゴマンエンテイドでもかえるが、ニジュウネンまえは、ニジュウマンエンとかのねだんだった。

パソコンのことを、そういうフウにいったひとはほかにしらないが、とにかくたかいドウグをつかわせて、なにかをさせていたともいえる。ショウヒシャむけのパソコンでなにかショウバイができたというひとはすくないだろう。しかし、リエキがでるのならいい。そのタおおぜいはシュウカクなしである。それでパソコンをやめてしまったひともいるだろうが、まだそういうのはつづいているといえつつづいている。コンゴもつづくのではないだろうか。

#### ヒャクジュウニ

ウチュウはどうだとか、ニホンケイザイはどうだとかいっていると、こまかいテンにドンカンになるかもしれない。グタイテキには、だいどころのながしのよごれとかにである。ウチュウもゲンジツだろうが、わたしのいえのだいどころもゲンジツである。どちらかといえば、だいどころのホウがダイジかもしれない。きをつけなければいけない。

#### ヒャクジュウサン

レキシというのはジョウホウである。なにかいいことがそのひにあったとしても、ときがたてばそれはジョウホウとしてセイリされる。だから、カコのゲンジツはジョウホウとしてセイリされる。そのカコのゲンジツはジョウホウとトウカといえるだろう。もしかしたら、ゲンザイやミライがジョウホウとトウカになっているひともいるかもしれない。わたしは、あまりミライのことをかんがえないから、ジョウホウとトウカとはいえない。すぎさったことをジョウホウにすればいいのではないか。

#### ヒャクジュウよん

イデンシをみると、そのセイタイのケイツツがわかるとされる。それをいじってさくもつをつくることもされている。そのイデンシはなにがつくったのか。それはそのセイタイだろう（もしくはそのソセン）。

いまでは、あたまにイシキがあるとされるが、わたしはサイボウにあるのではないかとかんがえている（●キュウジュウよん）。どういうことか。アメーバにイシキがないとはいえないさうだからだ。それなりのイシケツテイをしているとおもわれる。そういうのをホンノウといったホウがいいかもしれないが。

イデンシもイシケツテイのケツカであろう。たとえば、はねをキンイロにするとケツテイしたところで、キンイロがでるシゲンがなかったら、そういうはねはできない。つまり、ゲンジョウであるシゲンにそって、イシケツテイされたわけだ。イデンシはそのキロクであろう。コウドなイシケツテイである。それをアメーバができるとすれば、サイボウにイシキがあるとってさしつかえないとおもう。

では、ノウはどういうしごとをするか。ひとつはウンドウにかかわることと、タクサンのイシキのシュウヤクチョウセイであろう。セイシンブンセキをはじめたフロイドは、ニンゲンにムイシキをハッケンしたといわれる。つまり、イシキとムイシキがあるということである。わたしにいわせれば、イシキはノウのはたらき、ムイシキはサイボウのはたらきだろう。イシキでかってにかんがえることはできるが、そもそもムイシキのチョウセイをするのはたらきなんだから、ムリはするなということである。

#### ヒャクジュウゴ

コウセイはあたりのものをひきつけ、また、ひかりをハツする。このバランスがいいから、チキュウなどもまきこまれず、またはなれずキドウをたもてるのだろう。こうしたコウセイのひきつけるちからをわたしは「うずまきリョク」という（●『ア』ヒャクロクジュウサン）。ギャクにおしだすちからを「ハンシンリョク」といっておこう。これらはタブン、コウセイのエイエンテキキなキノウではなく、「もえているかぎり」のキノウだ。ひかりがよわくなれば、やがてワクセイは、コウセイにのまれるだろう。しかし、また、うずまきリョクもシゲンであるかもしれない。もえることでうずをまくのかとおもわれ

るが、そのネンリョウがなくなればもえないだろうし、うずをまかないとおもわれる。ワクセイがひきよせられるのは、うずまきリョクがのこったわずかなあいだだろう。

では、そのネンリョウとはなにか。コウセイはケッコウなながさでもえているとおもわれる。ひかりをハツする。そのひかりのスイシンにしたがって、ギャクむきに、つまりコウセイのホウへ、ブッシツがながれるのではないか。これを「ハンリュウシ」とっておこう（●ヒャクキュウ）。

ハンリュウシがコウセイにながれるあいだはコウセイがもえる。タブンウチュウクウカンに、すくなくともタイヨウケイでは、みちているのだろう。ひかりがとおくへいくわけだから、ハンリュウシがあるうちはうまくコウカンされるのだろう。しかし、ハンリュウシのないクウカンまでひかりがたどりついてしまったら、もうハンリュウシとのコウカンはできない。そうすると、そろそろコウセイのジュミョウですよとなる。

しかし、そのようでは、ウチュウのサイセイサンはむずかしい。だから、ハンリュウシをキョウキュウするなにかがあるとかんがえるとどうだろう。そのハンリュウシキョウキュウタイは、ひかりをすい、ギャクにハンリュウシをだす。かりにくろぼしとっておこう。コウセイが、ひかりをだすのにタイして、くろぼしはハンリュウシをだす。そういうコウカンなら、ウチュウはながつづきするのではないか。

#### ヒャクジュウロク

「コール。」なんていう。よぶだけでなく、デンワをかけるというイミもあるだろうか。「コーリング」だとドウメイシだ。よんでいるとかヤクされるだろうが、これには、「シヨクギョウ」というイミもある。なぜか。よばれるということは、しごとになるということだろう。「およびがかる。」なんていったりする。つまりいいしごとをするからよばれるというメンがあるのだろう。わるいしごとをすれば、「おことわり」だろう。もっともコウリツテキなのは、よばれたすべてのしごとをこなすことで、もっともタッセイがあるだろう。しかし、あいてがいいひとだったらはなしだ。たまにサギもあるだろうし、ホウシュウなしとかもありうるからだ。だから、タイテイのひとはえらぶのだろう。

#### ヒャクジュウなな

あるひとがいえをたてるとする（そのひとがたてるのではない。）。あるギョウシャにたのんだ。シンライドのたかいシャカイでは、たてるひとはジュウブンなおかねをギョウシャにはらうだろうし、ギョウシャもまともないえをたてるだろう。しかし、ギャクにシンライドのひくいシャカイでは、たてるひとは、ギョウシャがヘンなしごとをしないように、みはっていないなければならないし、ギョウシャもきちんとおかねがしはらわれるかを、みきわめねばならない。そうすると、いえをたてるひとのフタンがおおきくなるし、ギョウシャのフタンもおおきくなる。

それをなんとかしようとおもったら、そのブンヨケイにおかねがかかることになる。し

かし、リョウシャがコウシンライだと、そのブンコストをやすくできる。つまり、ソウホウがきちんとセキニンをもっていれば、コストをやすくできるということである。それがブンメイのいいところだろう。しかし、いいカゲンだと、あいてはよりたかくセイキュウする。だから、フセイをへらしていったホウがくらしやすいのだろう。そういうイミでバツソクもダイジかとおもう。

#### ヒャクジュウハチ

よく「コウリツカ」といわれたりする。コウリツカすれば、やすくなにかをつくれるということだろう。しかし、セツケイのコウリツカはむずかしいとおもう。ブヒンをいくつかへらしたり、サギョウをへらしたりというものだ。そういうのは、「やすブシン」といわれるだろう。

セツケイにはセツケイしたひとのかんがえがそこにふくまれている。そのいくつかをけずってもダイジョウブかもしれないとおもうかもしれないが、それにはイミがあるだろう。ホウリツタイケイもそうかもしれないから、なかなかキセイカンワがすすまない。イチオウホウリツにはシュシがかかっているから、うまくよめばコウリツカできるだろうが、なかなかやすブシンにはしたくないようだ。もうイツカイセツケイしたホウがはやいかもしれない。

#### ヒャクジュウキュウ

サイキンはあんまり「リストラ」のはなしはきかない。しかし、ヒセイキコヨウのかずは、のびているという。ヨウするにコウカンカノウなロウドウシャがふえているということだ。しかし、またリストラがはやるカノウセイもある。ヒセイキコヨウのホウが、チンギンがやすくすむわけだから、メリットもある。

ヤクサンブンのイチのロウドウシャがヒセイキコヨウという。セイキロウドウシャのホウは、カンタンにはカイコできないという。チンギンもジョジョにあがっていく。ギョウセキがわるければ、ケイエイヤはやっぱりセイキロウドウシャもカイコしたいとおもうだろう。ただ、そうすると、カイコされるロウドウシャが、かわりにショックをみつげられるかというモンダイがおこる。

それなら、コヨウリセットというのはどうだろう。ゴネンごとなどに、コヨウジョウケンにコウシンするわけだ。はたらきぶりのいいシャインには、いいジョウケンで、はたらきぶりのわるいシャインには、よくないジョウケンでと。ムロン、ロウドウシャはタイショックしてもいい。そうやってジュウナンなコヨウのホウが、ジンケンヒはおさえられるのではないか。

#### ヒャクニジュウ

ゲンダイジンがセイカツすると、かならずディスオーダー（フチツジョ）がでる。タンジュンにいえばごみだ。ジュースをのんでも、あきカンがでるし、たべものをたべても、ハウソウしていたプラスチックがでる。トクにプラスチックはなにもしないと、つちにもかえらないという。

ユウボクミンなら、くさがなくなったところから、くさがあるところへイドウすればいいだけだ。ほとんどごみはでない。ゲンダイジンのばあい、そうしたディスオーダーをショリするのにジカンをかける。バカバカしいのではあるが、そのホウがベンリとおもわれている。タンジュンにプラスチックももやしてしまえとおもうのだが、そうはいかないのだろうか。あえて、もやせるプラスチックというのをつくらなければいけないのだろうか。

### ヒヤクニジュウイチ

シャカイはダンダンゆたかになるとおもわれているメンがある。トクにセンソウがなければ、ゆたかになるかはともかく、まずしくならないだろう。ニホンはセンゴななジュウネンで、センチュウ、センゴのヒンコンからフッコウしたとかがえられている。

ゆたかになったとすれば、ショウテンがふえるはずである。サービスをテイキョウするショウテンもふくめだ。トクにトウキョウはクウシュウにあったから、ほとんどレイからのスタートだっただろう。それがショウテンやジムショがならぶようになった。トウキョウはかなりゆたかになったんだらう。

いまわたしがすんでいるあたりのセンチュウのときのヨウスはしらないが、ヨンジュウネンまえとくらべてみると、さかやがニケンへった。トウフやがイッケンへった。やおやがイッケンへった。パンやがイッケンへった。こめやがイッケンへった。デンキやがイッケンへった。ガソリンスタンドがニケンへった。かわってふえたのが、イインがゴケンふえた。カイゴシセツがイッケンふえた。コンビニがニケンふえた。インシヨクテンがゴケンふえた。

これだけで、ぐあいのわるいひとがふえたとか、カテイでリョウリをつくらなくなったとか、くるまにのらなくなったとかいえそうだ。シヨクザイのみせがへって、イイン、カイゴシセツができて、ゆたかになったといえるのであろうか。

またふえたのが、コンビニとインシヨクテンだ。わたしのリョウシンはあまりそういったみせをリョウしない。わたしはコンビニをリョウするから、よかったのはそれができたことであらうか。シヨクザイのみせのサービスレベルがおちて、イインなどのサービスレベルがあがって、インシヨクテンのサービスレベルがあがったと。

わたしのリョウシンは、イインはつかうようだが、インシヨクテンはつかわない。センゼンうまれだからシツソなのだ。わたしもインシヨクテンはメツタにつかわない。イインもつかわない。つかうのはコンビニだ。そのジレイからいうと、おとしよりむけにイイン。わかものむけにコンビニがうけているといえそうだ。インシヨクテンは、ロウドウシャがひるまにとか、ガイシヨクがすきなひとむけにつくられたんだらう。どうも、そ

のニテンしかよくなったヨウソがないようにおもう。そのたのイッテンはたまにといったかんじだろう。モチロン、ジエイギョウのショクザイテンとひきかえにである。

イインやインショクテンのかわりになるようなショウテンがかせげるかもしれない。たとえば、メディシン（イリョウ）のオルタナティブ（ダイタイ）、タイソウキョウシツとか、インショクのオルタナティブ、おソウザイヤなどである。「チュウショク（できたものをかってきてたべること）」がふえたようだから（コンビニントウもそうだ。）、そういうみせはのびるのではとおもう。インショクでも、もちかえりをふやすてがあらう。

#### ヒャクニジュウニ

「デフレ（●キョウジュウニ）ケイザイ」といわれたりする（くわしくは、●『オ』ヒャクサンジュウゴ）。もののカカクがさがるから、わざとおかねのシンライドをおとして、もののカカクをあげようとする。ただあまりうまくいっていないようだ。

ラジカセやパソコンなんかは、ニジュウネンまえとくらべてやすくなっている。モチロン、トクにパソコンでは、たかいものもあるのだが、カイガイセイサンしてユニウすることによって、やすくられるようになった。いまはあまりテイカというのはないが、あるショウテンでかんがえると、ショウヒンがうれのこらないようにしいれてうるヒツヨウがある。うれのこると、ショウヒンのやまができてしまうからだ。

はじめに、あるショウヒンにゴマンエンというねふだをつけるとする。それで、かいものキャクがかってくれればいいが、かいものキャクがガマンすることがある。きになっているにもかかわらず、ヨサンごえとか、わりだかにおもえるなどのリユウがあるだろう。そうすると、ショウテンのホウはうれのこりをケネンしていつかのジテンでねだんをさげる。それでかってもらえればいいが、まだうれのこりそうだと、またねだんをさげる。つまり、コウバイキャクのガマンがながつづきするほど、カカクがさがるわけである（●ニ）。なかには、たかくてもかうひとはいるだろう。しかし、そうしたガマンをコウリョしてショウバイするヒツヨウがあるとおもう。

#### ヒャクニジュウサン

オンガクやエイガなどが、ひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた（●『オ』ヒャクサンジュウハチ）これはヘイキンテキナ（つまりヘンサチゴジュウだ。）サクヒンのはなしで、いいサクヒンはつくりてがもっとかせげるだろうし、かいてにとってはおなじイチエンだが、うりてがつくりてによりおおくはらうということだ。よくないサクヒンはつくりてがほとんどかせげないかもしれない。むしろ、いいサクヒンかどうかより、つくりてがユウメイか、ニンキがあるかでサユウされるだろう。そういうつくりては、ひとりイチジカンあたりジュウエンとかうけとるんだらう。もっというと、ムメイなつくりては、ひとりイチジカンあたりレイテンイチエンしかももらえないことがかんがえられるし、ユウメイなつくりては、むしろ、いいヒョウカがあつまり、うれるかもしれ

ない。つまり、ユウメイなつくりてが、うけとるねだんをきめられるということだ。そうならば、ユウメイなつくりては、なんのシンパイもなくつぎのサクヒンをつくるだろう。ムメイなサッカーはユウメイなサッカーにかせがせるためにサクヒンをつくっているカノウセイがある。そういうかんじではなかなかむずかしいだろうから、つくりてがへっていくとおもわれる。ムメイなサッカーもいいヒョウカがあつまっていることができればいいが。じまえてうるのならそういうジユウはある。

#### ヒャクニジュウよん

サイコウのビジネスマンとはなんだろう。もっともかせいでいるビジネスマンのはなしをきいたりする。そのひとたちもサイコウのビジネスマンのひとりだろう。どうドリョクしたのかなどもかたられることがある。そういうはなしをきくと、ジブンのブンヤでドリョクすれば、いいビジネスマンになれるとおもうかもしれない。しかし、そのドリョクはムダにおわることもあるだろう。なぜなら、サイコウのビジネスマンは、サイコウのコキヤクをかかえているということだからだ。

それにはそのビジネスマンのノウリョクだけとはかぎらない（コキヤクをカクトクするのもノウリョクだが。）。ウんだの、ジキなどもカンケイするだろう。いまのところのサイコウのビジネスマンはチュウゴクにいるかもしれない。なぜなら、おおくのкокサイテキナキギョウがジシャコウジョウでつくるにせよ、チュウゴクジンにつくるのをハツチュウしているからだ。タブン、ガッシュウコクのうりあげイチイのキギョウのセイヒンをうけおっているひとがサイコウのビジネスマンだろう。サイコウのおキヤクであろうからだ。

#### ヒャクニジュウゴ

タサイボウセイブツができたのは、「キョウリョクしよう」とするイシキ（●ヒャクジュウよん）がめばえたためとかいた（●『オ』ロク）。それゆえにそれぞれが「サイボウ」としていきはじめた。そのまえは、タンサイボウセイブツだったかもしれないし、ジツは、タンサイボウセイブツはタサイボウセイブツからドクリツしたのかもしれない。それはともかくなんらかのブツシツがあったのだろう。タンパクシツをつくれるジョウタイにあったかもしれない。

いずれにせよ、なんらかのエネルギーがあったのだろう。エネルギーがなかったらセイリツしない。トウをエイヨウにかえたり、タンパクシツをつくったりすることができた。そういうエネルギーがあったということだろう。また、「ウゴキタイ」というイシキがあったから、セイブツがうごくようになったかもしれない。

#### ヒャクニジュウロク

わたしは、「ウチュウのリサイクル」についてケンキュウしている。ウチュウはエイエンにつづくかがテーマだ。コウセイからひかりがはなたれ、それはやがてとおくへいく。しかし、ひかりがすすむのにも、あるブッシツとコウカンしながらすすむ（●ヒャクジュウゴ）。そのブッシツはコウセイのネンリョウとなるだろう。しかし、そのブッシツがなくなるところまでひかりがトウタツすると、ひかりはすすめない。もっというと、ネンリョウとなるブッシツのかたまりがそこにあるとおもわれる（●ゴジュウキュウ）。「ひかり」がテイオンになってヘンシツしてである。

それをとおりにしてひかりがすすむのはむずかしいとおもわれる。それはまるでナンマンブンのイチのおおきさのセイブツがみる、うちがわからみたチキュウである。つまり、ワクセイ、ウチュウ、か（わたしのかんがえた、ウチュウのそとのガイネン）と、カイソウコウゾウになっているわけだ。だから、かにはおおきなセイブツがいるかもしれないし、チキュウのうちがわにはちいさいいきものがいるかもしれない。だから、それぞれのリョウイキナイをうまくおさめていれば、モンダイないだろう。つまり、かのことは、かのいきものがかんがえるだろうと。そういうケンカイにいたった。

#### ヒャクニジュウなな

「かねもち」になりたければどうすればいいか。それはセキニンをもつことである。オウはくにのチアンをホシヨウする。そうやってセキニンをもつから、かねがあつまる。オウがチアンにセキニンをもたなかったら、オウはやがて、ほかのものにとってかわられるだろう。かねをもつのに、ふさわしくないからだ。

ジブンのビジネスにセキニンをもっていれば、かねはあつまるだろう。それで、よりよいビジネスにしていけばいい。「カクサ」がどうこういわれるが、かねもちでないひとには、それなりのリユウがあるだろう。カクサをカイシヨウしようとしたら、かねをあるところをかえるよりも、ひとをかえるべきだろう。「カクサカイシヨウキョウイク」ができるのではないか。

#### ヒャクニジュウキュウ

くだものがきにみのつたら、とってたべることができる。そのもりにナンニンかがくらしていたら、それぞれがみをたべられるかもしれない。しかし、みのつたくだものがすくなければ、ケンカになる。「おまえはとりすぎだ。」とか、「そんなことはない。」とか。そういうわけだから、なにかをイッコもっていれば、くだものをイッコとっていいとか、そういうクフウがはじまる。それはおかねのはじまりである。おかねジタイにカチはそれほどないが、くだものをイッコとれると。それがやがて、おかねジタイにかちをもたせることになる。

ニホンでは、コバンなどである。それが、また、カチのないシヘイにかわる。シヘイは、

それジタイにはカチがないが(あるといえばある。)、センエンなり、イチマンエンブンのものとコウカンできる。それをチュウオウギンコウがホシヨウするわけだ。だから、チュウオウギンコウがあまりシサンをもっていないと、ホシヨウはくずれる。「インフレ」というジョウタイである。しかし、おかねがなくても、ケンカしなければ、もりはヘイワだろう。つまり、うまくやれば、おかねはいらない。そういうシャカイもあるとおもう。

#### ヒャクサンジュウ

キソはダイジである。ブヒンがなければカンセイヒンはできないし、ショクリヨウがなければからだもたない。まえにいったように、いいブヒンがあれば、いいセイヒンができる(●『オ』ヒャクサンジュウイチ)。しかし、そういうことをわすれて、オウヨウばかりをかんがえたりする。ブヒンのシュウセキジョウのカンセイヒンにはならないにもかかわらずである。

わたしはキョネン、ことしとあまりはたけをみなかった。なんとなく、そういうことをわすれて、オンガクやらホンをつくっていた。カダイがあるからたのしいとでもいえばいいのだろうか。そんなものがないはたけしごとたのしい。ギョウシャとしては、タクサンシュウカクしたいなどはあるだろうが、そういうソボクなたのしきというのをわすれていたりする。まあ、わたしがはたけをたがやそうが、たがやすまいが、かつてにショクブツはセイチョウする。でもセンゾがみつけたサイバイというジギョウをできるにもかかわらず、ホウキしてしまうのは、かつてかもしれない。そうやってキソをかるんじていたかもしれない。それはハンセイするところである。たしかに、はたけのないところにすむひとあろう。しかし、それはキホンでない。それをわすれないようにしたい。

#### ヒャクサンジュウイチ

おやじがみそしるのことを、おみおつけといていた。あんまりほかではきいたことがないが、あじをつけるというおとり、たしかにゴハンだけたべるとあじけない。みそしるがあるとショクがすすむ。サイキン、わたしはつけものをあまりたべていないので、たまにまとめてタクサンたべる。やっぱり、そういうショクジをセンゾはずっとしてきたのだろう。みそしるとつけものがあるとうれしい。しかし、つくるのがメンドウだったり、つけものをつけるシュウカンがなかったりで、あまりたべていない。おいしいとおもうのなら、つくればいいのだけれども、やはり、「キソ(●ヒャクサンジュウ)」ではないことをがんばろうと、そういうことがギセイになっている。いま、わたしはひとりではたらいっているから、つけものをつけて、チコクしてもおこられないのにもかかわらずである。

#### ヒャクサンジュウニ

ニホンジンはヨウフクをきるようになって、ワフクをあまりきなくなりましたが、そんなヨウフクだのセイヨウブンカに、カドにあわせるヒツヨウはないだろう。つけものをつけてチコクでも、まあわたしのところはモンダイないのだ。ただ、そういうセイヨウフウというかが、ニホンジンのスタンダードっぽくなっているから、「チュウヨウ」をめざすと、そもそものデントウテキなセイカツを、なかなかしづらいのかもしれない。わたしはわたし、ニホンジンはニホンジンくらいにわりきって、かんがえてもいいのかもしれない。

#### ヒャクサンジュウサン

エーアイはニンゲンよりはやいケイサンができるとおもわれる。エンザンキノウは、イチビョウカンにイチチョウカイだのなんだのいう。イチビョウカンにそれだけやられれば、いくらケイサンのタツジンでもかなわないだろう。そろばんをイチビョウでイチチョウカイはじくのはコンナンだ。そんなかんじだから、ソウタイテキにニンゲンのカチがさがる（ただしくは、はやいケイサンがヒツヨウとされるならだが。）。

どうすれば、ニンゲンのカチがまたあがるだろうか。カンタンなのは、あぶらをねあげすることである。いくらエーアイでも、デンキがたりなくなればケイサンはできない。タイヨウコウハツデンもあるし、ゲンバツもある。だが、それらのねだんもあげればいい。エーアイとニンゲンのノウリョクがタイトウになるまで。なつはクーラーがつかえずにあついかもかもしれないが、しょうがないかもしれない。

#### ヒャクサンジュウよん

ハチガツのおわりから、すずむしがなきはじめた。そのこえをきくと、あきだなどおもう。ことしは、シチガツごろがあつくて、ハチガツはそれほどだったようなきがする。おかげでプールにいきそびれた。あまりあつくないと、はいついててもきもちよくないからである。ベツにしごとをチュウダンして、プールにいてもおこられないのだが、なんとなくそれができずにいけなかった。

#### ヒャクサンジュウゴ

コンピューターネットワークのページで、なにもかかれていないしろいブブンにモジをニュウリョクして、ソウシンしたことがあるだろうか。このなにもかかれていないしろいブブンを「フォーム」という。これによって、あいてになにかをつたえるわけだ。もともとは、かみのもうしこみヨウシであろう。それがコンピューターのなかにはいつてしまった。レターセットもそうだ。「メーラー」というかたちでコンピューターのなかにはいつてしまった。オンガクもコンピューターのなかにはいつてしまった。シィディと

いうものはあるが、コンピューターのなかのファイルをひらけばいつでもきける。こうやってコンピューターのなかにはいってしまったものはおおい。ケイタイがたのコンピューター（イッパンには、コウキノウデンワとよばれる。）では、カメラもコンピューターのなかにはいている。サイフもはいていることがある。そうやって、ドンドンコンピューターのなかに、なにかセイヒンをいれてしまう。メモチョウもそうだし、ファックスもそう。テレビをいれているひともいるし、レコーダーをいれているひともいるだろう。

しかし、それではいやだというひともいるだろう。カメラはベツにもちたいし、テレビもセイヒンのものをかいたいと。センシンコクのひとのばあいは、おさないころから、そういうセイヒンにふれてきたから、アイチャクもあるだろう。しかし、ハツテントジョウコクでは、そういうセイヒンがととのっていないかたりするので、かってがちがう。むしろ、コンピューターのなかにはいていたホウが、ヨケイなものをおかなくてすむ。だから、ショウテンもコンピューターのなかにいれてしまうし、ギンコウもいれてしまう。レイゾウコだっていれてしまうかもしれない。そういうものを、「コンピューターのなかにあるもの」といえばいいだろう。

たしかに、そうすれば、ヨケイなものをおかなくてすむ。だから、そういうジュヨウをみたそうとするわけだ。クーラーとレイゾウコをイッショにしたっていいだろう。センシンコクのひとは、そういうことにテイコウがあるとおもうが、トジョウコクでは、そんなかんじではないか。レストランもコンピューターのなかにはいるし（ウンソウやがとどければいい。）、くるまもコンピューターのなかにはいる（むかえにくればよい。）。そんなわけで、センシンコクではどうかとおもうが、そういう「コンピューターのなかのもの」がはやりらしい。

センシンコクでは、ジッサイのセイヒンをいらぬといっているようなことだが、そういう「いらぬウンドウ」は、そこそこシジをえられるとおもわれる。「セイフ」もコンピューターのなかにはいってしまうかもしれない。

#### ヒャクサンジュウロク

まえにウチュウはカイソウコウゾウになっているかもしれないとかいた（●ヒャクニジュウロク）。つまり、ウチュウのそとには、ウチュウがあるし、チキユウのなかにもチキユウがあるといったぐあいである。そうすると、ウチュウのウチュウには、おおきなニンゲンみたいないきものがあるカノウセイがあるし、チキユウのなかにもちいさなニンゲンみたいないきものがあるカノウセイがある。フツウのニンゲンのおおきさがせいぜいヒャクハチジュッセンチだから、おおきないきものはなしも、ちいさいいきものはなしもしづらい。タブン、ウチュウのハンブンくらいのながさのビルもつくれなければ、センチョウブンのイチのおおきさのパソコンもつくれまいだろう。だから、キョクロンすると、そのおおきなひとみたいないきものとか、ちいさなひとみたいないきものにニンゲンがセキニンをもつことはできない。そういうわけだから、わたしは、そのハッケンで、ウチュウガイのタンサは、とりあえずシュウリョウするわけである。かれ

らがうまくやるしかないとなる。いってみれば、かみみたいなものを見つけてしまったともいえる。かみさまたちのモンダイは、かみさまたちがなんとかするしかない。ウチュウのそとには、タブンそうそうにはとどかないが、チキュウのなかはとどくカノウセイがある。だから、チキュウのナイブのケンキュウはできるだろう。しかし、それもやはり、ちいさいひとみたいなものが、がんばるしかないだろう。そういうわけで、ひとつのカガクのおわりをケイケンしてしまった。もっといえば、「かみ」をハッケンした。シンセイなりヨウイキはおかすべからずというはなしにしている。ケンキュウをしていたら、「かみ」にいきついたわけだ。それでどうするかは、わたしのモンダイだ。トクにキョウギとかギシキがあるわけでもない。そういうのは、かかわっているうちにできていくんだろう（そのソンザイがあるかもしかない）。そういうわけだから、どんな「かみ」であれ、あるとされるのはしょうがないとおもう。シュウキョウフンソウがあるのはザンネンだが。わたしは、そのおおきいニンゲンみたいなきものを「スペリオール」ということにする。ニンゲンのリョウブンでしっかりやらねばならないとおもうわけである。

#### ヒャクサンジュウなな

ニンゲンはイッショウあれば、チキュウジョウのいろいろなところをタンサクするとしても（ネツなどはかんがえないことにする。）、タンサクできるとおもう。それはどういうことか。チキュウジンのジュミョウはチキュウのおおきさにあっているともいえないか。だから、ウチュウキュウのジュウニン（ひとかどうかはともかく。●ヒャクサンジュウロク）、スペリオールは、（セイカクなヒリツはわからないが。）サンジュウオクコウネンとかいきるのかもしれない。そうだとしたら、ニンゲンからみて、ほぼしなないソンザイだろう。だから、かみのエイゾクセイがあるともいえる。そのスペリオールたちはいろいろなことをしているだろう。だからヨゲンシャがときたまあらわれるのではないか。そうかんがえると、ニンゲンはちっぽけなきものである。しかし、チキュウナイにすむちいさなひとみたいなきものからみれば、チキュウジンはソウトウながくいきるソンザイとおもわれるだろう。あくまでもカセツであるが。

#### ヒャクサンジュウハチ

ニホンではエドからメイジにはいり、「ブンメイがカイカした。」という。しかしホントウにそうなのか。たしかにオウベイのものやカガクやブンカがはいつてきて、それらをふれられるようになっただろう。それを「ブンメイカイカ」とよんでいいか。ブンメイというのは、なにかをつくるのにたけているということである。たしかにオウベイのものをまねてつくれるようになっただろう。しかし、それは「まね」であって、「ブンメイ」ではない。ニホンジンがトウジつくれたものといえば、すきやきぐらいではないか。それでは、ブンメイというにはさびしい。

そういうおそまつなジョウキョウはセンゴもつづいているようにもおもえる。ニホンジンがつくったのは、シィディ（オウベイのキギョウとキョウドウカイハツ）とかタンソセンイぐらいかもしれない。それではブンメイコクとはいいづらひであろう。ガッコウでおそわるカガクもオウベイジンやチュウゴクジンがかんがえたことをおしえている。ニホンジンがハッケンしたなにかというのはすくない。たまに、「カガクリッコク」などというが、そのようなジョウキョウでは、せいぜい「ものまねリッコク」だろう。

ブンメイというのは、コウゾウでもある。ひとつがあれば、それからハセイするものもうまれる。だから、ひとつのハッケンはダイジなのである。いまのニホンジンは、そのハセイブンでショウブしているにもおもう。しかし、それは、オウベイやチュウゴクのだれかが、はじめにかんがえたからできたことで、そのひとたちにあたたまをさげるヒツヨウがある。いってみれば、おおくのニホンジンはオウベイやチュウゴクのひとのセイトなのだ。セイトショウコウグンといってもいい。いいセイセキをとれたから、まあユウシュウであるとおもったり、「カガクリッコク」といってみたりするが、それはあくまでも、「セイト」としてのはなしである。だから、ニホンは「ブンメイコク」になりづらひのである。イチリュウコクといってもいい。

それがなんとなくわかってきたから「ゆとりキョウイク」などとやりはじめたのであろう。しかし、まだまだセイカがでないようである。キョウイクもフツウのキョウイクにもどしてしまったという。しかし、レキシをふりかえてみれば、いいキョウイクがあるとおもうのである。それはなにか。「おしえないキョウイク」である。

たとえば、そらにうかぶくものことを、チジョウのスイブンがそらにあがり、それがかたまってできる。などとおしえたとする。それはだれかがみつけたことである。それをデンタツしたにすぎない。しかし、マイニチくもをみてそれをたまにかんがえていれば、なぜ、それがあるのかがいつかわかるかもしれない。それは、そのひとがかんがえたことである。そうやって、おしえないキョウイクをすることもできる。そのケツカは、ほかのだれでもなく、そのひとがかんがえたことである。それをみつけたジキテキな、はやさのモンダイはあるが、それがつみかさなっていくと、「ブンメイ」になるだろう。それはものまねではない。それはきなごなサギョウではあるが、ニホンジンもそうしたキョウイクにきりかえることをしてもいいのではないか。そういうキソケンキュウがダイジとおもうのである。

#### ヒャクサンジュウキュウ

わたしのわかいころは、テレビゲームのカートリッジとかシィディとかをタクサンあつめた（●『オ』ヒャクよんジュウハチ）。タクサンあることで、いろいろできるようなきがした。しかし、サイキンになって、ものはタクサンあっても、からだはひとつというジジツにきづくようになった。ホンがタクサンあっても、よむひとはわたしイガイにいない。よむことにロウリョクをさけるイジョウには、よめないのである。つまり、ロウリョクがさかれないホンはやくにたたないということだ。

あつめるのが、シュミならしょうがないが、わたしはそのキノウのホウをジュウシして

いるかもしれない。おとなになれば、しごとをするから、ダイジなのはしごとでつかうものだったりする。わたしはガッキもひくが、アンガイひくロウリョクがないとおもう。そうやってものとかかわりを、ロウリョクベースでかんがえると、そんなにものはヒツヨウないとなる。そういうことがサイキンわかった。オヤジもおふくろもあまりものをかわなかったが、それはそうだとおもえるようになった。それより、ロウリョクをふやしてとかおもう。つまりは、ロウドウリョクへのトウシである。おいしいものをたべさせたり、フロにはいらせたりと、そういうのがダイジだとおもうようになった。

#### ヒャクよんジュウ

ウチュウのチュウシンがなぜもえるのか。なぜ、「ビッグバン」がおこるのかでもいい。そのテンには、サンソか、それにジュンずるブッシツがあったのだろう。なにもなければ、ヘンカはおきないというわけである。サンソがひきのばされてコウオンになり、そしてハッカしたと（●ニジュウ）。なにがサンソをひきのばすのか。わたしがおもうにカイテンである。もえるテンか、そのまわりがまわっていたと。エンシンリョクによってサンソがテИАツになりハッカしたとかんがえられる。つまり、「ビッグバン」のまえには、サンソがあり、そのテンか、そのまわりがカイテンしはじめたということだ。それは、ウチュウのはじまりにかぎらず、いろんなどころでおこったかもしれない。

ひょっとしたら、カイテンがとまると、コウセイはもえなくなるかもしれない。そういうしくみなのかもしれない。ゲンシもエネルギーをもっているとかんがえるかわからないが、カイテンがとまるとなにかヘンカがおこるかもしれない。「カイテン」というのは、ウチュウ（とそのそとがわ）のキョウツウキバンのようにおもわれる。「メリーゴーラウンド」とはよくいったものである。なぜ、まわりだしたかだが、ゲンシはまわるようにコウセイされているらしい。だとしたら、しょうがないのである。そういうジョウケンをケンキュウするとしたら、これまでみたことがないものをさがすしかないだろう。

#### ヒャクよんジュウイチ

ロケットなどは、ネンリョウをつかってスイシンする。ネンリョウがきれいたらスイシンできない。そこで、サンソをネンリョウにつかったらどうだろう。さきにいったように、テИАツのサンソである（●ヒャクよんジュウ）。しかし、それをそとにハウシュツしてしまったら、なくなっておわりである。うまく、リサイクルができるようなキカンがのぞましい。しかし、キカンをとじてしまうと、フンシャによるスイシンリョクをえられない。

ところで、それはなにかにいていないか。そう、ドウブツのコウセイである。サイボウがサンソをつかいカツドウする。そのあとは、ニサンカタンソになって、それをショクブツのちからをかりて、またサンソにする。だから、ニンゲンなどのドウブツもサンソをつかう、「もやす」でただしのである。そうすると、まえに、ドウブツにとってのエネ

ルギーは、タンスイカブツとかいたが（●『よ』サンジュウニ）、（そういうメンもあるが、）そうではない。コウセイなどとドウヨウにサンソなのだ。それだと、イー（エネルギー）イコールオーツーとなる。つまり、サンソのリョウがキドウリョクをきめるのである。ジカンについてもそうだ。ティ（ジカン）イコール ダブリュ（シツリョウ）ブンのイー（エネルギー）だから（●『オ』ハチ）、ティ イコール ダブリュ ブンのオーツーであろう。つまり、サンソがなかったらジカンはすすまない（ニンゲンがらみでののはなしかもしれないが。）。

マイナスになることもそうそうないだろう。タンジュンにコウゾクキヨリをのぼしたかったら、シツリョウをかるくして、サンソをタクサンつむようだろう。オーツーからシキをセイリすると、オーツーイコール エル（ウンドウ、ジカン イコールエルより。●『よ』サンジュウニ）かけるダブリュになる。つまり、サンソとは、キドウリョクになって、おもさもあるということになる。サイキンのロボットは、デンキでうごくものがおおいから、かならずしも、イドウにオーツーをつかうわけではなさそうだ。

#### ヒャクよんジュウニ

サイキンはエーアイやロボットのハツタツがいちじるしいという。このニシュルイのものをコジンがショユウして、かわりにカイシャにいてくれたら、どんなにラクだろうか。しごとがないのは、そんなにラクではないようにもおもうが、そうになると、そのひとはいわゆるシホンカといえるだろう。

シホンには、フドウサンやロウドウリョクなどがあげられてきたが、そのロウドウリョクをコジンがショユウするということである。それイガイのみずからのロウドウリョクをテイキョウするひとが、「ロウドウシャ」ということになるだろう。キギョウがそういうエーアイやロボットのシュッキンをゆるすかはわからないが、そういうジダイになりつつある。キギョウが、そのシホンにドクセンして、じまえてエーアイやロボットをヨウイすれば、キゾンのシホンカのシホンがゾウキョウされるということになる。そうすると、ロウドウシャは、よりわるいジョウケンではたらくことになるかもしれない。たとえば、セイキシヤインが、ヒセイキシヤインにおきかえられていくというぐあいである。そうすると、ニンゲンのおもなしごとは、エーアイやロボットにできないこととうつついていくだろう。このエーアイとロボットをキギョウがもつか、コジンがもつかというのは、ジュウヨウなロンテンだとおもう。

#### ヒャクよんジュウサン

むかし、わたしがでかせぎロウドウシャをしていたころには、やすみがすきだった。トクにわたしはイチニチジュウねていた。しかし、このごろになって、あまりやすみはすきでなくなったかもしれない。なぜか。おかねをつかうキカイがふえるからである。むかし、わたしはテレビゲームのカートリッジをあつめ、マンガをあつめ、シィディをあ

つめ、ホンをあつめた（●『オ』ヒャクよんジュウハチ）。このことからわかるように、わたしには、なにかをあつめるくせがある。だから、どうかとおもうのである。

そういうコレクターのタイセイにはいったら、おかねをつかひすぎてしまう。だから、しごとのあるヘイジツのほうがいいかなとおもうのである。それでも、ホンなんかはかかってしまう。ないとタイクツするからだ。ディブイディをかりてくれば、もっとやすいが、ドラマをみるシュミはないので、そうしている。ガッキをかえば、サイテイスウマンだから、まだまじだが、そういうのをあつめてしまうのではないかというケネンがある。うまくのりきりたいものだ。

#### ヒャクよんジュウよん

ジカン イコール シツリョウ ブンのエネルギーのはなしをした（●ヒャクよんジュウイチ）。このエネルギーとは、ほしをもえるのにヒツヨウなサンソとおもわれるから、ティ（ジカン）イコール ダブリュ（シツリョウ）ブンのオーツ（サンソ）となる。つまり、ジカン（うごき。ティ イコールエル（うごき）より。●『よ』サンジュウニ）は、サンソがなりたたせているとなる。ニンゲンだって、サンソがなければ、ただのかたまりだから、これはわかるだろう。そういうわけで、サンソのあるところには、なにかがあるかもしれないとなる。ジリキでうごけるなにかだ。サンソがホウフにあれば、ニンゲンなんかより、ながいきするセイブツがいるかもしれない。サンソとは、そういうキソテキなブッシツのようにおもわれる。

#### ヒャクよんジュウゴ

「ジブンさがし」なんてことばがある。タブン、「かがやいている」ジブンをさがすのだろう。しかし、その「ジブン」が、かがやいている「ジブン」をさがすわけだから、エーイコールエーでいつまでも「ジブン」はかわらないとなる。つまり、「ジブン」はすでにあるわけだから、「ジブン」はみつからないとなる。それならどうすればいいか。「ジブン」ではなくて、ベツのものをさがせばいいとなる。そうすると、エーは、ビーとはちがうから、みつかる（かもしれない）となる。ヘンカがあれば、みつかるだろう。

セイチョウなんてことばもある。そうやって、ジブンをセイチョウさせればいいのだろう。「ジブン」さがしをしても、エーイコールエーだから、「ジブン」はかわらないとなるし、エーとビーだったら、トウシキであらわすのもどうかだから、それは「ジブン」ではないとなる。そういうひどいあそびのようなきがする。

#### ヒャクよんジュウロク

チュウゴクでセイゾウされているものがふえている。セイカクにいうと、いまもふえて

いるかはわからない。ピークがおわったかもしれない。なぜ、チュウゴクでつくるのか。かつてはジンケンヒがやすかったといわれているし、ロウドウリョクも、シジョウもあるだろう。もっともキカイがつくるから、ジンケンヒのモンダイではないというはなしもある。テレビなんかをふくめ、ケッコウなしなはずが、チュウゴクでつくられている。ブンゴのひとつにテショウがある。それをこのまえかった。かうときは、どこでつくられたかはしらなかった。ブランドものというやつである。とどいて、つつみをあけてみたら、ズイブンぶあついそれがでてきた。なるほどとおもった。それをつかってしごとをするわけである。それならケッコウなリョウのしごとができるであろう。ぶあついからである。それはチュウゴクセイであった。ニホンキギョウがつくるそれドウヨウのものは、「うすさ」でショウブしているカンがある。もちはこびにラクということであろう。でも、それでしごとがおおくできるきはしない。わたしがかったものは、ニホンキギョウがつくるものより、ニバイ、サンバイあつい。それはどういうことかということ、ニホンジンは、はたらかなくなっているということであろう。「はたらく」リョウがちがう。いまでは、カイガイのロウドウシャのホウが、ニバイ、サンバイはたらくのではということである。「ニホンジンは、はたらきもの。」といったが、それはむかしのはなしであろう。ソウタイテキに、ニホンジンはまずしくなっているようなきがする。

#### ヒャクよんジュウなな

このまえ、まえのひのユウシヨクとあさゴハンをシツソにしてたべた。テイエイヨウにしたということである。すると、フダンのツウジョウのエイヨウのときと、かんじかたがちがう。そのほかのシンリテキジョウケンもあるだろうが、そうかんじた。ヘヤのソウジなんかも、フダンなら、コウリツをかんがえてしまうが、テイエイヨウで、あたまがまわらないからか、ヨケイなことをかんがえず、さっさとからだをうごかしてすすめる（コウリツをかんがえるのがわるいというイミではない。）。

わたしは、ニジュウダイコウハンからサンジュウダイなかばにかけて、そんなかんじでセイカツしていた。だから、そのテイエイヨウモードは、なつかしいとおもった。フダンなら、はしるモクテキをかんがえてしまうが、そんなことをかんえずに、はしろうとおもったりする。そうやって、あまりかんがえず、しごとにつくことも、トクにサギョウケイではダイジではないか。ブツブツいっても、しごとがすすむわけではないのだ。「いいからやれ。」とか、「ブツブツいわずにやれ。」とか、むかしはそういうフウチョウというかブンカがあった。やっぱりそれはそれでまとをえているのではないかとおもう。あたまをうごかしても、ソウジはおわらないからである。

ニホンでのそういうサギョウケイのしごとがへって、そういういいかたをあまりしなくなったのだろう。ひよっとしたら、エイヨウジョウタイがよくなって、あれこれかんがえるようになったのかもしれない。ケツカとして、サギョウケイにはむかなくなっただろう。いまでもたちぐいそばやがあるが、そういうところで、かるくたべて、サギョウをモクモクとこなす。そういうロウドウブンカがあった（ある）のではないかとスイソクできる。わたしもむかしはそっちケイだった。いまでもたちぐいそばやに行く。サイ

キンのはわかものは、ラーメンなんだろうか。

まえにニホンのラーメンはエイヨウがないとかいた（●『む』ヒャクゴジュウイチ）。しかし、それがゆえにヨケイなことをかんがえずに、しごとができるというフウにもおもうのである。おてらのおボウさんなんかもそうなんだろう。だから、なまぐさはつつしむのだとおもう。そういうちえをみつけた。それがニホンのケイザイリョクのつよさだったとおもうのである。

#### ヒャチよんジュウハチ

カブシキガイシャはカブをハッコウして、トウシカにかってもらう。そうやってシホンチョウタツをする。かわりに、ジギョウででたシュウエキをハイトウしてトウシカにわたす。これがよくあるカイシャである。サイキンはニホンセイのセイヒンがへってきた。テレビなんかもむかしはニホンでつくっていたが、いまだと、やすいものはみなチュウゴクセイでないか。しかし、それにもわけがある。よくいわれるのが、ニホンでつくるより、チュウゴクでつくったホウがやすい。である。ジンケンヒが、チュウゴクでもたかくなってきたようだが、ニホンジンのキュウリョウよりはまだひくい。それなら、やすいところで作ったホウが、リエキがおおきい。そのホウがトウシカもよろこぶ。そういうわけで、ニホンセイがへっていくのである。

チュウゴクでつくるのがわりだかになってきたら、ベツのくにいくのだろう。しかし、ニホンセイをふやせるジョウケンもある。それは、コジンやレイサイキギョウがセイサンするである。トウシカをきにするヒツヨウがないのであれば、わりだかなジンケンヒでもセイサンできるからだ。そういうわけでニホンセイをささえるひとつのちからは、コジンやレイサイキギョウだといえる。

#### ヒャクよんジュウキュウ

ひととひとがソントクしあうとどうなるか。それは、「キョウドウタイ」になるだろう。それをもっとおおくのひとのあいだでなされると、「ホンモノの」キョウドウタイになってくる。しかし、そのなかでそういう「ソントク」にオウじないひともでてくるだろう。それをセイリすると、タクサンのソントクイコール キョウドウタイ たす インターサイダーとなる。

インターサイダーとは、うちのひとか、そとのひとかわからないひとたちである。このシキはこどもについていうと、「インターサイダー」が、「いたぶり」にかわったりする。つまり、「いじめ」である。おとなのあいだでは、なかなかいじめにはならないであろう。ハンザイにちかいかからだ。しかし、そういうむきもある。

このように、ゼンインサンセイでケツギというのは、なかなかむずかしい。だから、セイトウがタクサンできる。それはいじめよりいいかもしれない。センゴは、タクサンできたから、ユウイなひとつのセイトウのことを、かならずしもきくかという、そ

うではないだろう。それを、「いじめ」でおさえてしまえというひともいるだろうが、イケンがわれたっていいだろう。ソntaxをぬきにするホウホウもあるだろう。そうすると、オウベイテキになるのだろうか。

#### ヒャクゴジュウ

ニホンでは、ガクセイがダイキギョウにシュウシヨクしたり、コウムインになろうとしたりする。タブン、それらなら、つぶれないからアンタイだとおもっているのだろう。たしかにコクナイシジョウで、それだけシェアがあれば、そうわるくはないだろう。しかし、カイガイもふくめると、そのチイはソウタイテキにテイカする。コクサイテキにいうと、かせぐキギョウのジョウイにサイキンはニホンキギョウがはいらない。つまり、カイガイのキギョウのホウがコウチョウというわけだ。だから、ドウキでニューシャしただれかがカチョウになったといっても、それでくやしがることはない。ネンシュウだって、ゴヒャクマンエンもかわらないであろう。

カイガイにめをむけると、わたしのコウハイカクが、ネンカンイッチョウエンとかかせいでいる。わたしのドウキはそれほどでもないが、やはりソウトウのサをつけられている。そういうわけだから、コクナイのドウキとくらべるのは、やめたホウがいい。メイジシンのときもそうだっただろうが、カイガイの「ドウキ」たちときそっぴりいかなければならないのだ。

#### ヒャクゴジュウイチ

「ミンシュシユギ」とはなにか。おとながいろいろギロンしてきめることといえるかもしれない。ニホンでは、「ダイギシ」がリップオウについて、かわりにギロンすることになっている。だが、ショミンがギロンをしてもいい。サイキンは、「ダイギシ」といういいかたをしない。「セイジカ」ということがおおいかもしれない。この「ダイギシ」をえらぶのがセンキョである。そのカヒは、トウヒョウされたかずできまる。だから、いいギロンをしそうなひとをえらんでトウヒョウしているともいえるだろう。

「ケンポウカイセイサンセイ。」と、ダイギシコウホシャがいたら、トウヒョウするひとは、そのセツにサンセイすることになる。えらんでもらうために、テレビなどでコウホシャのイケンをコウヒョウすることもある。それでえらぶわけだ。

しかし、ジシュテキにえらんでもらうというよりも、そうだとおもわせてしまうようなセンデンもある。ナンカイも、「ケンポウカイセイハンタイ。」ときかされているうちに、そうかなとおもってしまうようにである。それでは、ことばのシツよりリョウがモンダ

イである。ことばのりョウで、ひとのイケンをさそうわけである。そういうのを、セロンソウサという。それでヒョウがあつまれば、そのとおりのことができるようになる。そういうセケンにうったえるモクテキのタッセイのしかたがあるが、イッポウで、ことばはいいから、ジブンではじめたらとおもう。ジバラではじめるということである。しかし、そういうひとは、ニホンではすくないようだ。そうではなくて、ゼイキンをつかえるたちばになってなにかをやろうとする。なんかそういうひとがおおいがする。

#### ヒャクゴジュウニ

ケンリョクシャになると、いろいろたてものをたてたりする。フツウのケンリョクではむずかしいだろうが、オウヤコウテイのはなしである。ピラミッドとかキュウデンがダイヒョウテキだろう。わたしはトクにケンリョクシャではないが、なにかヨケイなものをかっってしまうくせがある。グタイテキにいうと、ギターのキザイである。キュウデンとよぶにはちょっとちいさいが、ヘヤのあるテイドをしめる。なくてもこまらないのだが、そういう「キュウデン」をつくってしまう（イッコイッコがブヒンになっているくみたてシキだ。）。しょうがないとおもうのだが、わたしもそういうシュウカンをもっているようだ。

#### ヒャクゴジュウサン

エーアイがたまにワダイになる。ロボットのはなしがでてくることもある。このふたつがニンゲンのロウドウをうばうかがチュウモクされるころだろう。これらはパソコンのようなものかもしれない。ハチジュウネンダイあたりからふえはじめて、レイネンダイにイッキにフキュウした。そのレイでは、フキュウするまでにニジュウネンカンかった。

わたしはパソコンをテレビがわりにしたので、イッコテレビのしごとをパソコンがうばったことになる。もっといえば、オンガクのロクオンキのしごともうばった。ワープロのしごとをうばったというひともいるだろう。このように、エーアイやロボットもなにかしごとをうばいそうである。それはどんなしごとだろうか。

タンジュンにいえば、「マニュアル（テジュンショ）」どおりにするしごとはうばわれるだろう。それはプログラムカノウだからだ。いまのところは、そのマニュアルでニンゲンをうごかしているが、テジュンショがつくられるということは、プログラムカノウなのだ。それなら、エーアイやロボットをうごかせばよいとなる。うごいていたロウドウシャのネンシュウがサンビヤクマンエンなら、ニセンマンエンのロボットをかったホウがやすあがりとなる。それなら、ロウドウシャはカイコされるだろう。そういうリユウで、マニュアルでうごくしごとは、えらばないホウがいいといえるだろう。

## ヒャクゴジュウよん

ニンゲンはジユウだとしんじられているかたがおおいだろうが、イッポウでヨソクというのもなりたつ。ヨソクどおりだと、かれはひるゴハンをテイショクやにたべに行く。エーアイをつかって、そういうヨソクをすることがリュウコウしていないだろうか。ショウギも、プロキシあいてにまかしてしまうのだから、そのヨソクはわりとセイカクなのだろう。まえにカイキブンセキのはなしをかいたが（●『オ』ニジュウハチ）、それもヨソクのひとつのホウホウである。てケイサンでやると、イチニチはかかるだろうが、コンピューターをつかうとイチジカンでできる。

いまのエーアイをつかってのヨソクは、さらにセイミツになっているのだろう。だから、あまりかんがえたり、センタクしたりしなければ、エーアイのヨソクどおりになることもあるだろう。しかし、あなたがそのヨソクをみられるたちばだったらどうか。エーアイのヨソクどおりに、テイショクやにいきそうであっても、ヨソクをみて、やっぱりラーメンやに行くこともできる。そうすると、ヨソクをするホウは、はずれたといろいろかんがえるだろうが、あなたにとっては、そのヨソクをみることで、ジユウになれる。センタクのジユウといってもいいかもしれない。

というわけだから、エーアイのヨソクをみることができると、ギャクにジユウになれるということだ。だから、ジユウになりたかったら、ヨソクのできるエーアイとなかよくすればいいだろう。

## ヒャクゴジュウゴ

エーアイやロボットがしごとをうばうはなしをした（●ヒャクゴジュウサン）。また、エーアイをつかって「ジユウ」になれることもかいた（●ヒャクゴジュウよん）。これらは、ゲンザイシンコウケイである。トクにセイジテキなキセイがあるわけでもない。それなら、コンゴますますエーアイやロボットがふえていくだろうといえる。

いま、マニュアル（テジュンショ）ロウドウをしているガクセイは、コンゴにそなえてどうすればいいか。ひとつはエーアイにつかわれるしごとをすることだろう。つまり、サギョウケイのしごとで、「みぎにいて、まるボタンをおして、そのあと、ゆかをぞうきんがけしましょう。」と、エーアイのことをきくロウドウシャになることである。これは、エーアイにさからったカイスウがキロクされて、キュウリョウのヒョウカがさがったりするだろう。また、そういうロウドウをするひとがおおいだろうから、キョウソウもはげしいだろう。

もうひとつは、エーアイやロボットにおきかえられないしごとをすること。もうひとつは、エーアイやロボットをセイビするしごとにつくだ。パソコンがフキュウして、プログラマーがふえた。コンゴもやはり、エーアイやロボットをプログラムするロウドウリョクがヒツヨウなのだ。だから、エーアイゴなり、ロボットゴをおぼえるといいだろう。「あなたのロクジュウニバンソースコードにバグがあります。」とシテキできればセイサンテキだろう。

## ヒャクゴジュウロク

テイコクはキュウデンもつくるが、オンガクをあいしたりもするだろう。スペインならギターだろうし、ヨーロッパではオーケストラオンガク、ニホンではガガクがあるし、インドやチュウゴクにもドクジのオンガクがある。ガッシュウコクもジャズなどドクジのオンガクがある。

それにフズイして、まいがみられることもある。しかし、それがカドになりすぎると、テイコクがポツラクするようなきがする。おんながおどるブンにはいいが、ヘインにもなるおとこがおどってばかりだと、センソウにまける。だから、タブンほどほどにしたホウがいいようなきがする。ニホンでもハチジュウネンダイに、ディスコがはやって、そのあとにフケイキになっていった。それをきにするのである。

## ヒャクゴジュウなな

(オンガクの) サンバやタンゴはどのようなルーツをもつのか。タブン、ミンゾクテキなブルースみたいなものに、リズムがのっかったとかんがえてよいのではないか。トクチョウテキなリズムである。わりとてかずがおおかったりするから、ギターをつかうのだろう(ギターはケッコウなはやさのリズムをひける)。ギャクにギターがあったから、そういうキョクができたともいえる。そういうわけだから、エンカがサンバになったりするのわりとあるセンなんだろう。ブルースみたいなメロディたすリズムというわけだ。ギターはワオンをだせるが、おさえていくとむずかしいワオンもなる。そういうのがうみをわたってハッテンすると、ジャズなのではないかとおもう。むずかしいワオンをテンカイさせたとかんがえられる。リズムはおさえられたが、むずかしいオンカイをハッテンさせた。そういうシンカのしかたなのだとおもう。

## ヒャクゴジュウハチ

「カカクキョウソウ」などという。あるセイヒンのカカクをきそっているジョウタイである。やすいもののホウがうれるというニンシキやジツタイからそうになってしまうのだろう。うるためにやすくするわけだ。イッポウで、「かねもちがますますかねもちになる。」というはなしもある。かねもちはひよっとしたら、そういうカカクキョウソウにサンカしなくてもいいかもしれない。かねがあるからだ。タシヨウたかくてもかえるし、うるホウとしても、タシヨウうりあげがおちてもダイジョウブだろう。ようするに、ビンボウなホウがキョウソウをして、かねもちのホウはキョウソウしないといえるかもしれない。ケイザイキョウソウはカコクだったりする。くうかくえないかであるからだ。そうしたビンボウニンとかねもちとのカクサをモンダイとするひともいるようだ。どうすれば、

「カクサ」がなくなるかをとく。タブン、ヘイワのホウがいいからだろう。さきにいったように、かねもちはキョウソウしなくていいブンヘイワである。だから、かねもちのかねをビンボウニンにおとせというかんがえかたをしたりする。かねもちにタクサンカゼイするというホウホウもある。しかし、そういうひとのことをシンライできるのであろうか。そのひとがシンライできるかどうかは、そのひとのかうものをみればよい。イチバンねびきがおおいビールをかったり、やすいラジカセをかったりするのでは、シンライできないであろう。なぜなら、セッキョクテキに、やすいものをかうことで、「カカクキョウソウ」をシジしているからである。つまり、そのひとは、「ヘイワ」なジョウタイにしようとしていないわけだ。それではキョウソウはなくなるからあろう。ホンキでそれをいうのなら、わりだかなものとか、そこそこのものをかうヒツヨウがあるとおもう。

#### ヒャクゴジュウキョウ

ニホンはタンイツテキなブンカをもつとされる。それは、ニホンジンのオンガクのシコウにあらわれているとおもう。それは、ショウチュウガッコウでジツエンする「ガッショウ」である。パートがわかれているから、「ガッショウ」というのであろうが、せいぜいダンセイとジョセイのちがいで、うたうことがおおいだろう。「セイショウ」にちかひ。つまり、オクターブはちがっても、ゼンインがおなじオンカイをうたう。タンイツテキである。

イッポウでオウベイでは、コンセイシブガッショウなどがある。ショウチュウガッコウでそれをやっているかはわからないが、そういう「ガッショウ」がある。ニホンのコウコウなどでも、そういうブカツにはいれば、そのキカイがある。これは、すくなくともよつつにわかれている。だからタンイツのブンカとはちがうといえるだろう。

そのパートをブンカとすれば、よつつあることになる。オーケストラはもっとすごい。パートがジュウイジョウにわかれている。いってみれば、それだけブンカがタヨウなわけだ。ニホンジンもオーケストラをとりいれたりしているが、まだまだだろう。なれないと、ほかのパートのおとにつられてしまうのではないかとおもう。オウベイイジョウにタブンカをめざすのなら、パートがニジュウイジョウあるオンガクとか、ニジュウニンがソリストのオンガクをやるといいかもしれない。

#### ヒャクロクジュウ

「カガクをやらないと、レキシがひとつにならない。」とかいた（●『オ』キョウジュウニ）。レイをいえば、とよとみひでよしコウが、ショウグンになったか、とくがわいやすコウが、ショウグンになったか、リョウホウならどちらがさきか、といったことをつめていかないと、レキシ（キロク）やニンシキやブンカがひとつにならないわけである。ジツサイにそのジブン、セイリョクあらそいもあつただろう。それをつめていくとレキシがひとつになる。ギャクにそれをしないと、いろんなセイリョクにわかれてしまう。ゲ

ンダイテキにいうと、セイトウだろう。それぞれニンシキやシュチョウがちがう。しかし、ガッコウキョウイクで、あるテイドのレキシ、いろいろなキョウカをベンキョウするから、ふるいことがらについては、ニンシキをイチチさせることができる。ヨウするにそうやってくにをひとつにまとめているわけだ。

もし、カイガイをふくめて、ニンシキをひとつにするべきだとおもうなら、キョウツウのキョウイクをすればよい。そうすれば、ニンシキはひとつになるホウコウだろう。そういうわけだから、カイガイでキョウイクをうけたニホンジンやガイコクジンは、ニホンのメインブンカとはイチチしないかもしれない。わたしもなんとなく、「ニホンとはなにか」といつづけた。しかし、またベンキョウをしなおしてもしょうがないであろう。わたしは、ジセツをいうので、トウチシャにとってはけむたいかもしれない。しかし、それもカガクみたいなものだとおもっている。

### ヒャクロクジュウイチ

マニュアル（サギョウテジュンショ）があるしごとは、キカイにおきかえられるといった（●ヒャクゴジュウサン）。それは、キカイにプログラムカノウだからである。つかうホウからみれば、ニンゲンをプログラムするか、キカイをプログラムするかのサにすぎない。ガッコウキョウイクもイッシュのプログラムであろう。ナンネンにだれがどうしたとか、スウシキをよめるようにしたり、エイゴをインプットしたりする。それは、キホンテキなことだからと、チュウガクまではギムキョウイクとなっている。そのさきは、プログラムしたきゃコウコウなどにいけばいい。

キカイのプログラムはサギョウケツカをかえてくれるが、ニンゲンをプログラムすると、おかねをくれることがある。キョクタンなのがサギであるが、イセイにあえるというジョウホウのかわりにおかねをはらうことがある。コウコクもそうであろう。〇〇のセイヒンがいいですよとインプットすると、おかねをはらって、そのセイヒンをかってくれたりする。そういうわけで、ニンゲンあいてにプログラムすると、もうかることがある。ロウドウのパメンだと、サギョウにおうじてチンギンをしはらわなければならないが、そういうプログラムもある。

なにはともあれ、これからは、プログラムするひとと、プログラムされるひとにわかれるのではないか。プログラムするひとは、それによってサギョウケツカをもらえるし、さきのように、ニンゲンをプログラムして、おかねをはらってもらえるかもしれない（かりに、ゲンキンをうけとれるプログラムということにする。）。しかし、プログラムされるひとは、ウンがよければ、サギョウをして、チンギンをうけとれるが、キカイもそれをしたりするので、やすくなるだろう。ウンがわるければ、ゲンキンしはらいプログラムによっておかねがでていってしまう。だったら、プログラムするホウになったホウがトクだろう。

そういうわけか、ガッコウキョウイクにプログラムのギジュツをいれたらいい。まあ、ダトウといえばダトウだろう。しかし、プログラムされるひともヒツヨウでないか。それがそろわないと、プログラムとプログラムをぶつけあうプログラムセンソウになりかね

ない。ケイザイテキナリエキがかかるので、ひとはホンキになってやるだろう。とにかく、ユウシュウなプログラマーがかちのこるのはたしかだろう。

#### ヒャクロクジュウニ

ニンゲンがプログラムするはなしをしたが（●ヒャクロクジュウイチ）、ニンゲンのかわりにエーアイがプログラムするようになるかもしれない。ショウギもいまではエーアイのホウがつよい。だったら、エーアイにプログラムさせたホウがいいケツカがでるともいえる。モチロン、エーアイがチンギンをはらうというはなしはきかないから、エーアイのことをきいても、もうからないかもしれない。しかし、そのセイカをほかのひとにかつてもらうことはできるかもしれない。そうやってほかのひとがプログラムセンソウをしているところを、エーアイのことをわざときいて、センソウからのがれることはできるかもしれない。

#### ヒャクロクジュウサン

オンガクをつくって、イッコのガツキをいれかえると、そのキョクのイメージがソウトウかわるといふかんじがした。イチたす イチ たす イチは、サンだが、イチ たす ゴ たすイチのようなシキになったんだろう。ケイサンケツカもななとかわる。それをならすのに、ヘイキンイチのホウにあわせるか、ヘイキンゴのホウにあわせるかというモンダイがある。どちらでもいいのだが、ヘイキンをゴにするホウがてまがかかる。ヘイキンをゴにしようとおもえば、たすよん と たす よんのケイ たすハチをしなければならない。しかし、ヘイキンをイチにしようとおもえば、ひくヨンをすればいいだけだ。これはなにかのカダイにいていないか。「でるくいほうたれる。」というやつである。あるシャカイで、あしがはやいひとがひとりいたとする。そのひとにあわせてはしろうとすると、クロウがおおいから、あしがはやいひとをヘイキンテキなはやきではしろうとしようというやつだ。これは、いじめのメカニズムでもあろう。あしがおそいひとがいたら、ヘイキンテキにはしつてもらうというのがわかりやすいレイだろう。つまり、ヘイキンにあわせるホウが、おおぜいにとって、クロウがすくないから、それがおこるといふわけである。しかし、コクサイキョウソウがはげしいと、ユウシュウなひとはヒツヨウである。ムリにあわせるヒツヨウはないが、コセイソウチョウでいいのかもしれない。

#### ヒャクロクジュウヨン

ガツキはやすくないし、なによりもはばをとる。わたしは、それをきにかけていなかったのだから、ヘヤのケツコウなスペースをガツキがしめるようになった。おふくろにいわせ

ると、「ジャマ」である。ドラムセットもほしいとおもったことがあったが、そこまでヘヤにひろさがないからやめた。ヒョウジュンテキなニホンのいえではむずかしいだろう。だから、スタジオというのがある。

ギターやヴォーカルのデンキギザイもそろっていて、イチジカンあたりリヨウするといくらとなっている。しかし、そんなにやすすくないので、ジタクレンシュウヨウのなにかもほしいだろう。ドラムパッドなどがある。それは、たたくとあらかじめロクオンされたガツキのおとがなる。こダイコヨウのパッドをたたくと、こダイコのおとがなる。そのかんがえをすすめると、ドラムをたたきたいではなく、ドラムのおとをだしたいということになるだろう。

それだと、「ドラムセット」ジタイはどうでもよくて、「ドラムのおと」があればいいことになる。そういうみじかいおとをロクオンするソウチは、キュウジュウネンダイからあって、ちかごろではパソコンでそれをやる。それでおとをだせるとなると、「ガツキ」はいらない。そのおとのねだんも、ガツキよりやすい。はばもとらない。そういうやりかたでつくられたオンガクがヒップホップなどである。

かならずしもおおきくないいえにすんで（タブン、アパートだ。）いるひとがオンガクをやろうとおもったら、はばもとらないから、いいセンタクシである。そういうちえがそういうオンガクにはある。いまはパソコンがフキュウしたので、よりコウオンシツのおとをあつかえる。コンピューターでオーケストラのエンソウをサイゲンできたりする。オーケストラをつかおうとおもったら、いろいろタイヘンだが、わりとすくないヒョウで、それができる。「おと」があればいいわけである。

ニホンでは、かねをそんなにもっていないわかものが、「バンドブーム」で、ギターやらドラムをはじめたが、それはかねもちのやりかたであろう。そこはちえをつかい、「サンプラー」というそういうキザイをつかって、「おと」でショウブすればよかったのではないか。わたしのばあい、バンドブームにショクハツされたあと、いえにあったオルガンと、ガッコウでついていたケンバンハーモニカをつかってオンガクをはじめた。ダガツキがほしかったので、はこやカンをたたいた。ドラムのおとがでるドラムマシンもかったが、トウジのものでは、ジツブツのおとにはかなわなかった。むしろ、それをつかったメーカーのはこのホウがいいおとがした。そうやってクフウしていればよかっただろうが、かたちどおり、ギターやベースとガツキをそろえれば、かねもかかるし、スペースがすくなくなる。わたしは、ドラムイガイひととおりそろえてしまった。そこがかんがえのたりなかったテンといえるだろう。サンプラーをかって（いまではパソコン）、おとをあつめればすんでしまう。

ステージのうえにたちたかったら、ガツキがあったホウがいいが、ステージのうえにたつのもダイタイあかじだから（ライブハウスでカンキヤクがすくないばあい。）、おかねがかかる。それよりも、サクヒンをハッピーウしていればいいとおもう。そういうシツパイダンではある。たまに、わたしは、ガツキをつかってエンソウしたのをロクオンしているが、ニホンジンはそんなにゆたかではないのだから、かんがえるべきではある。

ヒャクロクジュウゴ

いじめのゲンリをかいた（●ヒャクロクジュウサン）。なにかのノウリョクがサンのセイト、ひとりと、イチのセイトがヨニンいたとしたら、サンのセイトがイチのセイトにあわせたホウが、ゼンタイテキナロウリョクがすくなくなるというロジックだ。そのばあい、ロウリョクは、ニですむが、ギャクにイチのセイトが、サンにあわせると、ロウリョクがハチかかる。このロウリョクのモンダイで、いじめがおこるというセツである。

それでは、いじめはカイケツできるのだろうか。あるノウリョクがジュウのセイトがひとり、イチのセイトがヨニンいるとする。タンジュンなサンスウテキソウサでは、ヘイキンにおちつかせてしまえということがかんがえられるであろう。ゴニンでゴウケイジュウヨンだから、ニテンハチにゼンタイをもっていけばいいと。しかし、そのばあい、ノウリョクがジュウのセイトは、ナナテンニのロウリョクがヒツヨウで、ほかのヨニンとくらべると、イッテンハチだから、ヨニンブンのロウリョクをしられることになる。これでは、ロウリョクのコウヘイセイはカイショウしない（うらむということだ。）。それならどうすればいいか。

ノウリョクのチュウカンにおちつかせればいいということがかんがえられる。このばあいなら、ゼンインゴテンゴをめざすのである。それだとそれぞれがヨンテンゴのロウリョクをつかえばいいとなる。それならコウヘイだから、おさまりはわるくないのではないだろうか。もっともカンタンなレイだからこういうケッカで、もっとノウリョクがばらけると、フクザツなケイサンがヒツヨウであろう。

#### ヒャクロクジュウロク

ウチュウのそととチキユウのなかのはなしをした（●ヒャクサンジュウなな）。そこにはニンゲンのようないきものが、それぞれのおおきさでいるかもしれないというはなしだ。チキユウでは、いま、カガクギジュツがハッタツしたというが、せいぜいチキユウジンがみえるテイドにしかカガクはハッテンしないだろう。みえないものが「ある」といっても、セツクがむずかしいからだ。

ブッシツをコウセイするのは、ゲンシだと、わたしがチュウガクセイのときにおそわったが、いまはもっとこまかいはなしをしていたりする。しかし、みえるテイドにしかハッテンしないだろう。よりちいさなチキユウのようなものにすんでいるなにかが、ゲンシイカのこまかいタンイをみて、ゲンシは〇〇でできているというだろう。もっとナンダンカイもこまかくブンセキするかもしれない。だから、こまかいもののカガクは、タブンチキユウのなかにすんでいるなにかには、かなわない。ウチュウのそとについては、ウチュウのそとにすむなにかがブンセキするんだろう。

そういうわけで、チキユウジンはせいぜいチキユウのうへと、ウチュウをみるだけだろう。なんでもしっているわけではない。そういうわけだから、つねに「かみさま」がでてくるヨチはあろう。

## ヒャクロクジュウなな

まえに、かんがえるとはカンをかえることだといった（●『む』よんジュウイチ）。そうだろうというカンをかえることだ。だからすこしかなしい。まえのニンシキから、ベツのニンシキにかえてしまうからだ。しかし、ニンゲンとはそうやってヘンカしていくものかもしれない。すこしずつニンシキをアップデートしていくわけだ。それでも、あまりヘンカしないひともいる。そういうひとをみると、なんかなつかしいとおもう。いつてみれば、ニンゲンならや、ニンゲンキョウトというわけだ。かならずしもトウキョウやおおさかがいいとはかぎらない。

## ヒャクロクジュウハチ

あるキギョウがあるセイヒンをうりあげ、ダブリュ（チンギン）と、ピー（リエキ）をだしたとする。このダブリュをジュウギョウインはつかい、セイカツをする。このジュウギョウインがチョコキンをせずにダブリュをつかいきれば、またダブリュブンのジュヨウがうまれる。しかし、イッポウのピーがつかわれなかったら、ジュヨウは、そのまえが、ダブリュたすピーがあったところ、ダブリュだけになる。つまり、ピーブン、ジュヨウがへるわけだ。それでまたセイヒンをうると、ダブリュだけうりあげて、またエックス（チンギン）と、キュー（リエキ）をだす。こうしていると、ドンドンチンギンもリエキもさがってしまう。これを「デフレ（●ヒャクニジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウゴ）」とよぶようだ。

マルクスフウにいえば、「サクシュ」だろう。それをカイケツするには、「リエキ」をださないというホウホウがあるが、そういうキギョウはすくないだろう。しかし、こうしたコウゾウゆえに、フケイキがながくつづいたというはなしもあまりきかない。どうしてだろう。

イッパンテキなコウケイキがつづくうらでは、ケッコウなあかじをだしているキギョウやひとがいるのではないか。「コウケイキ」というのは、あるタスウのはなしである。うらであかじをだしているキギョウがいなければ、チンギンもリエキもさがりつづける。つまり、すくなくとも、さきのピーのブンをどこかのキギョウやひとがはらっているといえそうなのである。それをセイサクテキにジッコウするのがコウキョウトウシであろう。

セイジカはセンキョでえらばれるから、タスウが、「ケイキがわるい。」というと、トウセンするのがむずかしくなる。しかし、ショウスウが「ケイキがわるい。」といっても、あまりモンダイにならない。だから、ケイザイのメンでいうと、センキョセイジはシツパイかもしれない。タンジュンなキンケンセイジ（シサンにオウじてトウヒョウする。）のホウが、ケイザイテキにはまともかとおもう。タスウのリエキばかりがダイジだとはいえなさそうだから。ゲンザイのやりかたでは、「あかじ」も「コウケイキ」のシゲンになっているといえるだろう。「おかげさまで」というわけである。

## ヒャクロクジュウキュウ

どうもサイキンむかしながらのとけいと、よくつかわれているジコクがあわない。なぜ、そういうことがおきるか。とけいはセイジョウとしてかんがえると、チキュウのカイテンのはやさがかわって、イッシュウサンビャクロクジュウゴニチをいじするために、あたらしいイチビョウのながさをつかいだしたか、サイキンのデンチのデンアツがたかくなったのか、のふたつがかんがえられる。とけいがわるいとかいかえるひともいるだろうが、それだと、ヨケイなシュツピで、とけいやがもうかる。コウキュウでどけいをかいかえたらタイヘンだ。それならそれでちょっとデンアツのひくいデンチをつかえばいいだろう。

いまのところどちらかはわからないが、とにかく、そういうモンダイがある。いつのまにかイチビョウのながさがかわっているというのはかんがえものだ。

## ヒャクななジュウ

サイキンはかなりこまかいことをケンキュウしているようだ。カガクは「わける（エスシーアイ）」というイミがあるから、ダンダンこまかいホウに行くのはむりもない。しかし、あるおおきさよりちいさければ、まったくみえないであろう。チキュウのなかにちいさいチテキなものがあったとしても（●ヒャクサンジュウなな）、わからないだろう。しかし、おおきいものはみえる。ウチュウのそとにおおきいながかいたとしたら、うまくやればみえるだろう。だから、カガクはおおきいものをみるホウがカンタンだろう。

## ヒャクななジュウイチ

へやのまるいケイコウトウからでたひかりがテーブルをてらすと、かげができる。それはむかしからわかっていたのだが、テーブルのそれぞれのかげのカクドにサがある。コウゲンがタイヨウコウだったらそれはほとんどかんじないであろう（しかし、サはある）。それできづいた。コウゲンがまるいからかげにカクドができるのだと。もっとかんがえると、かげのカクドのサをはかれば、テーブルのあしドウシのキヨリがわかるし、コウゲンへのキヨリがわかるだろう。ザンネンながら、いまのところははかっていない。とおいほしもそうやってはかれば、キヨリがだせるだろう。

## ヒャクななジュウニ

エーアイとロボットがマニュアル（サギョウテジュンシヨ）にできるしごとをするようになるのかいた（●ヒャクゴジュウサン）。そうすると、ニンゲンやエーアイやロボッ

トをプログラムするひとと、プログラムされるなにかのみつつにわかれる。だから、プログラムするひとは、ガッコウにいけばよいが、プログラムされるホウは、ガッコウに  
いってチシキをみにつけてもしょうがない。プログラムするなにかのことをきいて、  
うごけばいいだけだからだ。それなら、ダイガクだけでなく、コウコウにもいかないで、  
はたらいたホウがいいかもしれない。シヨクギョウジョウのギジュツがみにつくからだ。  
プログラムするホウに、こどもをまわらせたかったら、ヨウジキから、プログラムをま  
なばせるといいかもしれない。プログラムのガクシュウといっても、そのまえにニホ  
ンゴやエイゴだろう。ニホンゴでかかれたプログラムはゲンジョウすくないだろうから、  
いえでつかうことばはエイゴにしたホウがいいかもしれない。もっといえばキカイゴだ  
ろう。そうやって、シヨウガッコウでみならいのプログラマー、チュウガッコウではたら  
けるプログラマーになるかもしれない。いえでも、「おかあさん、ボク、サンジユウギョ  
ウめのヘンスウがいいんだけど。」「そうね、ロクジュウイチギョウめのヘンスウもいい  
わよ。もし、あなたのキゲンがわるくなければ。」「それなら、『それでいいよ。』とヒョ  
ウジするよ。」といったかんじではなすのがいいかもしれない。しかし、そういうプログ  
ラムからキヨリをとっていきることもしるだろう。

#### ヒャクななジュウサン

あかじはシゲンであるというはなしをした（●ヒャクロクジュウハチ）。だれかがあかじ  
をひきうけないと、リエキはでないからである。その「リエキ」のブンを「あかじ」と  
みないむきもある。しかし、だれかがださなければ、「リエキ」はでない。だから、いい  
セイヒンをつくるのだろう。そうすれば、「あかじ」のブンまでよろこんではらってくれる。  
そういうわけで、イチバンリエキをだしているキギョウは、あかじあつめがもっと  
もうまいといえる。

あかじをよろこんでだすならそれもいいだろう。しかし、あかじをだしたくないひとも  
いるだろう。どうも、フケイキのときには、あかじをだすのをためらうひとがおおいよ  
うだ。そうすると、カイシャのホウでもギョウセキがおちるのだろうけど。「フケイキ」  
だとモンダイにするけれど、シゼンなコウバイカツドウもいいとおもう。

#### ヒャクななジュウよん

フケイキだと、セイフに、「コウキョウジギョウをやれ。」といいだす。そうすると、ミ  
ンカンのリエキがイジできるからだ。ニホンのコクナイソウセイサンがゴヒャクチョウ  
エンほどで、うちゴパーセントをリエキとしてだしているとする。どこもあかじをださ  
なくなったら（ヒャクエンのものをヒャクニジュウエンでかいたら、うりてにとっては、  
ニジュウエンのリエキだが、かいてにとっては、ニジュウエンのあかじだ。）、ニジュウ  
ゴチョウエンのリエキはでなくなる。だから、あかじをだしてくれるだれかをさがす。  
まったくものがうれなくなるというのは、かんがえられないので、ハンブンのジュウニ

テンゴチョウエンが、リエキとしてでなくなったとしよう。そのところに、セイフがジュウニテンゴチョウエンはらえば、いつもどおりのリエキとなる。だから、コウキョウジギョウをもとめるひとがいる。

しかし、いってみれば、まいとし、エイヨウザイをうっているようで、ケンゼンとはいえない。ミンカンのジギョウはミンカンでやればいい。そうかんがえると、ニホンジンは、ジュウニテンゴチョウエンブンのはたらきがたりていないことになる。ひとりあたり、ネンカンジュウニテンゴチョウエンブンヨケイにはたらけば、コウキョウジギョウをたのみにすることはない。いまは、ひとでがたりないといっているが、むかしのことばにあるように、「おごれるものひさしからず。ただはるのよのゆめのごとし。」だ。エイヨウザイなしでうまくできなければならないだろう。

#### ヒャクななジュウゴ

エーアイはジョウホウがなければただのケイサンキだ。それがつかえるジョウホウがヒツヨウとなる。だから、チョサクケンにしたがってショリすれば、ケンリシャのキョダクなしにケイサンできない。

あまりそういうシュチョウはきかないが、エーアイのリヨウシャにそういうケイヤクをさせることもできる。だから、エーアイがすごいといっても、それなりにおれいなどのヒヨウがヒツヨウとなるだろう。ジョウホウはただとおもっているひともあるかもしれないが、かならずしもそうではない。そういうわけで、エーアイ「リヨウシャ」むけのジョウホウサービスもコンゴさかんになるようにおもう。

#### ヒャクななジュウロク

コトシは、わがやのぶどうはやすんでいたが、かきがよくなった。とてもうちではたべきれないほどなった。むかしのひとなら、ほしがきにするなどして、たべつづけるのだろうが、あいにくわたしは、ほしがきをつくったことがない。カンソウさせたパイナップルがタイヘンおいしかったので、そういうかんじにしてみようかとおもう。ショウチュウにつけるのはいまいちで、レイトウコでのホゾンもいまいちだった。おいしいたべかたをケンキュウしたいとおもう。

#### ヒャクななジュウなな

キョネン、むくどりがうちのちかくにすをつくったとかいたが（●『よ』ヒャクよんジュウ）、どうやら、そこはうちのやねのうらだったようだ。やねのうらにおおきなあながあいていた。それをサイキンなおしてもらったが、とりもあまくみるとキケンらしい。

あとがき

コトシのなつにつづいて、もうイッサクだすことになった。まだこれからカツジにするので、イッカゲツイジョウはかかるが、ズイブンタサクになったともおもう。あまりタクサンのひとにはよんでもらえていないが、ジブンのためにもなるからいいとおもっている。わたしのケンキュウノートというカンもあるからだ。

キホンテキにわたしがみつけたこと、かんがえたことをかいているので、わたしのシュチョウがおそいブン、ジョウシキテキなひとには、「それは、『むかしに』だれだれがいったことだ。」などとシテキをうけてしまうことがあるだろう。しかし、それはともかく、わたしが、みつけたこと、かんがえたことなのである。わたしがみつけたり、かんがえたりするのが、ジョウシキテキなひとからみれば、おそかったかもしれないが、ジシンをもって「オリジナル（イチジジョウホウがおおい。）」といえる。そういうわけなので、カンシンをもたれたかたがよんでくださればとおもう。また、イッサツかくことになるとおもう。

ニセンジュウハチネン ジュウイチガツ よっか

スーペリアーをみつけた。

エイゾウ

ニセンジュウキュウネンシガツトオカ

ニセンニジュウイチネンクガツトオカ

iii toga db005-2

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ  
ドシーオーエム

ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド  
シーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニューできます。

<http://eizo09.com>

---

『スーペリアーをみつけた。』

---

著 エイゾウ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---